



平成29年度
富士山麓外来植物等調査業務委託

報 告 書

(抜粋)

平成30年1月

株式会社 環境アセスメントセンター



図 1.4.1 調査場所位置図 (広域図)

①富士山スカイライン 約 7.0km

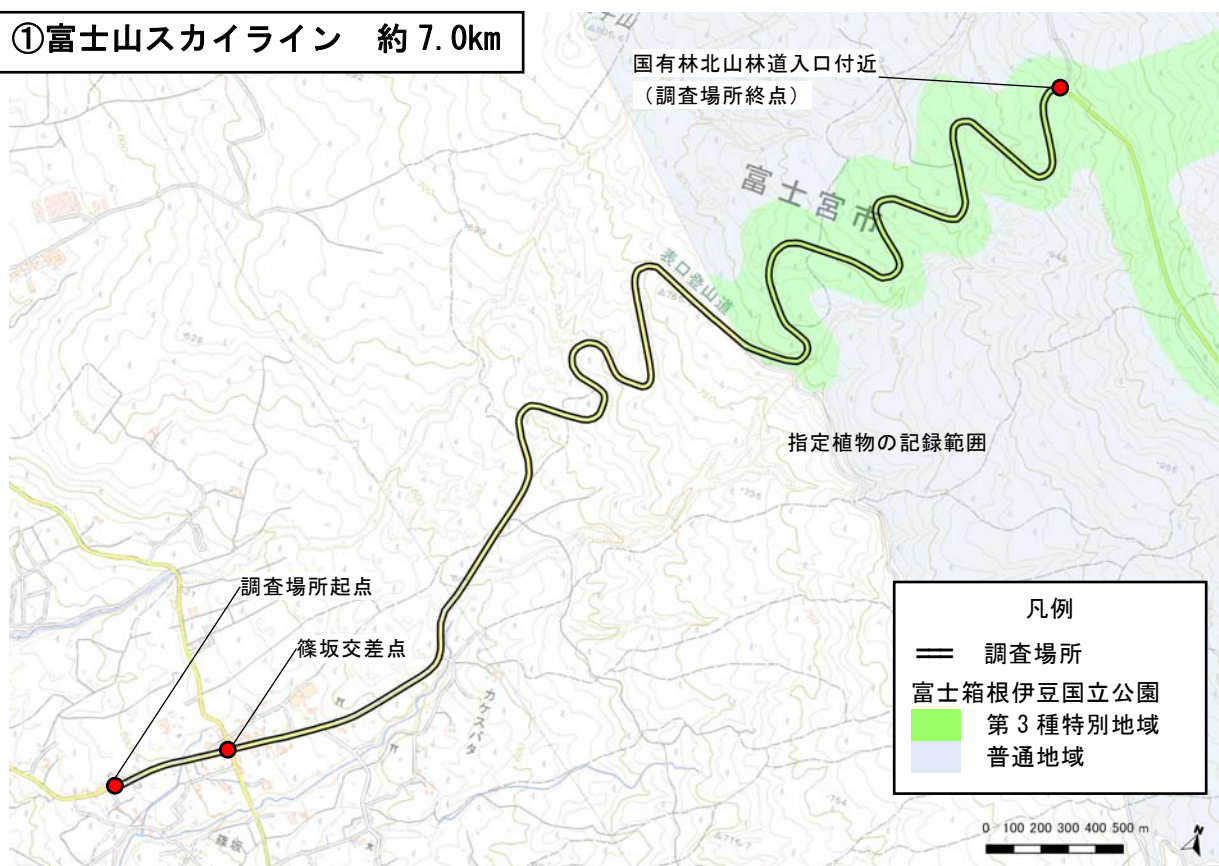


図 1.4.2 調査場所位置図 (①富士山スカイライン (篠坂交差点付近～国有林北山林道入口付近))

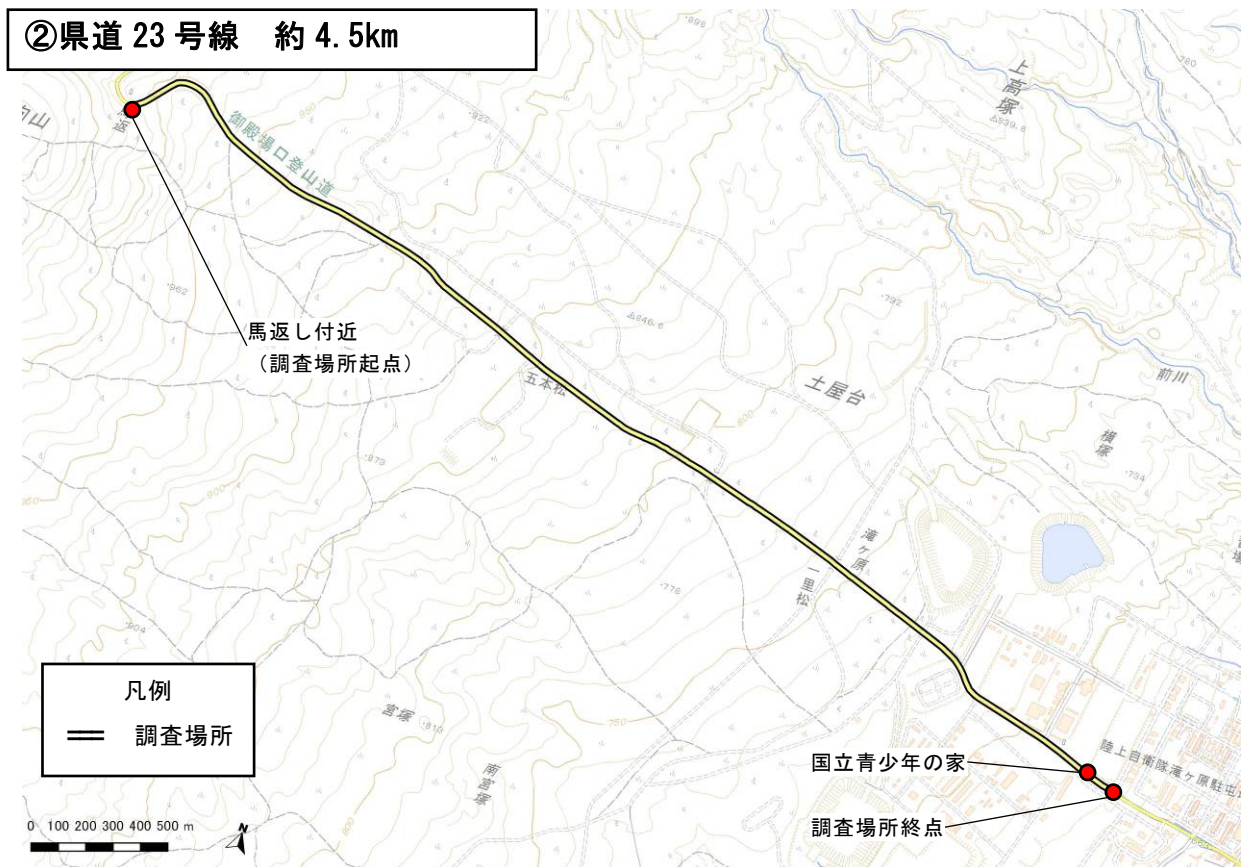


図 1.4.3 調査場所位置図（②県道 23 号線（国立青少年の家付近～御殿場口登山道（馬返し付近）））

1.6 現地調査

1.6.1 調査対象種

本業務の調査対象は、貴重な植物(選定基準は表 1.6.1 参照)、外来植物(選定基準は表 1.6.2 参照)とした。この他、本調査場所のうち富士山スカイラインの一部(約 2.9km)が富士箱根伊豆国立公園特別地域(第 3 種特別地域)に含まれることから(図 1.6.1 参照)、当該の国立公園内指定植物を調査対象として追加した(選定基準は表 1.6.3 参照)。

なお、外来植物については、平成 27 年 3 月 26 日に、生物多様性の保全、外来種対策の進展を図ることを目的に、我が国において生態系等に被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるなど、特に侵略性が高い外来種を掲載した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(以下、生態系被害防止外来種リスト)」が、環境省より公表された。同時に、平成 26 年度まで調査対象としていた「要注意外来生物」(外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではないが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力が求められるもの)は、この生態系被害防止外来種リストの作成により、発展的に解消されることとなった。ただし、本業務の継続性を考慮し、生態系被害防止外来種リストに含まれていないが、平成 26 年度まで調査対象としていた外来植物 5 種(旧要注意外来生物：メマツヨイグサ、ヘラオオバコ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ハルジオン)も調査対象に加えることとした。

表 1.6.2 外来植物選定基準

法律等	カテゴリ	
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号) (最終改正:平成 26 年 6 月 13 日 法律第 69 号) 【外来生物法】	特定外来生物	
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(環境省報道発表資料「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について(お知らせ),平成 27 年 3 月 26 日) 【生態系被害防止外来種リスト】	定着予防外来種	侵入予防外来種
		その他の定着予防外来種
	総合対策外来種	緊急対策外来種
		重点対策外来種
		その他の総合対策外来種
	産業管理外来種	
旧要注意外来生物 ^{注 3)}	過年度調査で調査対象としていた外来植物	

注 1) 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方
(被害の深刻度)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

注 2) 利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。掲載種には種毎に利用状況や利用上の留意事項を記載しており、産業管理外来種については利用上の留意事項に沿って適切な管理を行うことが期待される。

注 3) 要注意外来生物：外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではないが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力が求められるもの。「生態系被害防止外来種リスト」(平成 27 年 3 月 26 日)の作成により、本区分は発展的に解消された。

2.1.3 外来植物

(1) 結果概要

本調査の対象の外来植物は、9 科 32 種 99,696 個体を確認した。確認状況を表 2.1.9 に示す。

特定外来生物は 1 種（オオキンケイギク）、生態系被害防止外来種リスト掲載種は 27 種（イタチハギ、セイヨウタンポポ、カモガヤ、ハルガヤなど）、過年度調査で調査対象としていた外来植物は 5 種（メマツヨイグサ、ヘラオオバコなど）であった。

富士山スカイラインは県道 23 号線に比べ、外来植物の種数、区画数、地点数が多かったが、外来植物の個体数は、県道 23 号線に比べて少なかった。県道 23 号線では、ハルガヤの確認個体数が多く、全体として外来植物確認個体数が多くなったと考えられる。

表 2.1.9 外来植物確認状況（分類群順）

No.	科名	種名	外来 生物法 注1)	生態系被 害防止外 来種リス ト注2)	過年度調査 で調査対象 としていた 外来植物	富士山スカイ ライン			県道 23 号線			総計		
						上下線合計			上下線合計					
						区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
1	タデ	ヒメスイバ	-	その他		1	1	10	1	1	5	2	2	15
2		エゾノギシギシ	-	その他		3	6	26	-	-	-	3	6	26
3	アブラナ	ハルザキヤマガラシ	-	その他		8	13	104	-	-	-	8	13	104
4	マメ	イタチハギ	-	重点		3	4	27	1	1	3	4	5	30
5		アレチヌスビトハギ	-	その他		4	4	6	-	-	-	4	4	6
6		ハリエンジュ	-	産業		-	-	-	1	6	8	1	6	8
7	アカバナ	メマツヨイグサ	-	-	○	13	19	47	10	22	55	23	41	102
8		コマツヨイグサ	-	重点		2	2	110	-	-	-	2	2	110
9	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	-	重点		3	3	605	-	-	-	3	3	605
10	アカネ	オオフタバムグラ	-	その他		-	-	-	4	27	368	4	27	368
11	オオバコ	ヘラオオバコ	-	-	○	13	29	243	15	86	5,885	28	115	6,128
12	キク	オオブタクサ	-	重点		1	1	1	-	-	-	1	1	1
13		アメリカセンダングサ	-	その他		11	24	61	2	3	6	13	27	67
14		フランスギク	-	その他		10	23	559	3	5	22	13	28	581
15		オオアレチノギク	-	-	○	73	185	399	9	42	99	82	227	498
16		オオキンケイギク	特定	緊急		-	-	-	2	2	2	2	2	2
17		ヒメムカシヨモギ	-	-	○	35	79	123	10	20	61	45	99	184
18		ハルジオン	-	-	○	122	789	15,987	68	284	1,885	190	1,073	17,872
19		セイタカアワダチソウ	-	重点		29	42	208	21	54	488	50	96	696
20		ヒメジョオン	-	その他		102	303	4,007	75	226	778	177	529	4,785
21		セイヨウタンポポ ^{注3)}	-	重点		138	1,849	7,770	78	422	873	216	2,271	8,643
22		ペラペラヨメナ	-	その他		4	15	373	-	-	-	4	15	373
23	イネ	コヌカグサ	-	産業		5	12	410	-	-	-	5	12	410
24		メリケンカルカヤ	-	その他		7	14	309	7	29	475	14	43	784
25		ハルガヤ	-	その他		12	34	2,652	62	457	48,215	74	491	50,867
26		カモガヤ	-	産業		21	70	514	52	442	4,670	73	512	5,184
27		オニウシノケグサ	-	産業		2	2	6	-	-	-	2	2	6
28		ナギナタガヤ	-	産業		2	2	19	-	-	-	2	2	19
29		オオクサキビ	-	その他		1	2	3	-	-	-	1	2	3
30		シマスズメノヒエ	-	その他		1	1	3	-	-	-	1	1	3
31		オオアワガエリ	-	産業		-	-	-	8	10	49	8	10	49
32		マダケ ^{注4)}	-	産業		6	12	1,167	-	-	-	6	12	1,167
計	9 科	32 種	1 種	27 種	5 種	632	3,540	35,749	429	2,139	63,947	1,061	5,679	99,696

注 1) 特定：特定外来生物

注 2) 緊急：緊急対策外来種、重点：重点対策外来種、その他：その他の総合対策外来種、産業：産業管理外来種

注 3) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

注 4) マダケは生態系被害防止外来種リストの「モウソウチクなどの竹類」に該当する。

富士山スカイラインの調査区画数は上下線合わせて 140 区画であり、県道 23 号線の 90 区画と比較して 50 区画多い。各路線での外来植物の確認状況を比較するため、調査区画あたりの外来植物確認状況を表 2.1.10 に整理した。

調査区画あたりの外来植物確認種数は、富士山スカイライン、県道 23 号線ともに 0.2 種であり差はなかった。調査区画あたりの外来植物確認区画数、調査区画あたりの外来植物確認個体数は県道 23 号線が多かった。反対に、調査区画あたりの外来植物確認地点数は富士山スカイラインが県道 23 号と比較して多かった。調査区画あたりの外来植物確認地点数が少なく、調査区画あたりの外来植物確認区画数及び調査区画あたりの外来植物確認個体数が多いことから、県道 23 号線では、1 地点あたりの外来植物確認個体数が多く、外来植物の分布範囲が面的に広がっている箇所が多いことが示唆された。

表 2.1.10 調査区画あたりの外来植物確認状況

路線名		富士山スカイライン	県道 23 号線
調査区画数（上下線）		140 区画	90 区画
外来植物確認状況	確認種数	29 種	19 種
	確認区画数	632 区画	429 区画
	確認地点数	3,540 地点	2,139 地点
	確認個体数	35,749 個体	63,947 個体
調査区画あたりの 外来植物確認状況	確認種数/調査区画数	0.2 種	0.2 種
	確認区画数/調査区画数	4.5 区画	4.8 区画
	確認地点数/調査区画数	25.3 地点	23.8 地点
	確認個体数/調査区画数	255.4 個体	710.5 個体

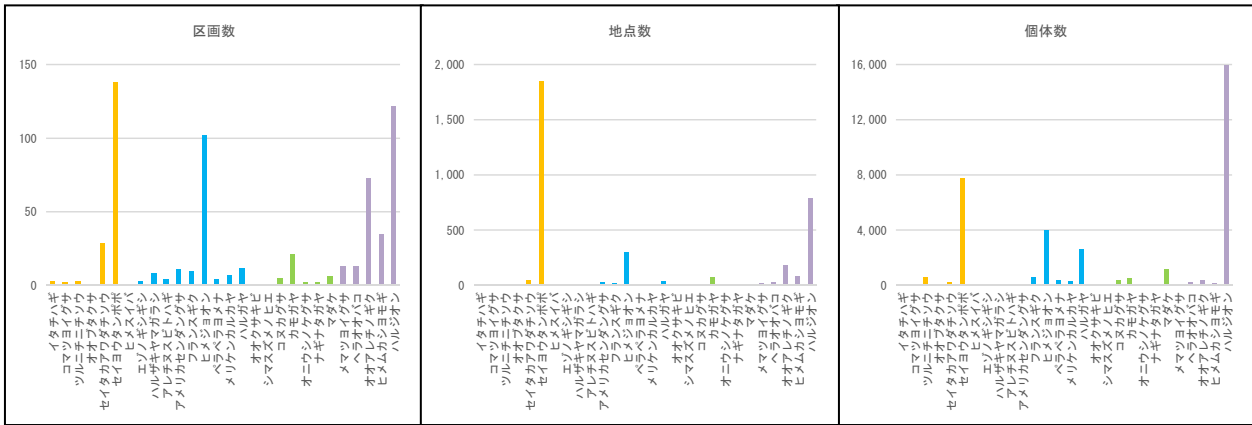
路線別にみると、富士山スカイラインでは外来植物 8 科 28 種の確認があり、個体数はハルジオンが最も多く、次いでセイヨウタンポポ、ヒメジョオン、ハルガヤ、マダケ、ツルニチニチソウの順であった。ヒメスイバ、シマスズメノヒエ、オオブタクサは 1 地点のみの確認で、個体数も少なかった。

表 2.1.11 富士山スカイラインの外来植物確認状況（カテゴリ順）

外来植物 選定基準	カテゴリ		科名	種名	富士山スカイライン								
					上り線			下り線			小計		
					区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
生態系被害 防止外来種 リスト	総合 対策 外来種	重点対策 外来種	マメ	イタチハギ	3	4	27	-	-	-	3	4	27
			アカバナ	コマツヨイグサ	2	2	110	-	-	-	2	2	110
			キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	1	1	500	2	2	105	3	3	605
			キク	オオブタクサ	-	-	-	1	1	1	1	1	1
				セイタカアワダチソウ	16	27	88	13	15	120	29	42	208
			セイヨウタンポポ ^{注1)}	68	1014	4,843	70	835	2,927	138	1,849	7,770	
		その他の 総合対策 外来種	タデ	ヒメスイバ	1	1	10	-	-	-	1	1	10
				エゾノギシギシ	2	5	25	1	1	1	3	6	26
			アブラナ	ハルザキヤマガラシ	6	11	83	2	2	21	8	13	104
			マメ	アレチヌスビトハギ	3	3	3	1	1	3	4	4	6
	キク		アメリカセンダングサ	4	6	16	7	18	45	11	24	61	
	産業管理 外来種		フランスギク	6	16	230	4	7	329	10	23	559	
			ヒメジョオン	46	122	2,228	56	181	1,779	102	303	4,007	
			ペラペラヨメナ	3	13	368	1	2	5	4	15	373	
		イネ	メリケンカルカヤ	4	6	141	3	8	168	7	14	309	
			ハルガヤ	6	18	2,350	6	16	302	12	34	2,652	
			オオクサキビ	-	-	-	1	2	3	1	2	3	
			シマスズメノヒエ	1	1	3	-	-	-	1	1	3	
			イネ	コヌカグサ	3	9	245	2	3	165	5	12	410
			カモガヤ	13	56	460	8	14	54	21	70	514	
		オニウシノケグサ	-	-	-	2	2	6	2	2	6		
	ナギナタガヤ	-	-	-	2	2	19	2	2	19			
		マダケ ^{注2)}	3	5	815	3	7	352	6	12	1,167		
旧要注意 外来生物	過年度調査 で調査対象 としていた 外来植物	アカバナ	メマツヨイグサ	8	10	35	5	9	12	13	19	47	
		オオバコ	ヘラオオバコ	7	12	142	6	17	101	13	29	243	
		キク	オオアレチノギク	36	98	234	37	87	165	73	185	399	
			ヒメムカシヨモギ	20	47	75	15	32	48	35	79	123	
			ハルジョオン	62	428	12,506	60	361	3,481	122	789	15,987	
計			8 科	28 種	324	1,915	2,553	308	1,625	10,212	632	3,540	35,749

注1) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

注 2) マダケは生態系被害防止外来種リストの「モウソウチクなどの竹類」に該当する。



凡例) : 重点対策外来種、 : その他の総合対策外来種、 : 産業管理外来種、 過年度調査で調査対象としていた外来植物

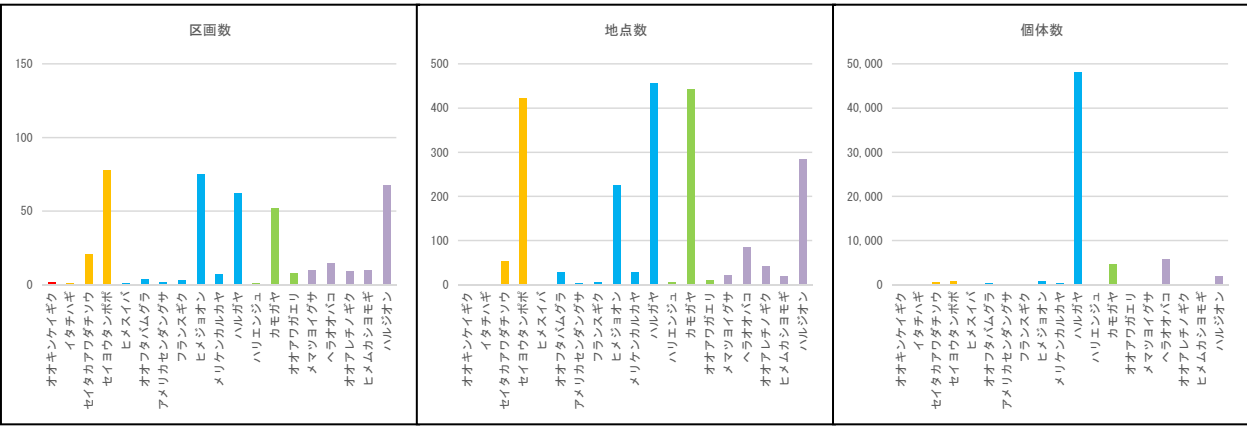
図 2.1.22 富士山スカイラインの外来植物確認状況

県道 23 号線では、外来植物 7 科 19 種の確認があり、個体数はハルガヤが最も多く、次いでヘラオオバコ、カモガヤ、ハルジオン、セイヨウタンポポの順であった。ヒメスイバ、イタチハギは 1 地点のみの確認で、個体数も少なかった。

表 2.1.12 県道 23 号線の外来植物確認状況（カテゴリ順）

外来植物 選定基準	カテゴリ	科名	種名	県道 23 号線									
				上り線			下り線			小計			
				区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	
外来生物法	特定外来生物												
生態系被害 防止外来種 リスト	総合 対策 外来種	緊急対策 外来種	キク	オオキンケイギク	2	2	2	-	-	-	2	2	2
			マメ	イタチハギ	-	-	-	1	1	3	1	1	3
		重点対策 外来種	キク	セイタカアワダチソウ	14	38	422	7	16	66	21	54	488
				セイヨウタンポポ ^{注1)}	34	133	193	44	289	680	78	422	873
		その他の 総合対策 外来種	タデ	ヒメスイバ	-	-	-	1	1	5	1	1	5
			アカネ	オオフタバムグラ	4	27	368	-	-	-	4	27	368
			キク	アメリカセンダングサ	1	1	1	1	2	5	2	3	6
				フランスギク	2	4	21	1	1	1	3	5	22
				ヒメジョオン	42	140	413	33	86	365	75	226	778
			イネ	メリケンカルカヤ	5	21	431	2	8	44	7	29	475
				ハルガヤ	32	283	17,263	30	174	30,952	62	457	48,215
	産業管理 外来種	マメ	ハリエンジュ	-	-	-	1	6	8	1	6	8	
		イネ	カモガヤ	20	101	831	32	341	3,839	52	442	4,670	
			オオアワガエリ	1	1	20	7	9	29	8	10	49	
旧要注意 外来生物	過年度調査 で調査対象 としていた 外来植物	アカバナ	メマツヨイグサ	2	6	7	8	16	48	10	22	55	
		オオバコ	ヘラオオバコ	8	14	39	7	72	5,846	15	86	5,885	
		キク	オオアレチノギク	5	25	71	4	17	28	9	42	99	
			ヒメムカシヨモギ	4	5	10	6	15	51	10	20	61	
			ハルジオン	36	132	700	32	152	1,185	68	284	1,885	
		計	7 科	19 種	212	933	20,792	217	1,206	43,155	429	2,139	6,3947

注 1) セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。



凡例) ■：特定外来生物、■：重点対策外来種、■：その他の総合対策外来種、■：産業管理外来種、■：過年度調査で調査対象としていた外来植物

図 2.1.23 県道 23 号線の外来植物確認状況

(2) 外来植物の種ごとの確認状況

外来植物の種ごとの確認状況を以下に示す。外来植物の解説については、主に環境省ホームページにおいて公表されている「生態系被害防止外来種リスト選定の根拠情報」より引用したが、必要に応じて「要注意外来生物に係る情報及び注意事項（環境ホームページ）※要注意外来生物リストは平成 27 年 3 月 26 日をもって発展的に解消されている」や図鑑等から引用し整理した。

1) 特定外来生物、総合対策外来種（緊急対策外来種）

① オオキンケイギク（キク科）

オオキンケイギクは、県道 23 号線の上り線で、2 区画 2 地点 2 個体を確認した。確認地点の環境は、道路脇の側溝とフェンスの間にある日当たりのよい草地であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。なお、フェンス奥に広がる法面（自衛隊敷地内）には、オオキンケイギクの分布はなかった。

また、富士山スカイラインでは生育の確認はなかった。

表 2.1.13 オオキンケイギク確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	2	－	－	－	2	2	2	2	2	2

表 2.1.14 オオキンケイギク確認状況



県道 23 号線上り線区画 No. 44

(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 44

(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



図 2.1.24 オオキンケイギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

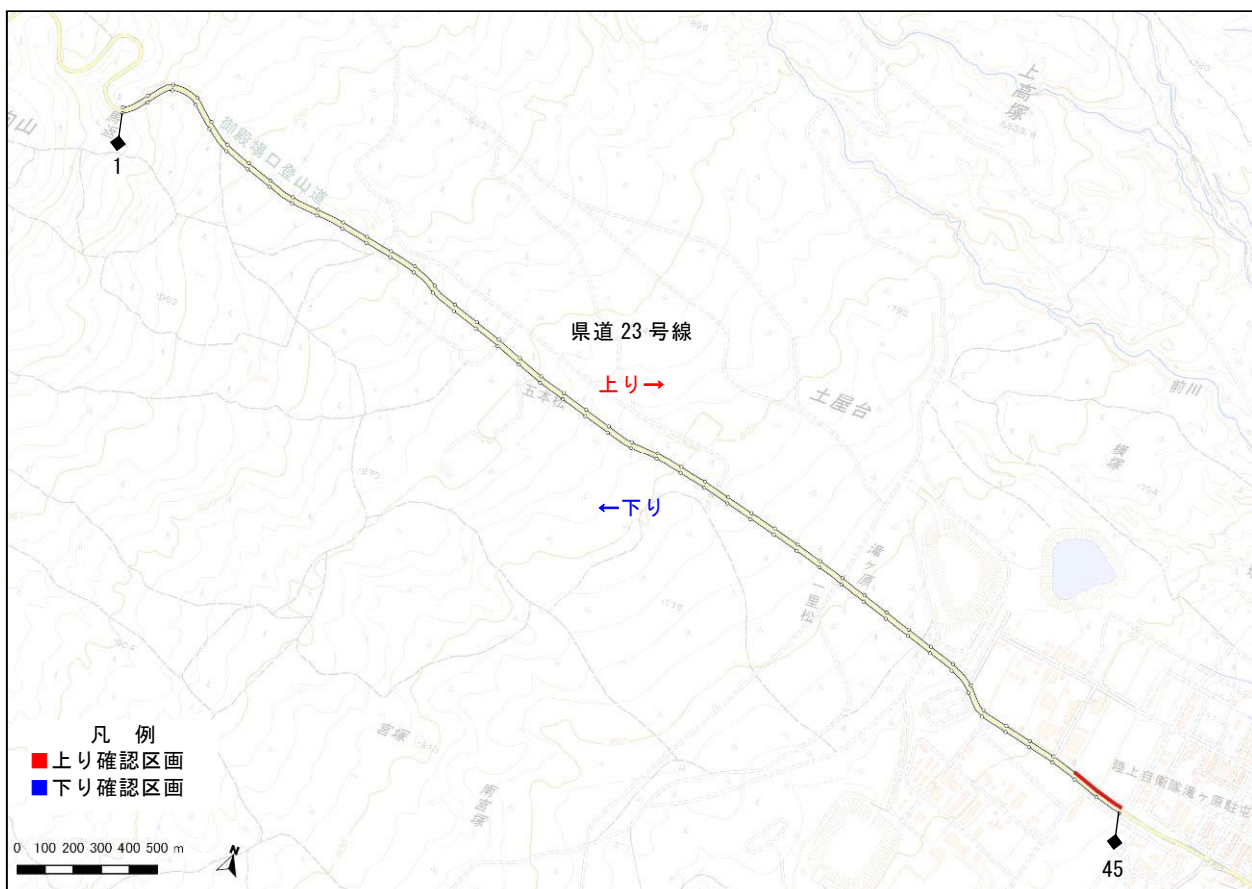


図 2.1.25 オオキンケイギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.15 種の解説（オオキンケイギク）

種名等 ¹⁾	オオキンケイギク（キク科） 別名・流通名：コレオプシス（ハルシャギク属の総称）
カテゴリ	外来生物法：特定外来生物 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（緊急対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。 （対策の実効性、実行可能性） ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河原の固有種の生育地。
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。世界各地で利用。日本へは明治中期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布。
特徴 ²⁾	多年草。花期は5-7月。頭状花は直径5-7cm、舌状花は黄橙色で花冠の先は不同に4-5裂する。筒状花も同じ色で花床に細長い鱗片がある。総苞片は2列につく。高さ30-70cmで、束生する。 茎葉は対生または時に一部互生し、狭倒披針形。根生葉は花時にも残り、長い柄があり、3-5小葉に分裂する。両面とも粗い毛がある。
生育環境等 ²⁾	温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸など、日当たりの良い所に生育する。
影響 ²⁾	河原で繁茂し、河原特有のカワラサイコやカワラナデシコなどの在来種と競争し、駆逐する事例が国内で見られている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 特定外来生物の見分け方（同定マニュアル） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>)

2) 総合対策外来種（重点対策外来種）

① イタチハギ（マメ科）

イタチハギは、富士山スカイラインの上り線で3区画4地点27個体を確認した。確認地点の環境は、道路脇の草地等であった。いずれの地点も、開花・結実の確認はなかった。富士山スカイラインの道路脇は、年数回程度草刈りが実施されていることから、イタチハギの開花・結実が抑制されているものと考えられる。

また、県道23号線の下り線で1区画1地点3個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の林縁部であった。5月調査時に開花前の蕾を確認しており、種子の散布による分布の拡大が懸念される。

表 2.1.16 イタチハギ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
3	4	27	－	－	－	3	4	27	－	－	－	1	1	3	1	1	3	4	5	30

表 2.1.17 イタチハギ確認状況



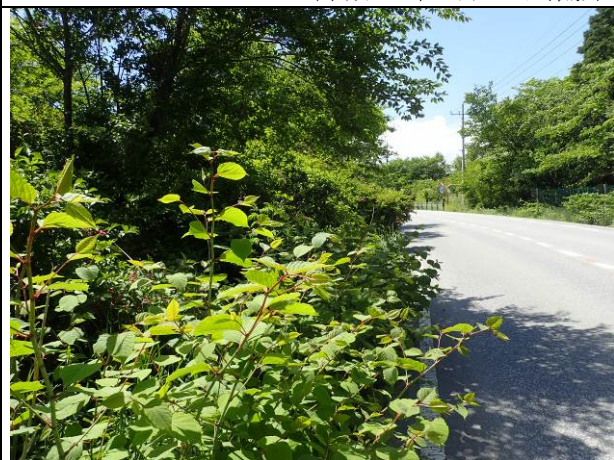
富士山スカイライン上り線区画 No. 53
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 53
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 38
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 38
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)

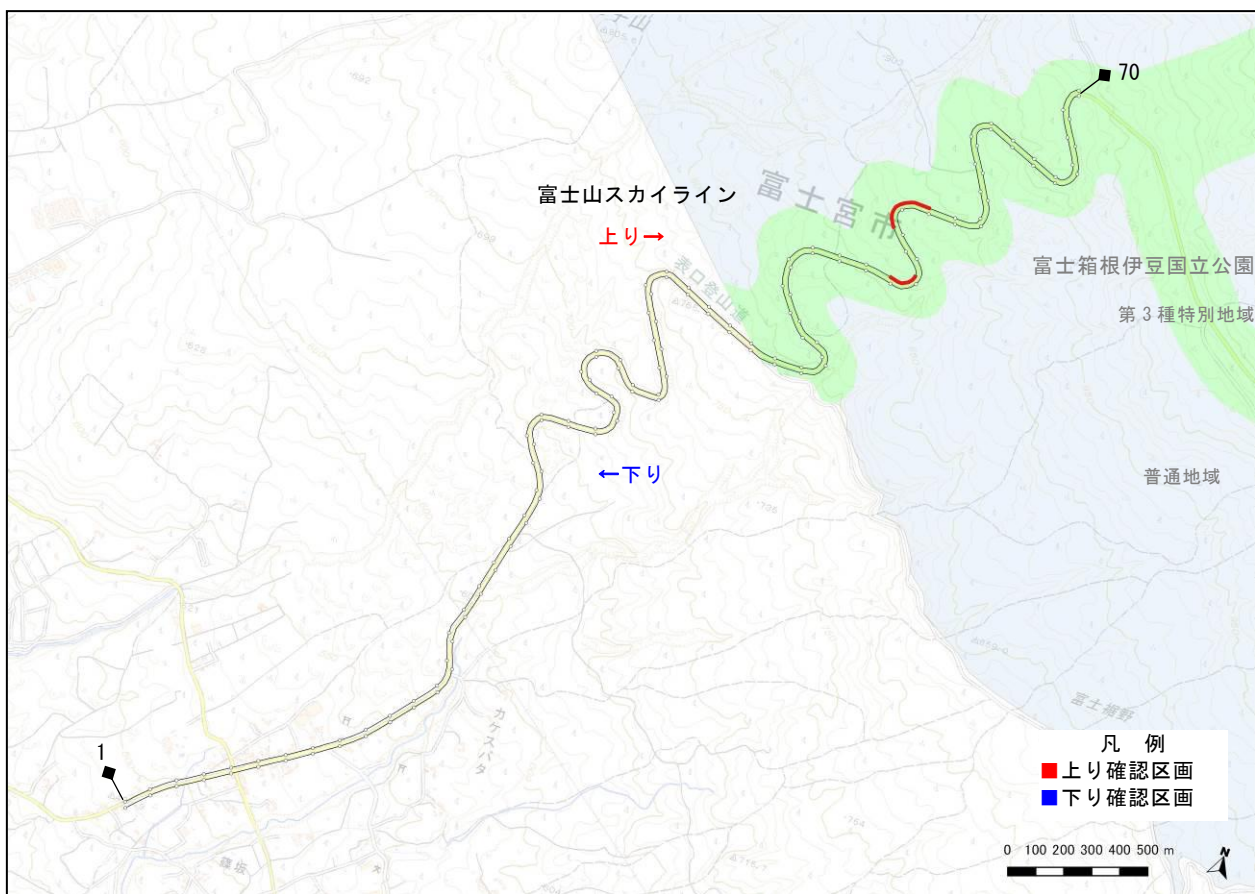


図 2.1.26 イタチハギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.27 イタチハギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.18 種の解説（イタチハギ）

種名等 ¹⁾	イタチハギ（マメ科） 別名・流通名：クロバナエンジュ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 Ⅴ．生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、アメリカ合衆国西部に分布。日本へは1912年に渡来。1940年代以降に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 3)}	落葉低木。高さ1-5mになる。花期は4-7月。虫媒の両性花をつける。生長が速く、耐暑性、耐乾性、耐陰性がある。空中窒素の固定を行い、土壌窒素を蓄積する。
生育環境等 ¹⁾	荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着し、生育する。
影響 ³⁾	自然性の高い亜高山帯等にも侵入し、霧ヶ峰等で在来種と競合し問題視されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

② コマツヨイグサ（アカバナ科）

コマツヨイグサは、富士山スカイラインの上り線で2区画2地点110個体を確認した。確認地点の環境は、路傍や道路脇の草地であった。9月調査時に開花・結実を確認した。種子の散布による分布の拡大が懸念される。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.19 コマツヨイグサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り			下り			小計			上り			下り			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
2	2	110	－	－	－	2	2	110	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	110

表 2.1.20 コマツヨイグサ確認状況



富士山スカイライン上り線区画No.7
(平成29年9月20日撮影)



富士山スカイライン上り線区画No.7
(平成29年9月20日撮影)

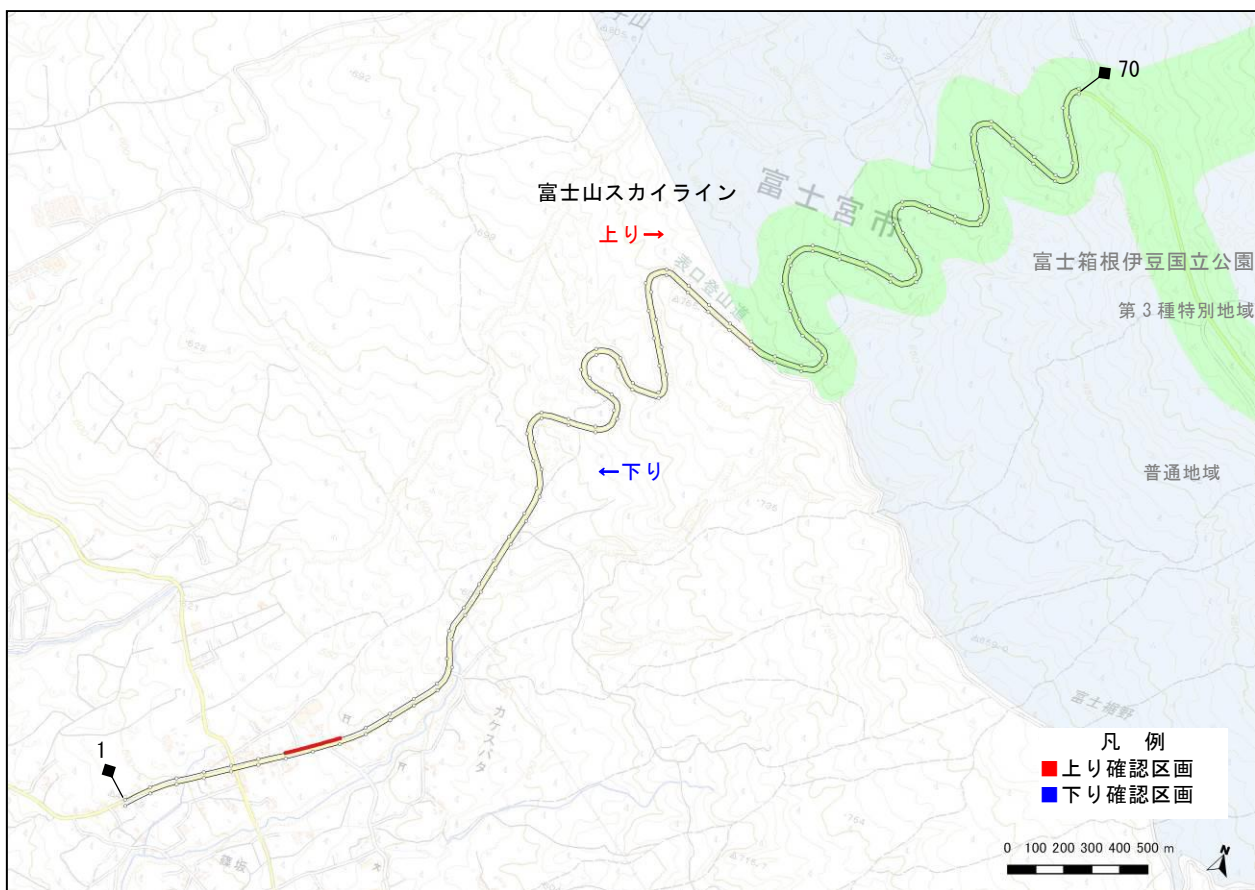


図 2.1.28 コマツヨイグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.29 コマツヨイグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.21 種の解説（コマツヨイグサ）

種名等 ¹⁾	コマツヨイグサ（アカバナ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂浜
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ東部原産。温帯～亜熱帯に分布。日本へは 1910 年に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原に分布。
特徴 ^{1), 3)}	一年草または短命な多年草で、高さは 5-50cm 程度だが、時に 100cm になる。花期は 5-6 月。
生育環境等 ¹⁾	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地に生育する。
影響 ^{1), 3)}	鳥取砂丘では、非砂丘植物の一つとして分布の拡大が問題になっている。河川敷等の在来種と競合し、駆逐するおそれがある。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

③ ツルニチニチソウ（キョウチクトウ科）

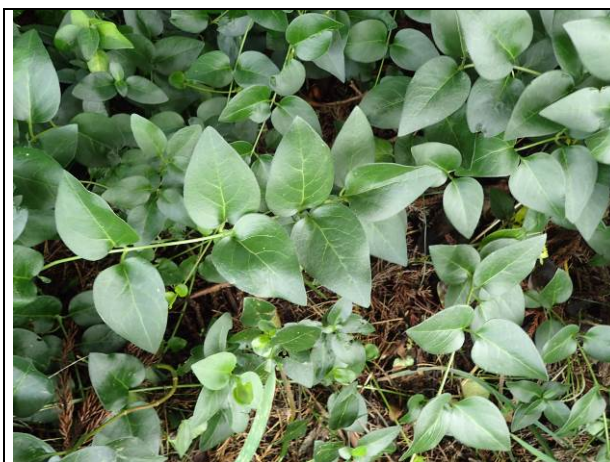
ツルニチニチソウは、富士山スカイラインの上り線で 1 区画 1 地点 500 個体、下り線で 2 区画 2 地点 105 個体、計 3 区画 3 地点 605 個体を確認した。確認地点の環境は、スギ・ヒノキ植林、道路脇の草地であった。いずれの地点も開花・結実の確認はなかった。

また、県道 23 号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.22 ツルニチニチソウ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
1	1	500	2	2	105	3	3	605	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	3	605

表 2.1.23 ツルニチニチソウ確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 8
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 8
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)

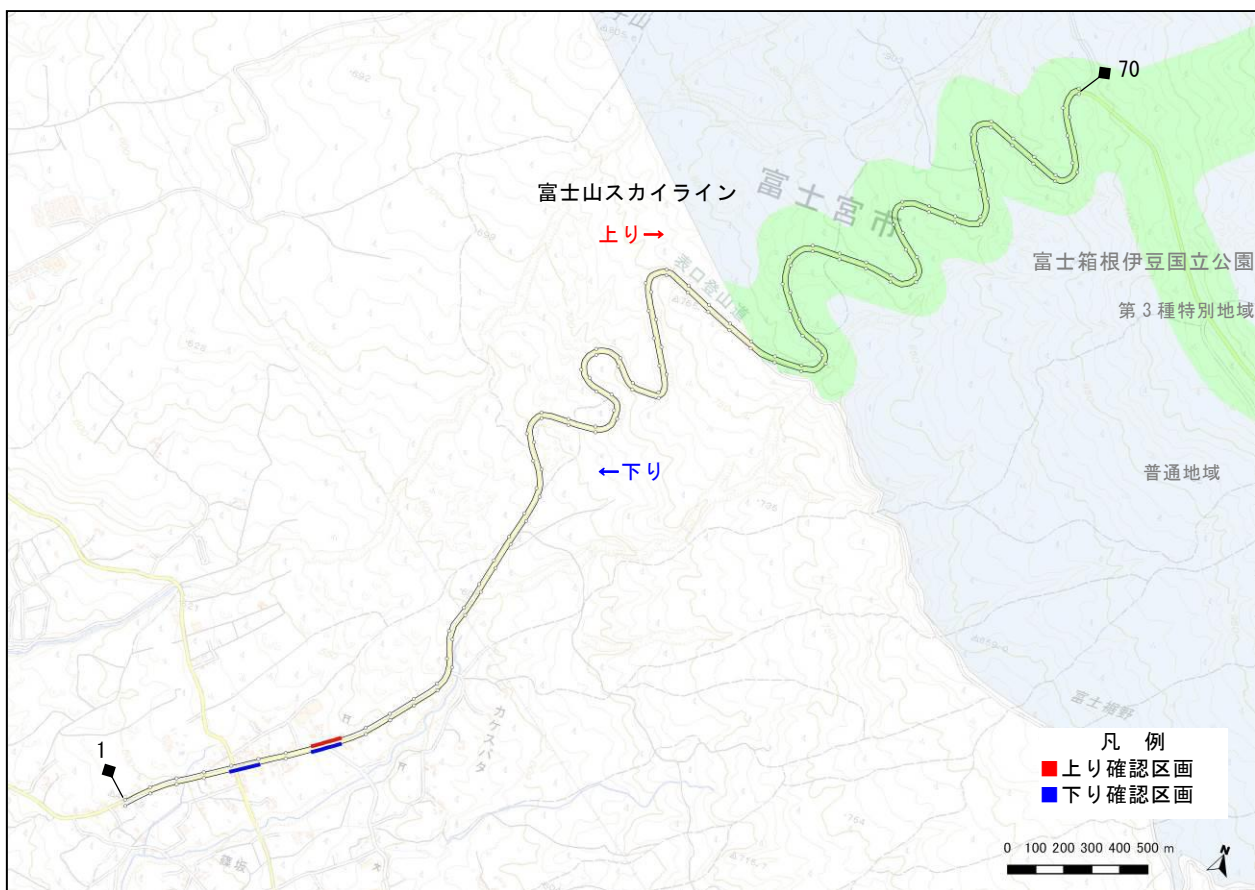


図 2.1.30 ツルニチニチソウの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.31 ツルニチニチソウの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.24 種の解説（ツルニチニチソウ）

種名等 ¹⁾	ツルニチニチソウ（キョウチクトウ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	二次林林床、草原、海岸砂浜
原産地・分布 ¹⁾	南ヨーロッパ原産。アフリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。日本へは明治時代に渡来、北海道、本州、九州、四国、琉球に分布。
特徴 ^{1), 5), 6)}	長さ 2m ほどになる、つる性の常緑多年草。花は 3-5 月、紫色で直径 4cm ほど。種子はあまりつくらない。
生育環境等 ¹⁾	観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育する。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。
影響 ¹⁾	河川で分布拡大傾向にあり、草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁茂するので、在来植物への影響は大きい。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

出典 6) 清水矩宏, 広田伸七, 森田 弘彦(2001)日本帰化植物写真図鑑, 全国農村教育協会.

④ オオブタクサ（キク科）

オオブタクサは、富士山スカイラインの下り線で1区画1地点1個体を確認した。確認地点の環境は、道路脇の草地であった。9月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.25 オオブタクサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	1	1	1	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1

表 2.1.26 オオブタクサの確認状況

	
富士山スカイライン下り線区画 No. 41 (平成 29 年 9 月 20 日撮影)	富士山スカイライン下り線区画 No. 41 (平成 29 年 9 月 20 日撮影)

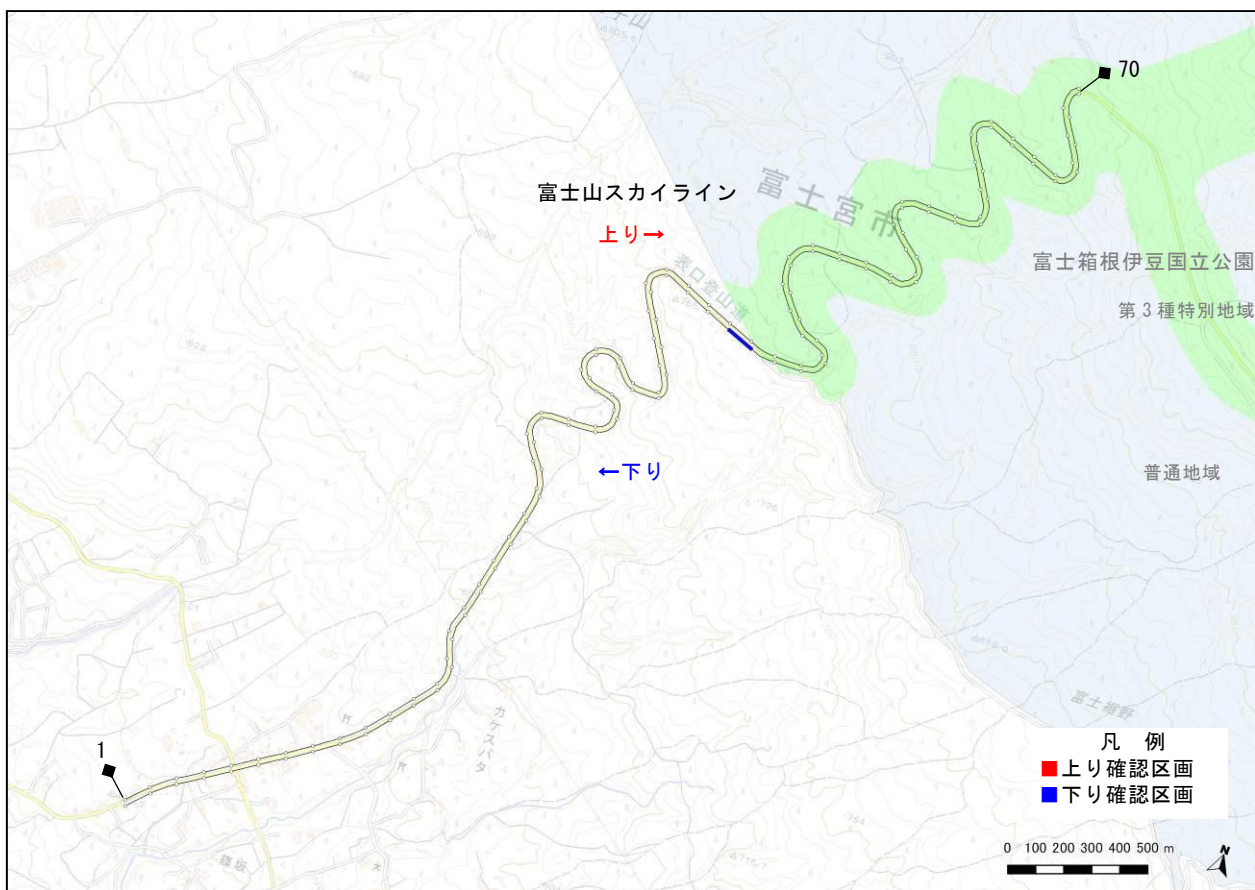


図 2.1.32 オオブタクサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.33 オオブタクサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.27 種の解説（オオブタクサ）

種名等 ¹⁾	オオブタクサ（キク科） 別名・流通名：クワモドキ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	湿地や河原。
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布する。日本へは 1952 年渡来、北海道～九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 3)}	一年草で、高さ 1.0-6.0m になる。花期は 7-10 月。雌雄同株。風媒花。瘦果は雨、鳥、人間により伝播される。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群生する。
影響 ³⁾	全国の河川敷等で繁茂して、在来種の駆逐などの影響を及ぼしている。 埼玉県荒川河川敷にある特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地では、オオブタクサの個体密度の増加に伴い、単位面積当たりの出現種数が減少することが報告されている。埼玉県上尾市にある荒川水系の三ツ又沼ビオトープでは、オオブタクサが絶滅危惧種の生育地にまで侵入しているため、影響を抑制するために市民参加による駆除が実施されている。天竜奥三河国定公園にある天竜川ではオオブタクサが上流全域でみられ、他の外来植物とともに、河川敷固有の植物が減少する原因の一つとなっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑤ セイタカアワダチソウ（キク科）

セイタカアワダチソウは、富士山スカイラインの上り線で16区画27地点88個体、下り線で13区画15地点120個体、計29区画42地点208個体を確認した。確認地点の環境は、路傍、道路脇の草地であった。9月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線の上り車線で14区画38地点422個体、下り線で7区画16地点66個体、計21区画54地点488個体を確認した。確認地点の環境は、路傍、道路脇の草地であった。9月調査時に開花を確認した。

表 2.1.28 セイタカアワダチソウ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
16	27	88	13	15	120	29	42	208	14	38	422	7	16	66	21	54	488	50	96	696

表 2.1.29 セイタカアワダチソウの確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 4
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 4
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 41
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 41
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)

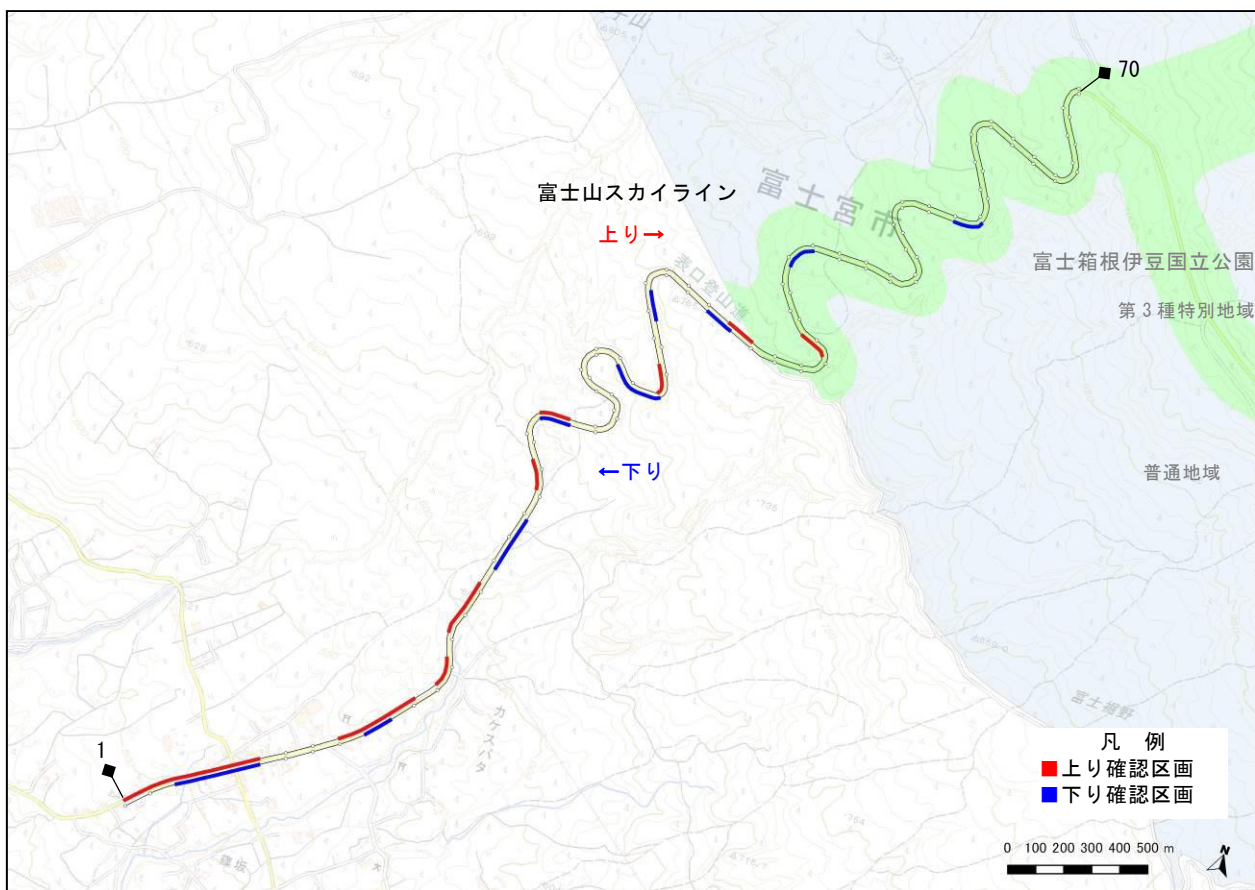


図 2.1.34 セイタカアワダチソウの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

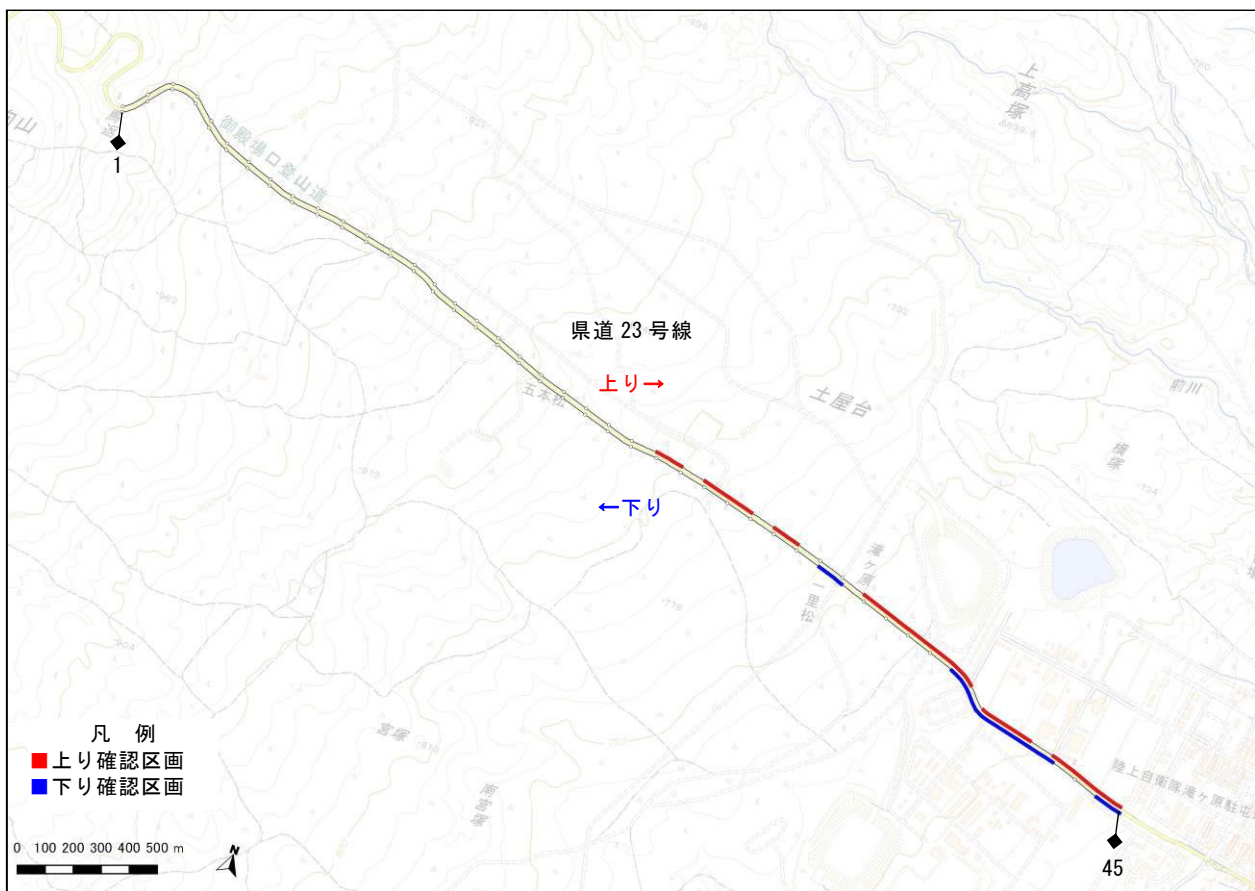


図 2.1.35 セイタカアワダチソウの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.30 種の解説（セイタカアワダチソウ）

種名等 ¹⁾	セイタカアワダチソウ（キク科） 別名・流通名：セイタカアキノキリンソウ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	湿原・湿地
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布する。日本へは観賞用植物として明治時代（1897 年頃）に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 2.5m。花期は 8-11 月。頭状花。虫媒花。瘦果は風などにより伝播される。地下茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると繁茂する。
影響 ¹⁾	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>）

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>）

⑥ セイヨウタンポポ（重点対策外来種）

セイヨウタンポポは、富士山スカイラインの上り線で 68 区画 1,014 地点 4,843 個体、下り線で 70 区画 835 地点 2,927 個体、計 138 区画 1,849 地点 7,770 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。5 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線の上り線で 34 区画 133 地点 193 個体、下り線で 44 区画 289 地点 680 個体、計 78 区画 422 地点 873 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。5 月調査時に開花・結実を確認した。

セイヨウタンポポは、富士山スカイライン及び県道 23 号線において、上下線ともに広く分布がみられた。

表 2.1.31 セイヨウタンポポ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
68	1,014	4,843	70	835	2,927	138	1,849	7,770	34	133	193	44	289	680	78	422	873	216	2,271	8,643

表 2.1.32 セイヨウタンポポの確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 44
(平成 29 年 5 月 12 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 46
(平成 29 年 5 月 12 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 18
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 2
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)

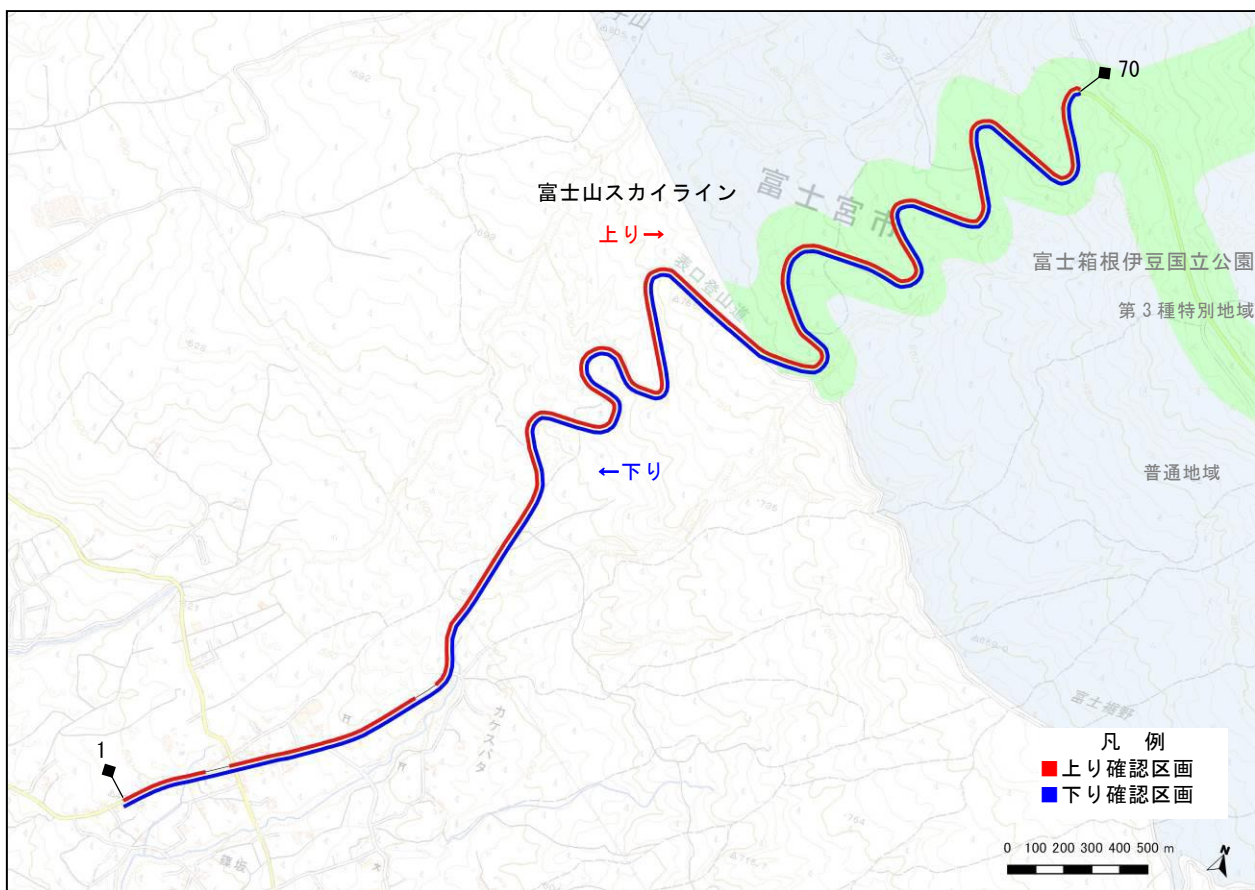


図 2.1.36 セイヨウタンポポの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

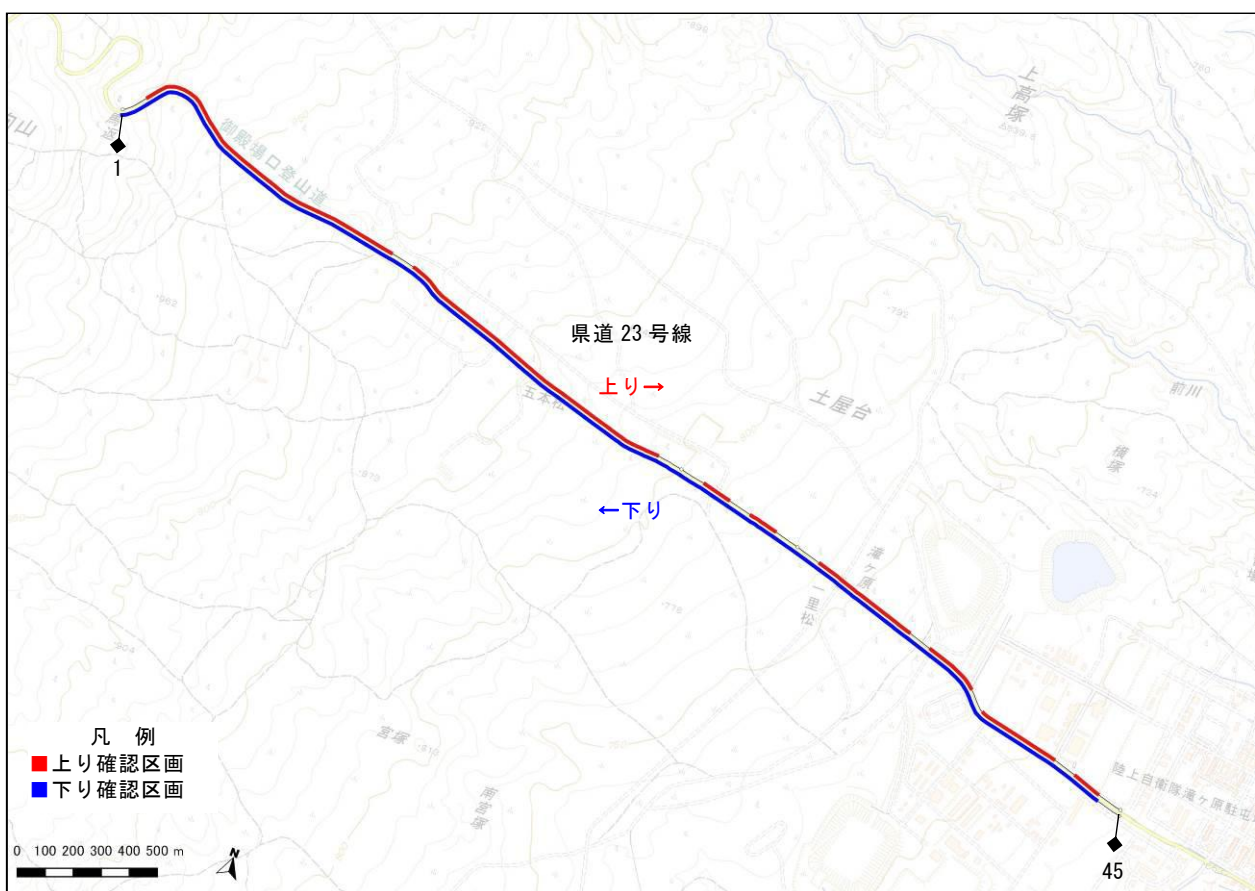


図 2.1.37 セイヨウタンポポの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.33 種の解説（セイヨウタンポポ）

種名等 ¹⁾	セイヨウタンポポ（キク科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：外来性タンポポ種群
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	自然草原や高山
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。世界中に分布する。国内へは 1940 年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ³⁾	キク科の多年草で、高さは 10-40cm。花期は 3-5 月。単為生殖により結実する。瘦果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
生育環境等 ¹⁾	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
影響 ³⁾	繁殖力が強く、国立公園内の亜高山帯等の自然性の高い環境にも侵入し、在来種との競合のおそれがある。在来種との雑種が全国的にみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっていることが確認されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑦ ヒメスイバ（タデ科）

ヒメスイバは、富士山スカイラインの上り線で1区画1地点10個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。開花、結実の確認はなく、根生葉のみを確認した。開花・結実の確認はなかった。

また、県道23号線の下り線で、1区画1地点5個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の側溝とフェンスの間の草地であった。開花・結実の確認はなかった。

表 2.1.34 ヒメスイバ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
1	1	10	-	-	-	1	1	10	-	-	-	1	1	5	1	1	5	2	2	15

表 2.1.35 ヒメスイバの確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 10
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 10
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 41
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 41
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)

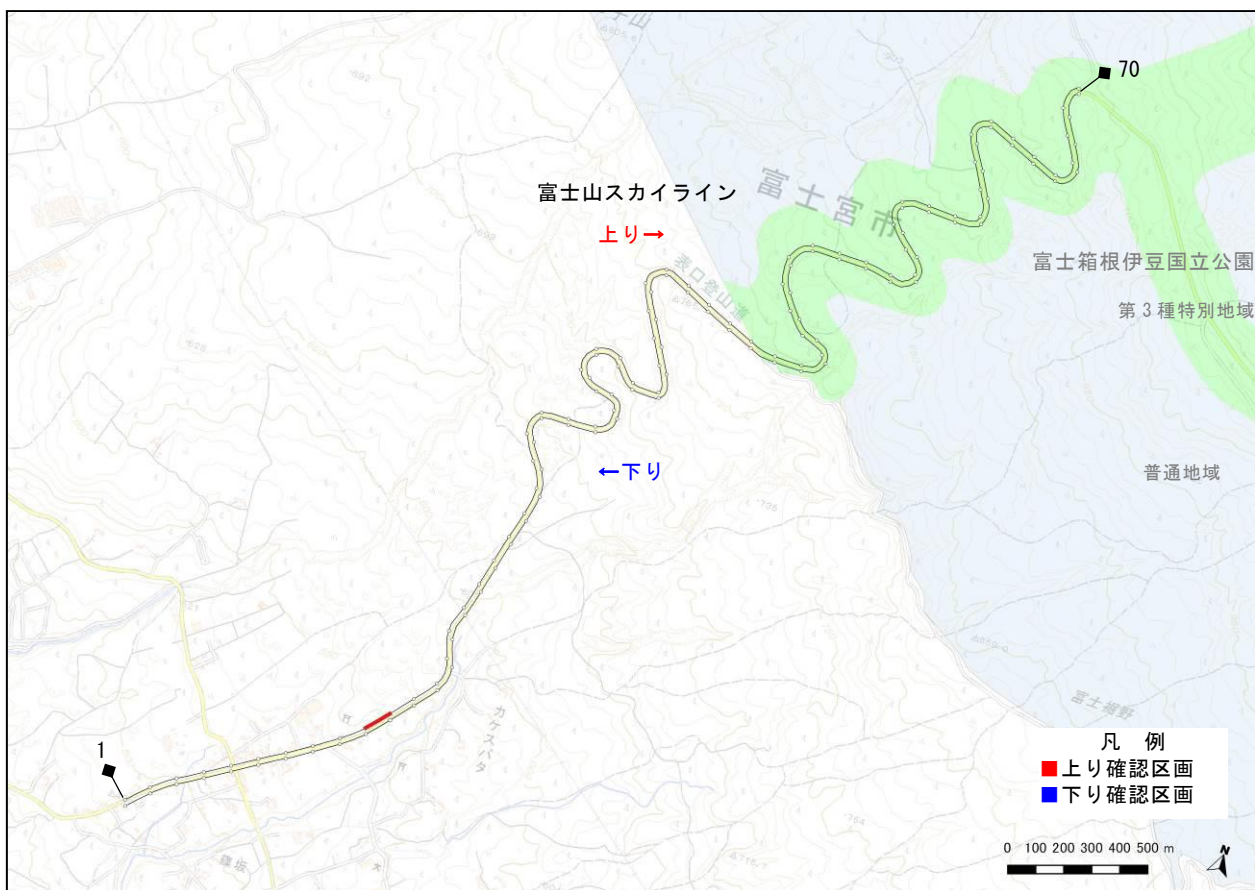


図 2.1.38 ヒメスイバの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

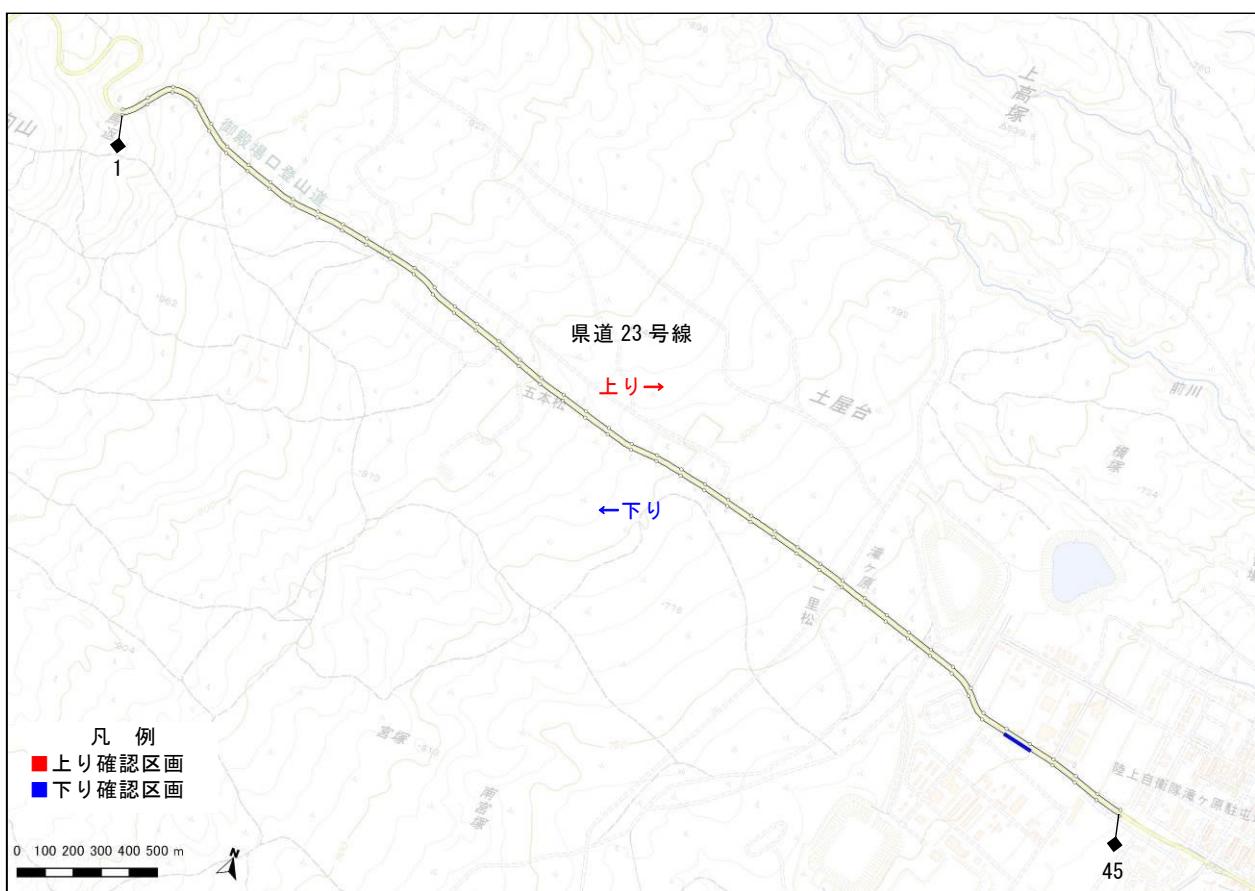


図 2.1.39 ヒメスイバの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.36 種の解説（ヒメスイバ）

種名等 ¹⁾	ヒメスイバ（タデ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 Ⅴ．生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂浜、山地草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアに分布。温帯～寒帯を中心に分布し、熱帯～亜熱帯の河内にも広がる。日本へは明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。高さは 50cm。花期は 4-7 月。種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。
生育環境等 ¹⁾	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地～半湿地を好む。pH の低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。
影響 ¹⁾	河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑧ エゾノギシギシ（タデ科）

エゾノギシギシは、富士山スカイラインの上り線で2区画5地点25個体、下り線で1区画1地点1個体、計3区画6地点26個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。9月調査に結実を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.37 エゾノギシギシ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数			
2	5	25	1	1	1	3	6	26	－	－	－	－	－	－	－	－	－			

表 2.1.38 エゾノギシギシの確認状況



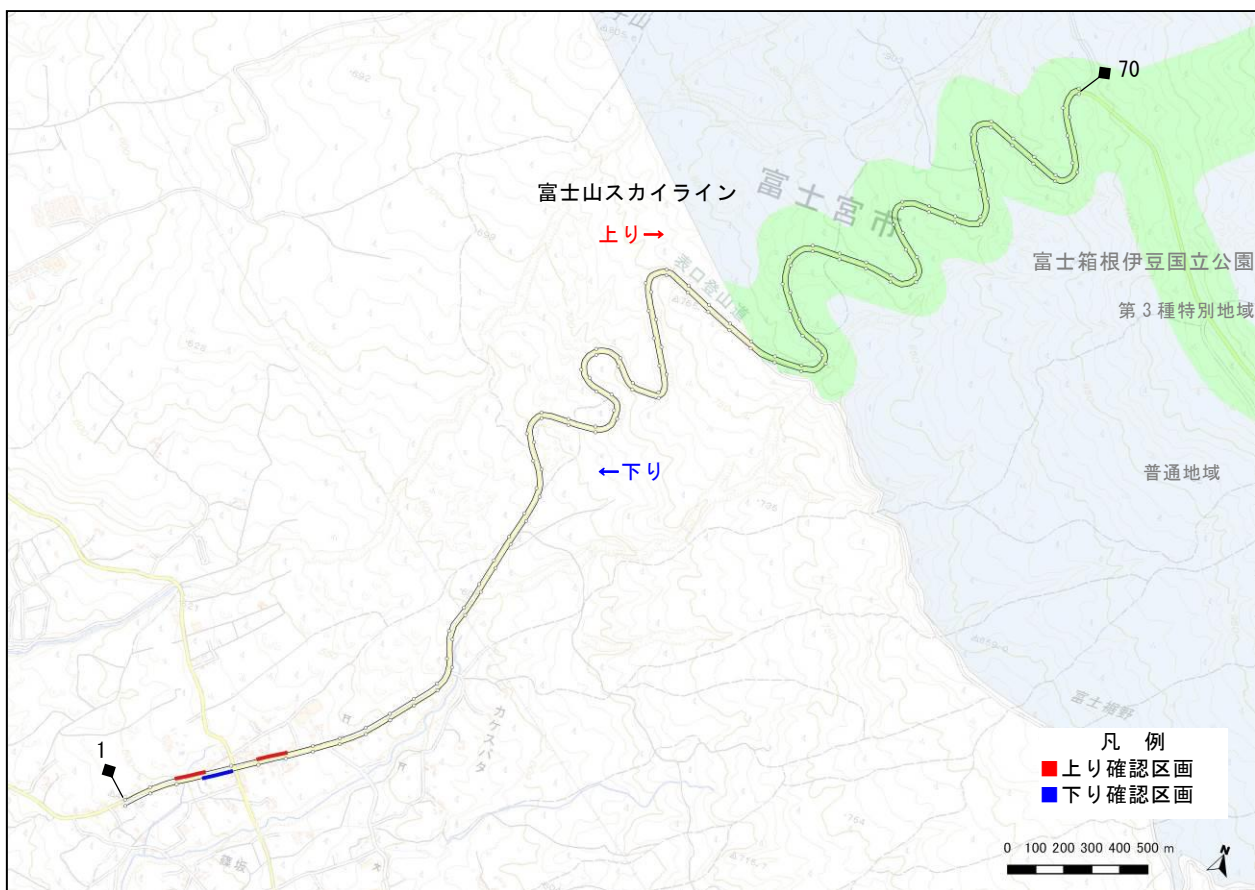


図 2. 1. 40 エゾノギシギシの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2. 1. 41 エゾノギシギシの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.39 種の解説（エゾノギシギシ）

種名等 ¹⁾	エゾノギシギシ（タデ科） 別名・流通名：ヒロハギシギシ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来ギシギシ類の生育地周辺。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。国内へは明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州に分布する。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さは50-130cm。花期は6-9月。両性花。瘦果は風、雨、飼料に混入して伝播される。1個体当たりの種子の生産量は5,000-100,000個、種子の寿命は20年以上との報告がある。根茎による繁殖力が強い。周年にわたって発生、生育し、耐寒性が強い。
生育環境等 ¹⁾	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。
影響 ³⁾	北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。世界的に牧草地、樹園地の強害雑草として知られている。一度圃場に入り込むと短期間に拡大する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑨ ハルザキヤマガラシ（アブラナ科）

ハルザキヤマガラシは、富士山スカイラインの上り線で6区画11地点83個体、下り線で2区画2地点21個体、計8区画13地点104個体を確認した。確認地点の環境は、路傍、道路脇の草地であった。5月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.40 ハルザキヤマガラシ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
6	11	83	2	2	21	8	13	104	－	－	－	－	－	－	－	－	－	8	13	104

表 2.1.41 ハルザキヤマガラシの確認状況



富士山スカイライン上り線区画No.63
(平成29年5月12日撮影)



富士山スカイライン上り線区画No.63
(平成29年5月12日撮影)

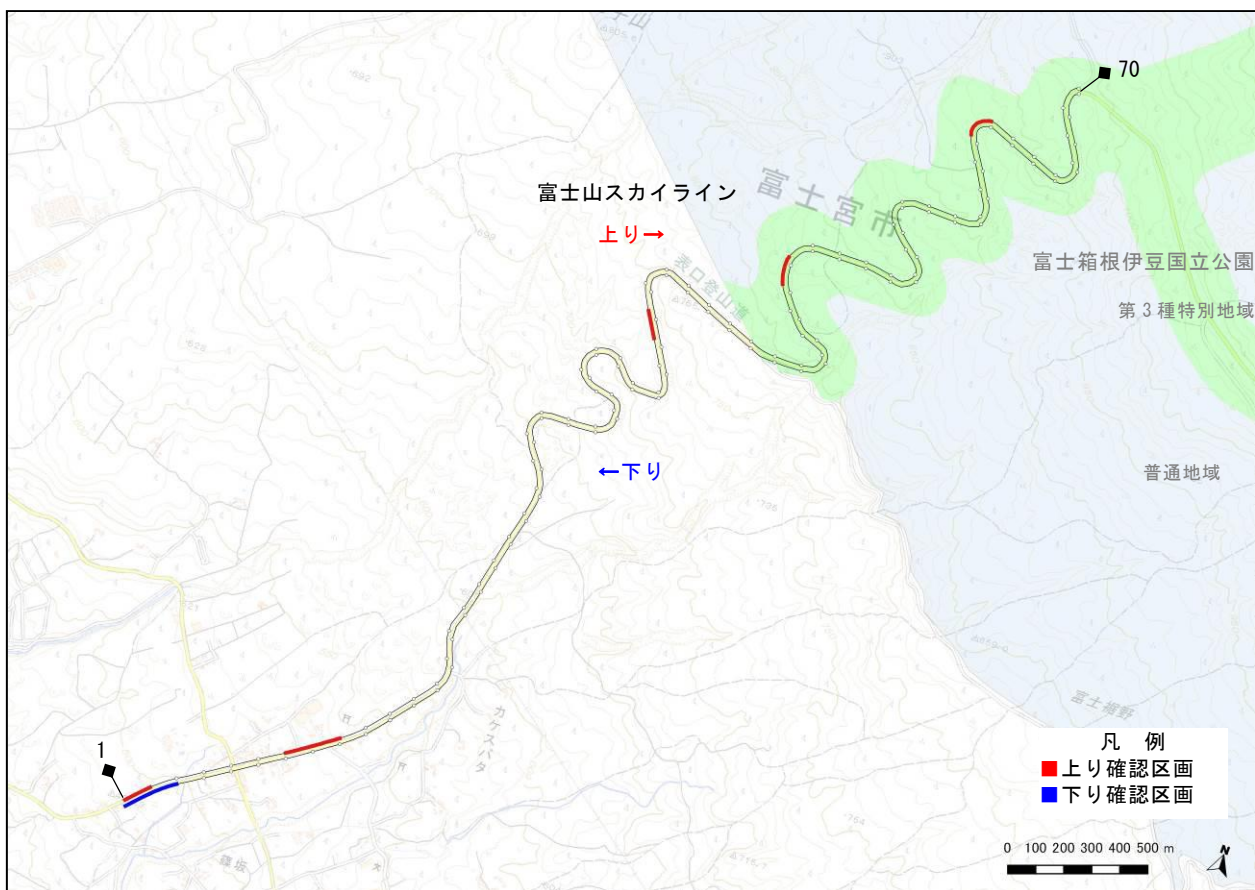


図 2.1.42 ハルザキヤマガラシの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.43 ハルザキヤマガラシの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.42 種の解説（ハルザキヤマガラシ）

種名等 ¹⁾	ハルザキヤマガラシ（アブラナ科） 別名・流通名：セイヨウヤマガラシ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	原産地不明。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布する。日本へは明治時代末年に渡来、1960 年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ¹⁾	越年草～短命な多年草。高さは 20-90cm。花期は 5 月。長角果は風、雨、動物、人間により伝播される。1 個体辺りの種子生産量は 40,000-116,000 個との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高 1,800 m 以上の亜高山帯に生育している事例もある。
影響 ³⁾	八ヶ岳中信高原国定公園にある霧ヶ峰では、ハルザキヤマガラシが増加し、在来種と競合のおそれがあるため、駆除作業が行われている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>）

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>）

⑩ アレチヌスビトハギ（マメ科）

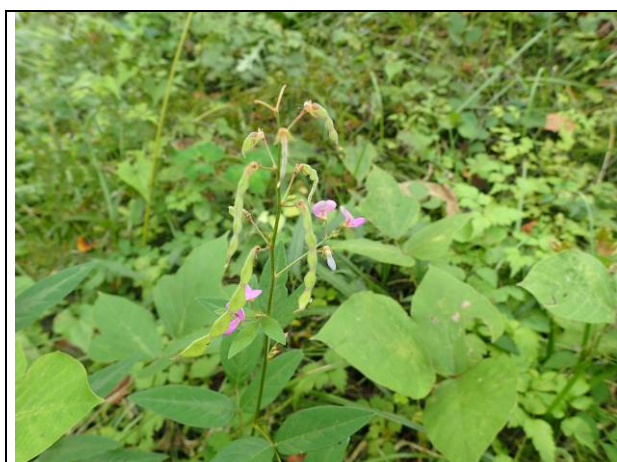
アレチヌスビトハギは、富士山スカイラインの上り線で 3 区画 3 地点 3 個体、下り線で 1 区画 1 地点 3 個体、計 4 区画 4 地点 6 個体を確認した。確認地点の環境は、道路脇の草地であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.43 アレチヌスビトハギ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
3	3	3	1	1	3	4	4	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	4	6

表 2.1.44 アレチヌスビトハギの確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 15
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 19
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)

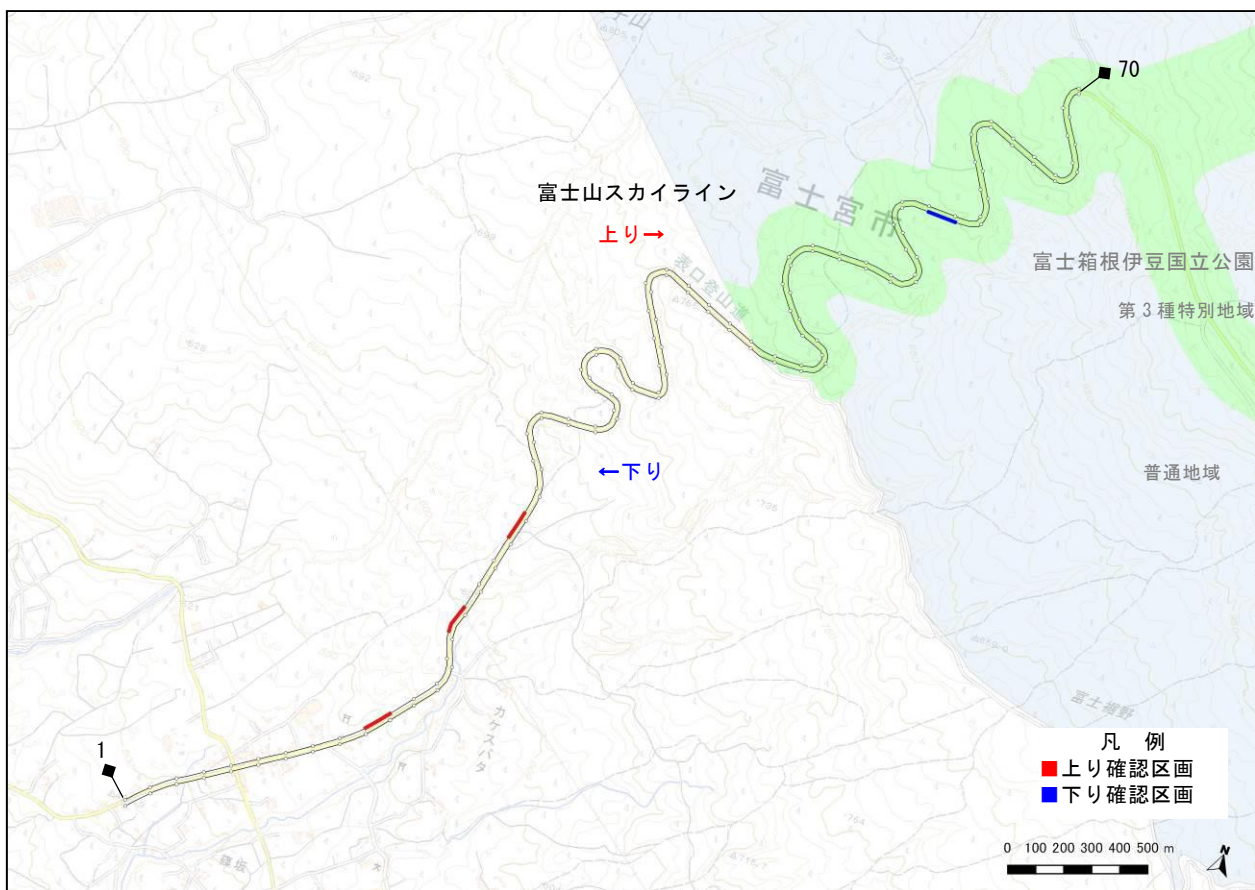


図 2.1.44 アレチヌスビトハギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.45 アレチヌスビトハギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.45 種の解説（アレチヌスビトハギ）

種名等 ¹⁾	アレチヌスビトハギ（マメ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河原、里草地
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ東南部原産。カナダで逸出。日本では 1940 年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。高さ 30-100cm。葉は 3 小葉をつけ、側小葉は左右非対称で頂小葉よりも少し小さい。花期は 9-10 月。花は紅紫色。果実は扁平で 3-5 個の小節果となり、全体に細かい鉤毛がある。
生育環境等 ¹⁾	荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。
影響 ¹⁾	一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。河川でも増加傾向にある。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑪ オオフタバムグラ（アカネ科）

オオフタバムグラは県道 23 号線の上り線で 4 区画 27 地点 368 個体を確認した。確認地点の環境は、路傍、道路脇の草地であった。9 月調査時に開花及び結実を確認した。

また、富士山スカイラインでは生育の確認はなかった。

表 2. 1. 46 オオフタバムグラ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	27	368	－	－	－	4	27	368	4	27	368

表 2. 1. 47 オオフタバムグラの確認状況



県道 23 号線上り線区画 No. 29

(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27

(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



図 2.1.46 オオフトバムグラの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

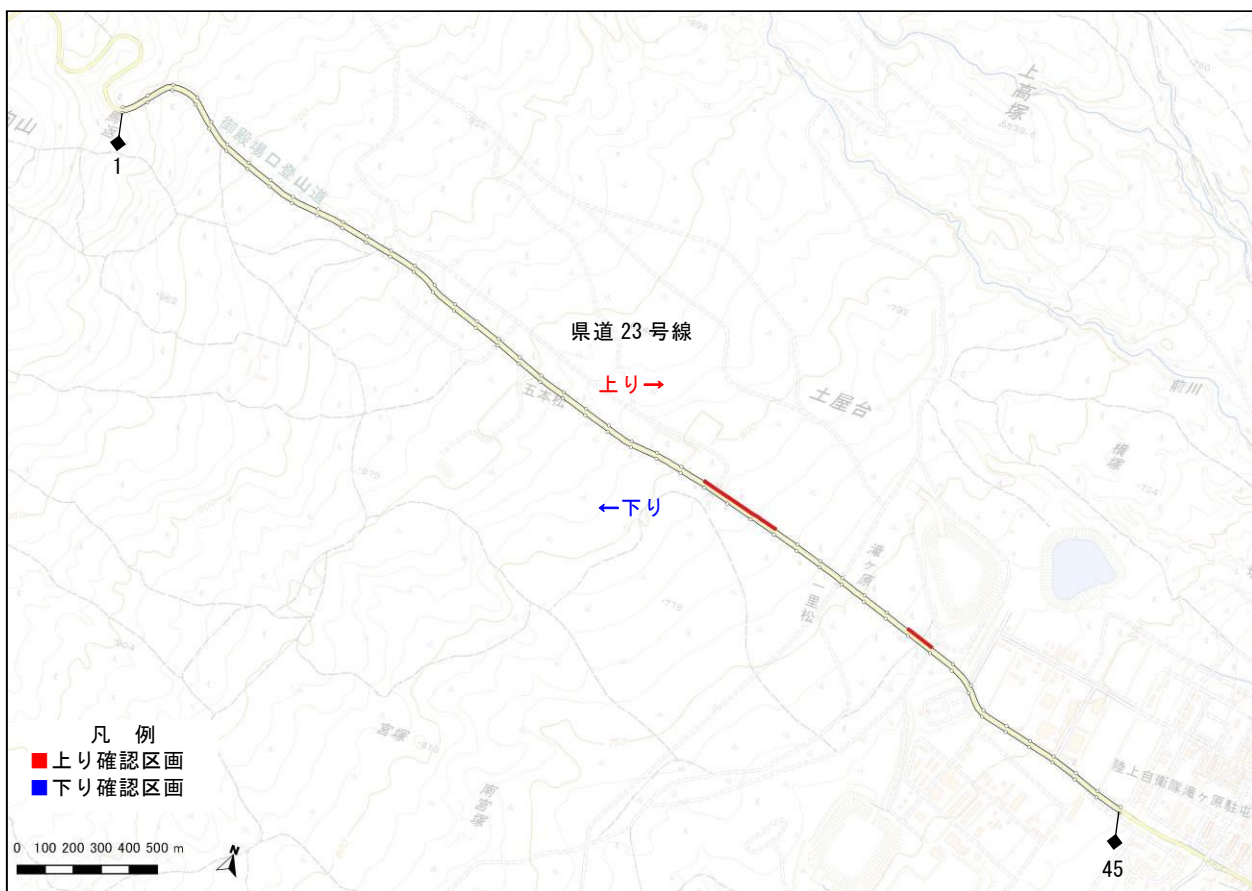


図 2.1.47 オオフトバムグラの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.48 種の解説（オオフタバムグラ）

種名等 ¹⁾	オオフタバムグラ（アカネ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂浜、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに分布。日本へは、1927年に渡来、本州、四国、九州に分布。
特徴 ^{1), 3), 5)}	一年草。高さ 10–50cm。葉は対生し、広線形～線状披針形で短毛がある。花期は 7–8 月。花は葉腋につき、白色又は淡桃色。両性花。乾果をつける。
生育環境等 ¹⁾	砂地がかった道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一部のように生育する。
影響 ^{1), 3)}	鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。神奈川県など各地で現在も分布を拡大しているため、在来植物への影響が懸念される

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑫ アメリカセンダングサ（キク科）

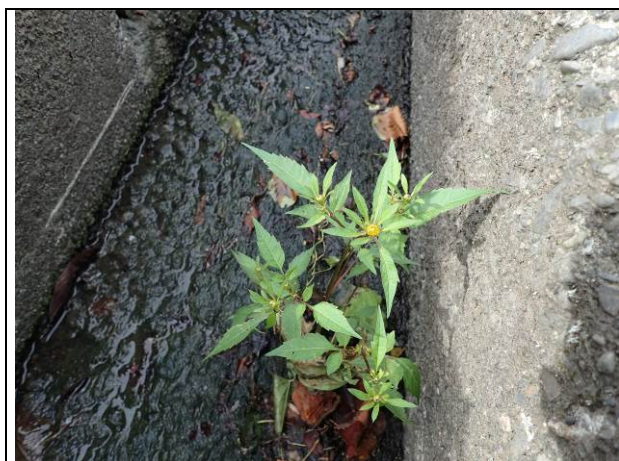
アメリカセンダングサは、富士山スカイラインの上り線で4区画6地点16個体、下り線で7区画18地点45個体、計11区画24地点61個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地、側溝であった。9月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線の上り線で1区画1地点1個体、下り線で1区画2地点5個体、計2区画3地点6個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。9月調査時に開花を確認した。

表 2.1.49 アメリカセンダングサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
4	6	16	7	18	45	11	24	61	1	1	1	1	2	5	2	3	6	13	27	67

表 2.1.50 アメリカセンダングサの確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 7
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 7
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 35
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 35
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)

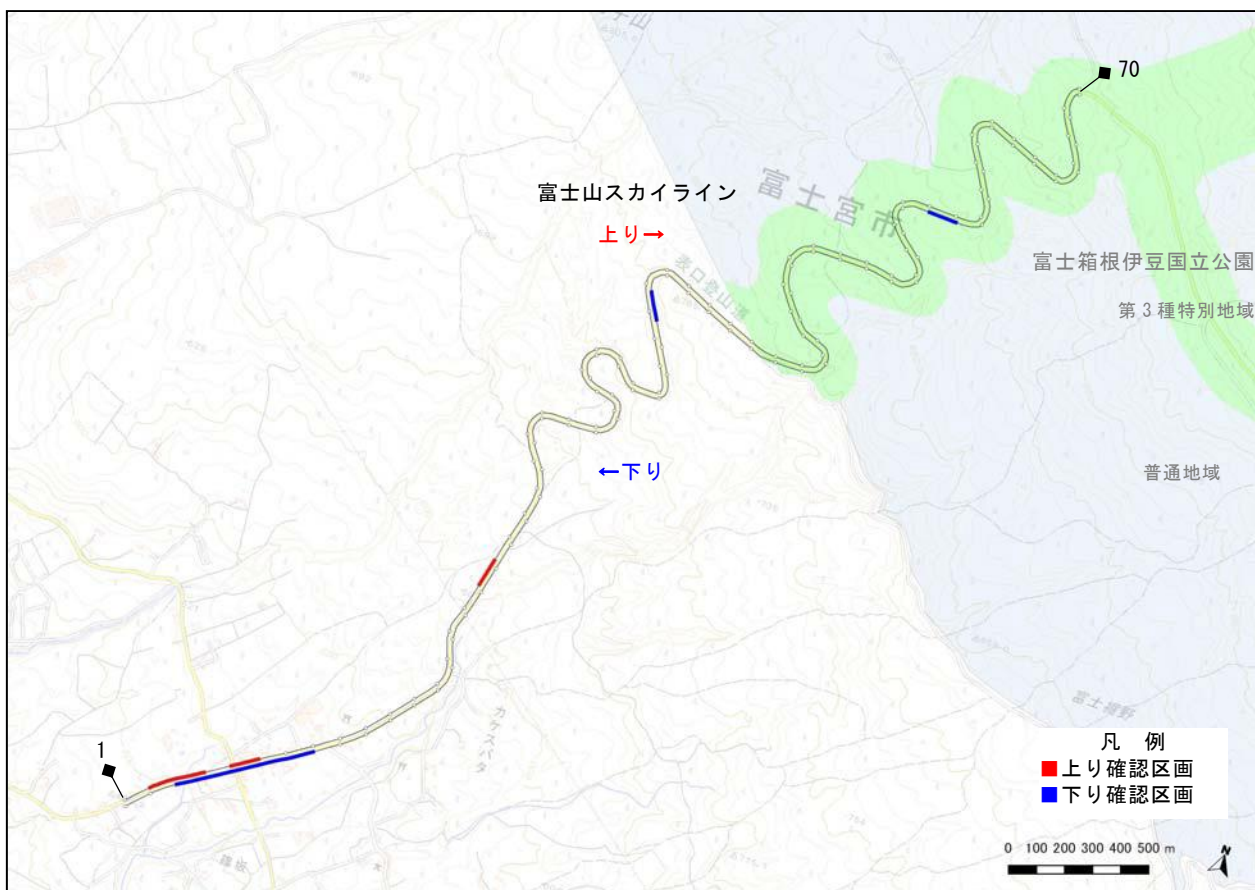


図 2.1.48 アメリカセンダングサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.49 アメリカセンダングサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.51 種の解説（アメリカセンダングサ）

種名等 ¹⁾	アメリカセンダングサ（キク科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 Ⅴ．生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	湿地。
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。国内へは 1920 年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 3)}	一年草。高さ 100-150cm。花期は 8-10 月。両性花。虫媒花。瘦果の刺の剛毛で人や動物に付着して伝播、水に流されても広がる。種子の寿命は 16 年に及ぶこともある。
生育環境等 ¹⁾	湿った草地、水田、水路、休耕田、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。一般に水辺や湿地に好む。
影響 ^{1), 3)}	水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。 タウコギやセンダングサなど、河川敷や水辺の在来植物と競合し、駆逐するおそれがある。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑬ フランスギク（キク科）

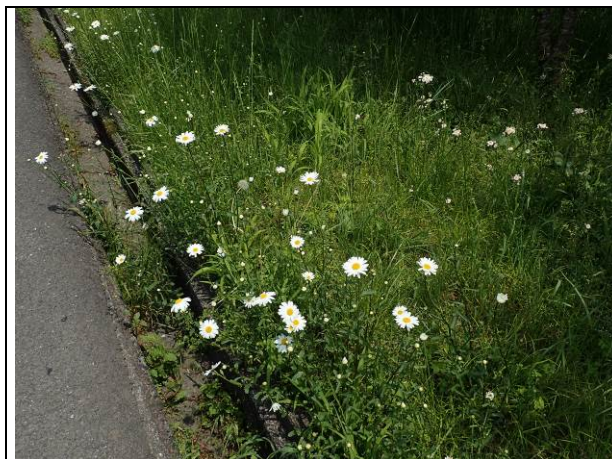
フランスギクは、富士山スカイラインの上り線で6区画16地点230個体、下り線で4区画7地点329個体、計10区画23地点559個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。5月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線の上り線で2区画4地点21個体、下り線で1区画1地点1個体、計3区画5地点22個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。5月調査時に開花を確認した。

表 2.1.52 フランスギク確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
6	16	230	4	7	329	10	23	559	2	4	21	1	1	1	3	5	22	13	28	581

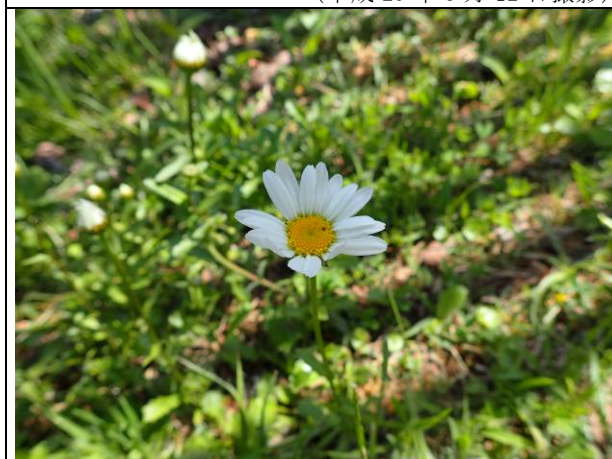
表 2.1.53 フランスギク確認状況



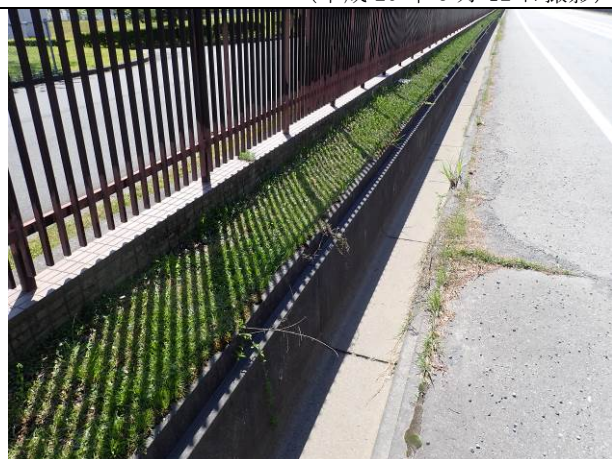
富士山スカイライン下り線区画 No. 8
(平成 29 年 5 月 12 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 8
(平成 29 年 5 月 12 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 44
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 44
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)

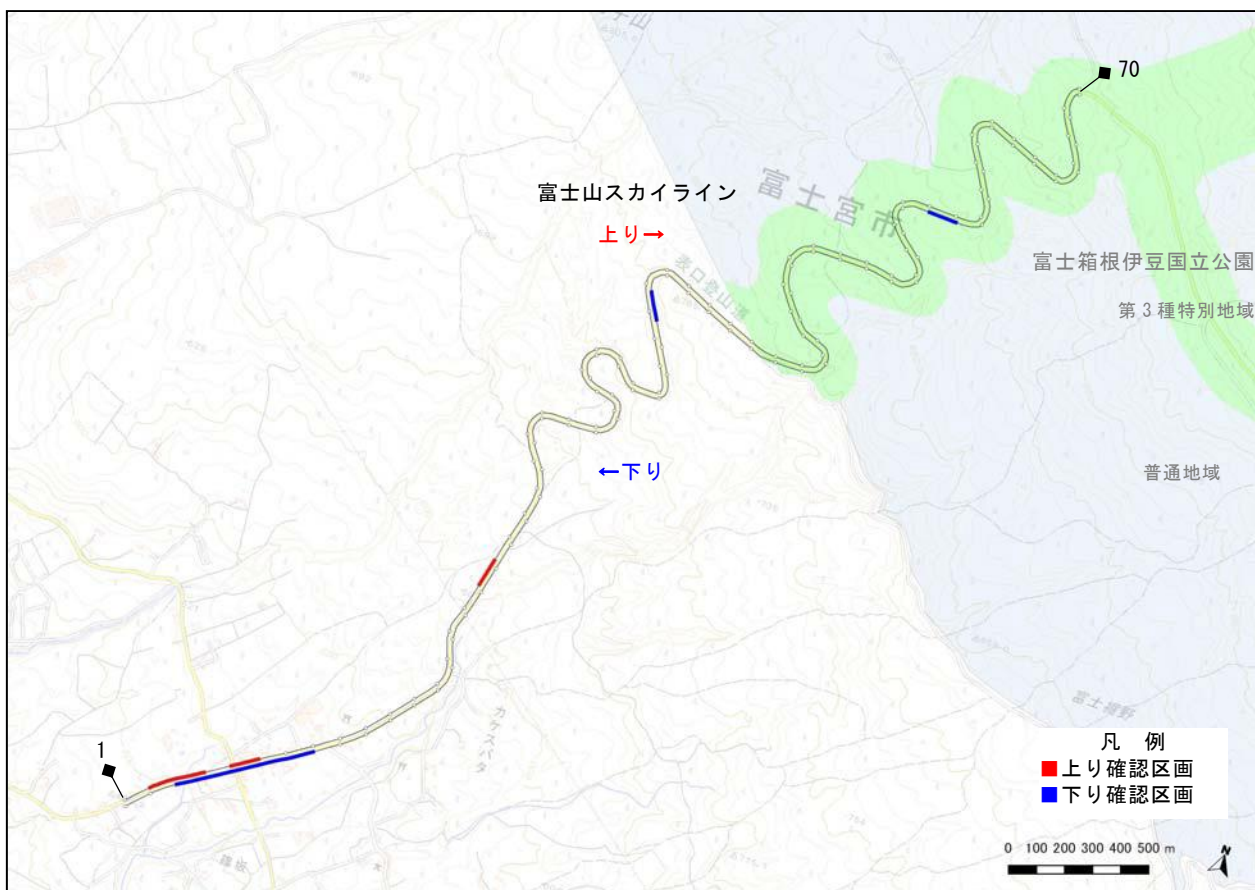


図 2.1.50 フランスギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.51 フランスギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.54 種の解説（フランスギク）

種名等 ¹⁾	フランスギク（キク科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。日本へは江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。高さ 30-80cm。花期は 6 月。瘦果は黒色。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。
影響 ¹⁾	海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑭ ヒメジョオン（キク科）

ヒメジョオンは、富士山スカイラインの上り線で 46 区画 122 地点 2,228 個体、下り線で 56 区画 181 地点 1,779 個体、計 102 区画 303 地点 4,007 個体確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。7 月調査時に開花、9 月調査時に開花・結実を確認した。

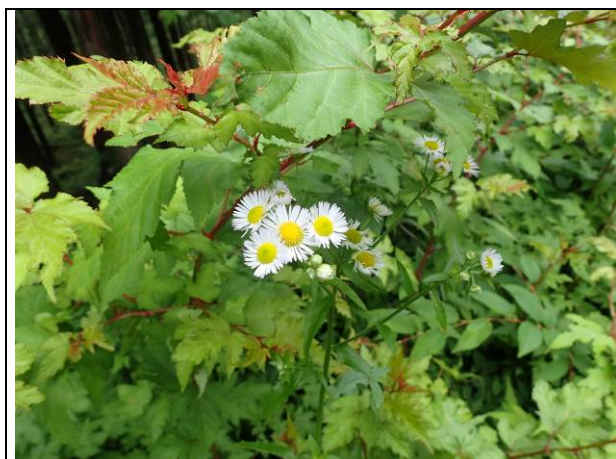
また、県道 23 号線の上り線で 42 区画 140 地点 413 個体、下り線で 33 区画 86 地点 365 個体、計 75 区画 226 地点 778 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。7 月調査時に開花、9 月調査時に開花・結実を確認した。

ヒメジョオンは、富士山スカイライン及び県道 23 号線において、上下線ともに広く分布がみられた。

表 2.1.55 ヒメジョオン確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
46	122	2,228	56	181	1,779	102	303	4,007	42	140	413	33	86	365	75	226	778	177	529	4,785

表 2.1.56 ヒメジョオン確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 48
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 48
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)

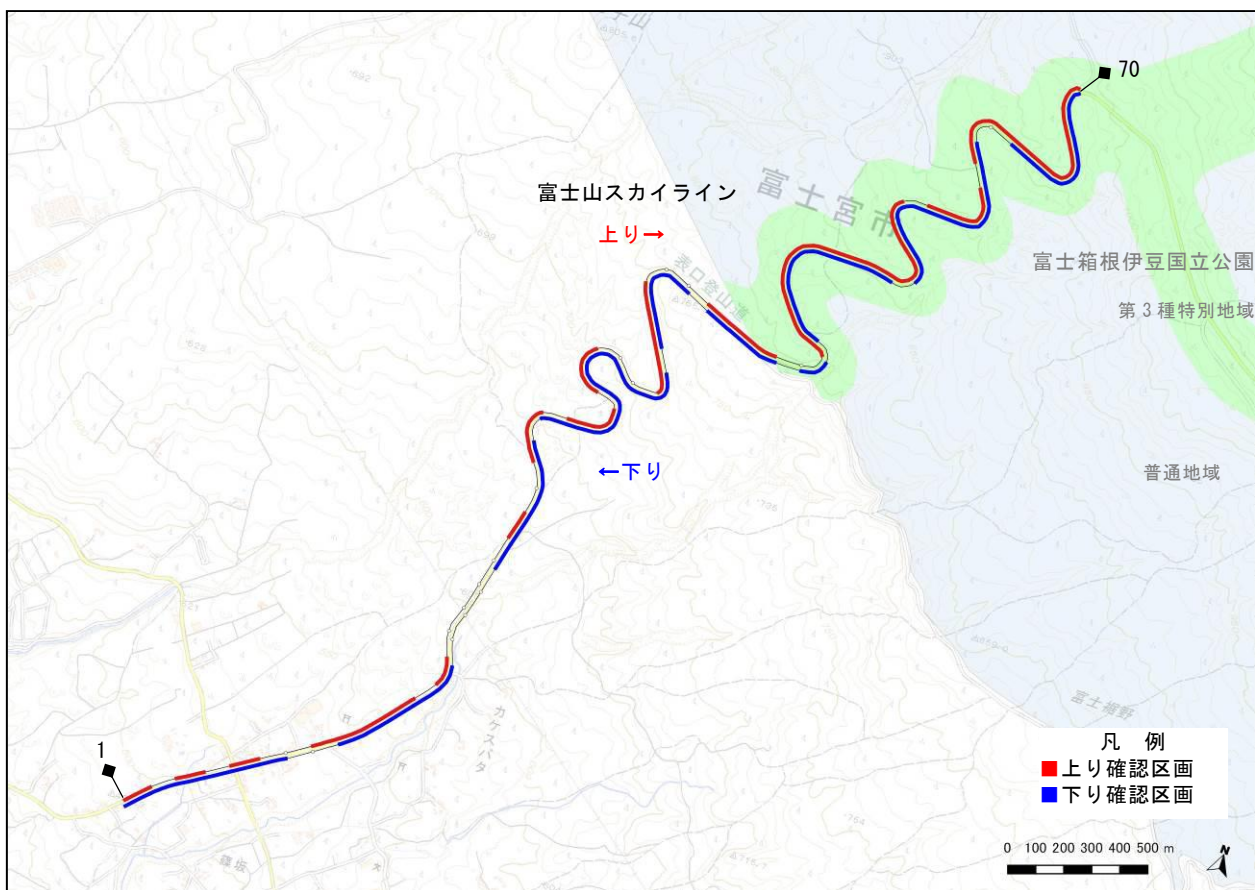


図 2.1.52 ヒメジョオンの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

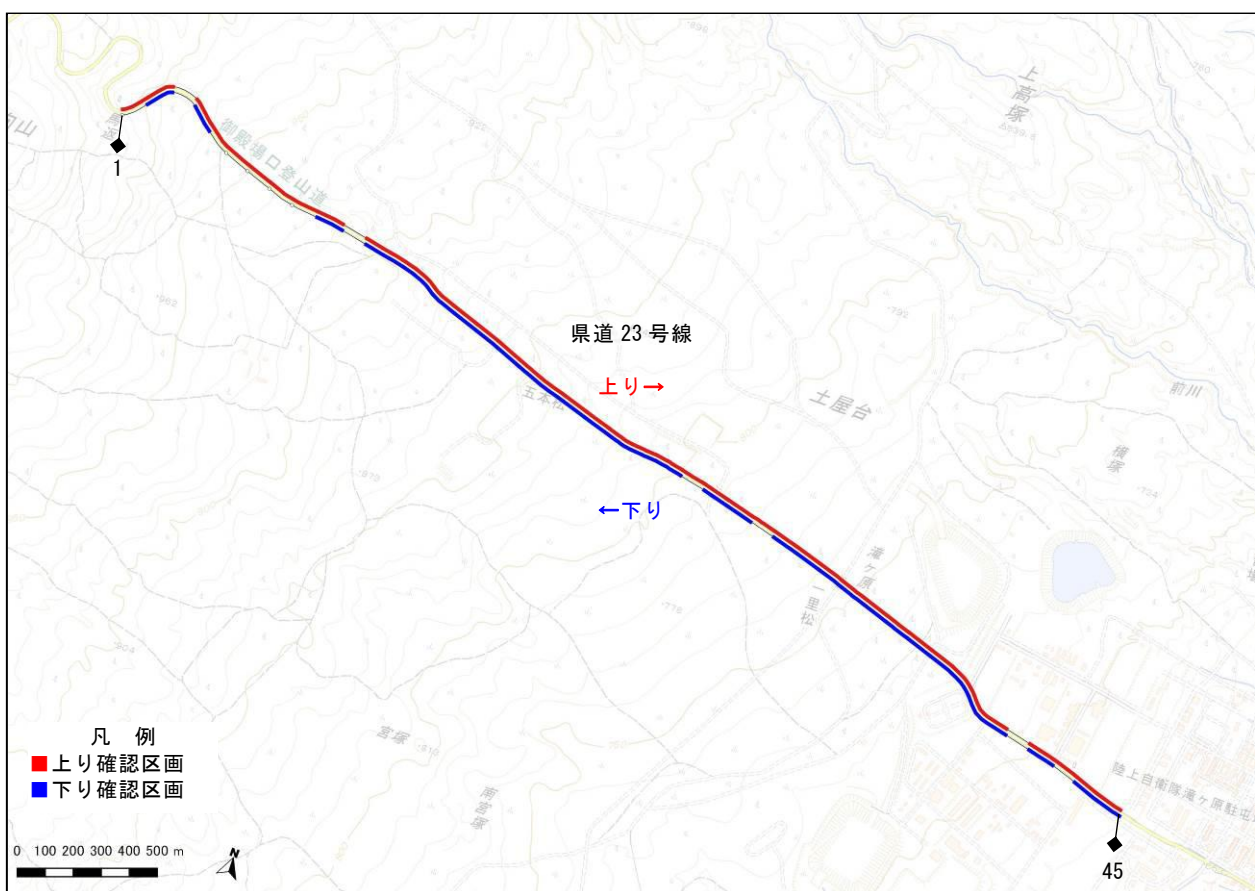


図 2.1.53 ヒメジョオンの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.57 種の解説（ヒメジョオン）

種名等 ¹⁾	ヒメジョオン（キク科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	山地や亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
特徴 ^{1), 3)}	一年草。高さ 30-150cm。花期は 6-10 月。瘦果は、風、雨、動物、人間により伝播される。1 個体当たりの種子生産量は 47,923 個に及ぶとの報告がある。種子の寿命が 35 年にも及ぶとの報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
影響 ¹⁾	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑮ ペラペラヨメナ（キク科）

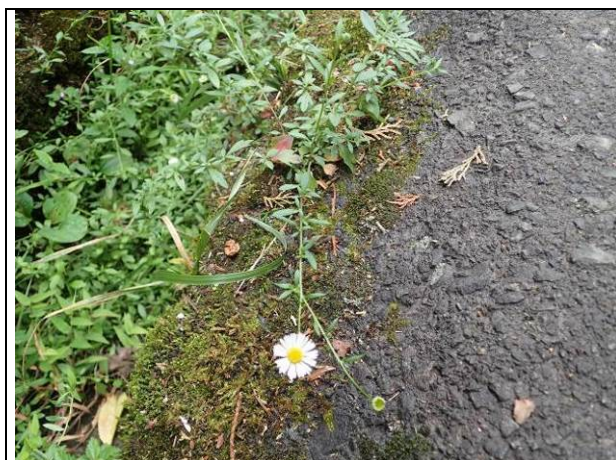
ペラペラヨメナは、富士山スカイラインの上り線で3区画13地点368個体、下り線で1区画2地点5個体、計4区画15地点373個体確認した。確認地点の環境は路傍、側溝であった。7月、9月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.58 ペラペラヨメナ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
3	13	368	1	2	5	4	15	373	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	15	373

表 2.1.59 ペラペラヨメナ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 20
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 20
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)

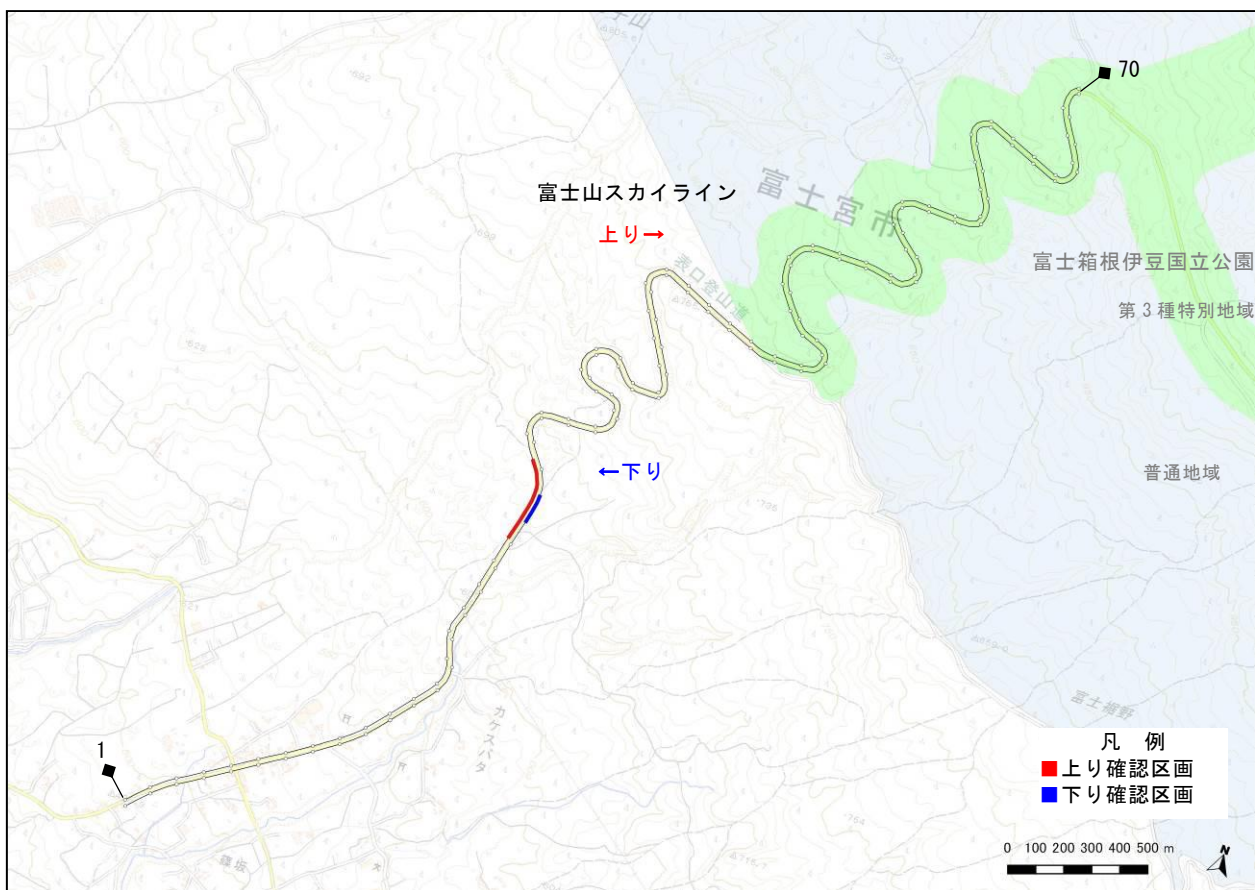


図 2. 1. 54 ペラペラヨメナの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2. 1. 55 ペラペラヨメナの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.60 種の解説（ペラペラヨメナ）

種名等 ¹⁾	ペラペラヨメナ（キク科） 別名・流通名：ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カル ビンスキアヌス、源平小菊、ゲンペイコギク
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸や川岸の岩場
原産地・分布 ¹⁾	中央アメリカ原産。アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパに分布する。日本へは、1949 年渡来、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。高さ 40cm。根と茎の基部は木化する。花期は 5-11 月。筒状花は黄色、舌状花は白色で後に赤色を帯びる。
生育環境等 ¹⁾	農耕地、自然林、植林地、河岸、撓乱地、市街地面、湿地に生育する。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩場にも侵入している。
影響 ¹⁾	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩場に侵入して在来植物への影響が懸念されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑩ メリケンカルカヤ（イネ科）

メリケンカルカヤは、富士山スカイラインの上り線で4区画6地点141個体、下り線で3区画8地点168個体、計7区画14地点309個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。9月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道23号線の上り線で5区画21地点431個体、下り線で2区画8地点44個体、計7区画29地点475個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。9月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.61 メリケンカルカヤ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
4	6	141	3	8	168	7	14	309	5	21	431	2	8	44	7	29	475	14	43	784

表 2.1.62 メリケンカルカヤ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 5
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 5
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)

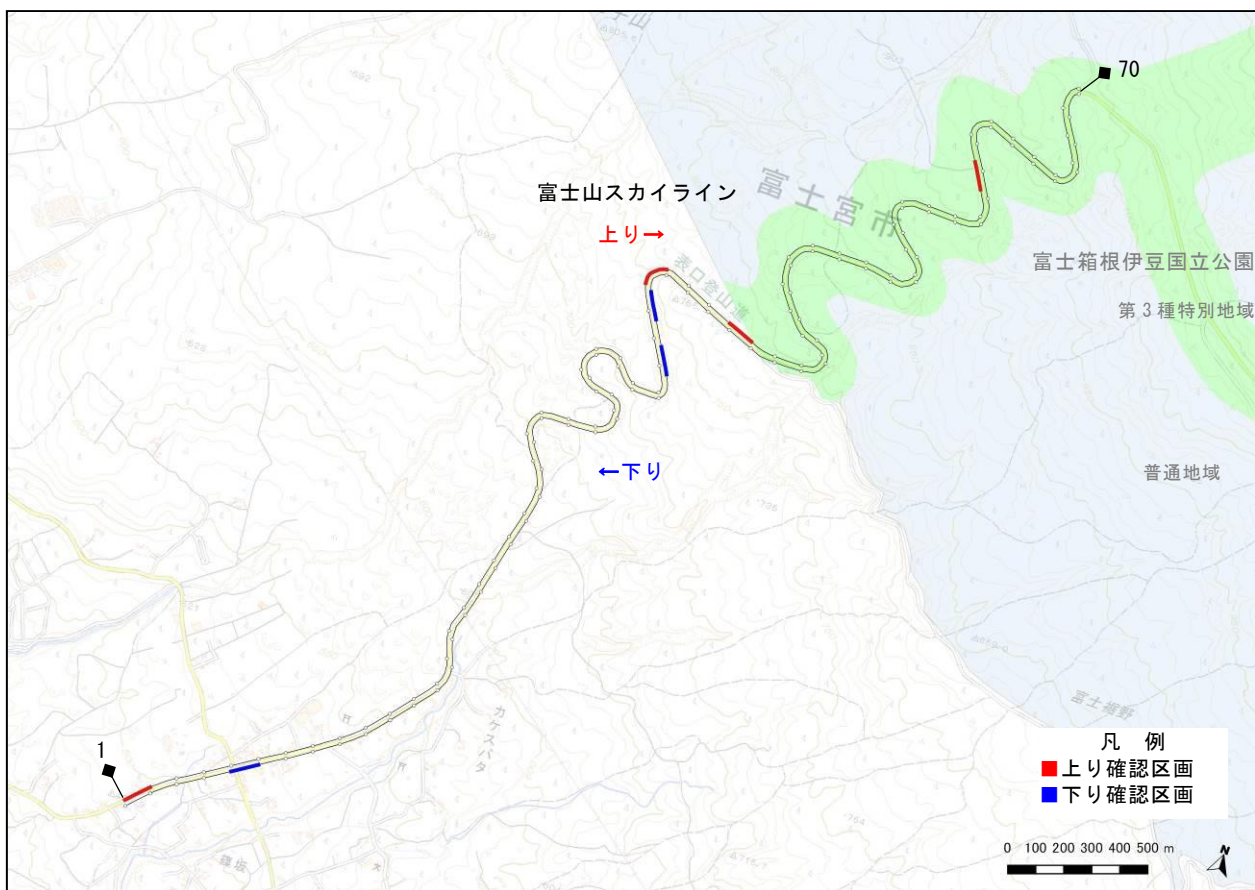


図 2.1.56 メリケンカルカヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

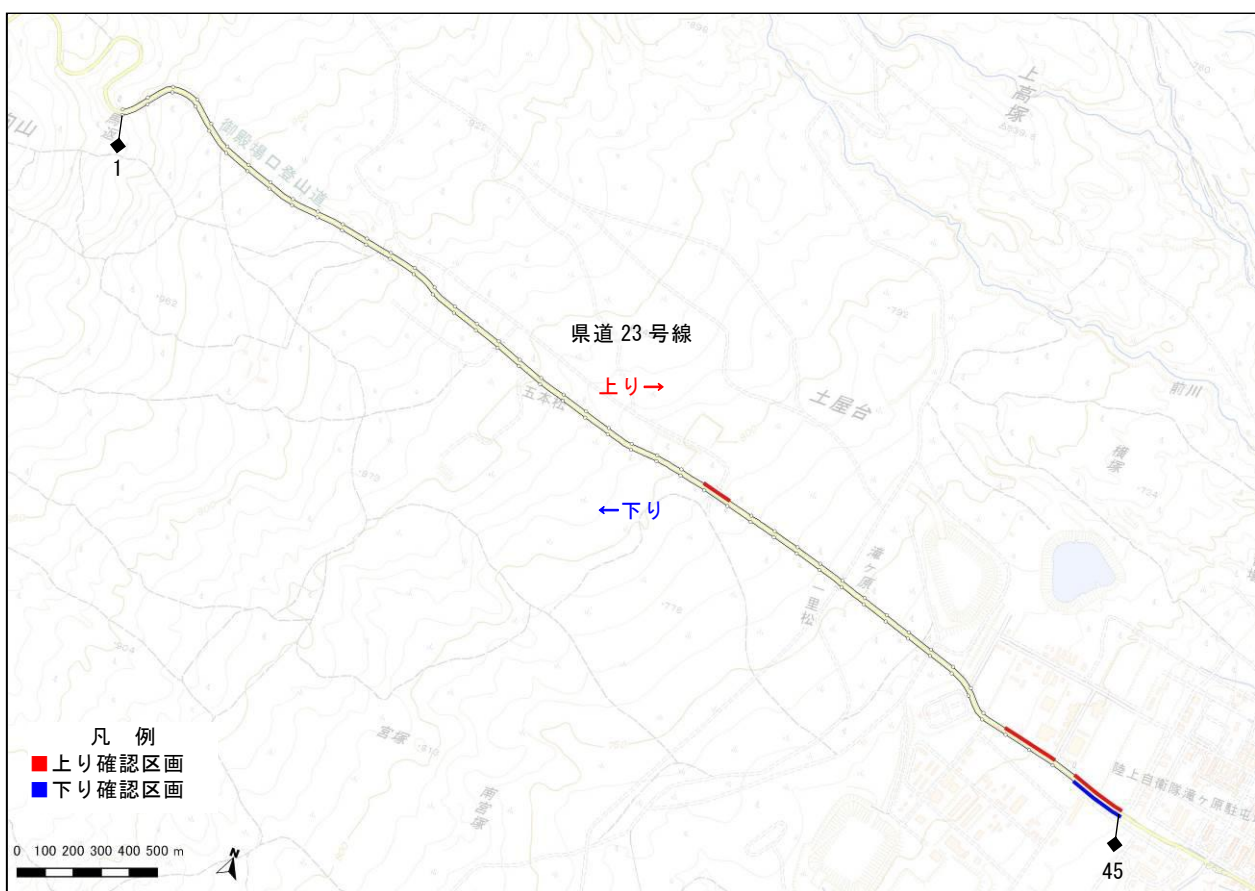


図 2.1.57 メリケンカルカヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.63 種の解説（メリケンカルカヤ）

種名等 ¹⁾	メリケンカルカヤ（イネ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	雑木林、草地、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。南アメリカ、東アジア、オーストラリア、太平洋諸島に分布する。日本へは、1940（昭和 15）年頃に入り、本州（関東以西）、四国、九州に分布する。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 50～100cm。開花期は 9-10 月。根茎により繁殖する。耐旱性が強く、耐塩性は劣る。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、土壌が乾いた所に多い。酸性土壌や岩山にも生育する。
影響 ¹⁾	埼玉では雑木林にも侵入し、センブリ群落を駆逐。愛知県では希少種のウンスケやウンウケモドキと競合。在来植物が生育困難な酸性土壌にも侵入し、裸地環境を改変する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑰ ハルガヤ（イネ科）

ハルガヤは、富士山スカイラインの上り線で6区画18地点2,350個体、下り線で6区画16地点302個体、計12区画34地点2,652個体を確認した。富士山スカイラインでは、上下線ともに全体に広く分布がみられた。確認地点の環境は道路脇の林縁及び草地等であった。5月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道23号線では、上り線で32区画283地点17,263個体、下り線で30区画174地点30,952個体、計62区画457地点48,215個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の林縁及び草地等であった。5月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.64 ハルガヤ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
6	18	2,350	6	16	302	12	34	2,652	32	283	17,263	30	174	30,952	62	457	48,215	74	491	50,867

表 2.1.65 ハルガヤ確認状況



富士山スカイライン下り線区画No. 16
(平成29年5月12日撮影)



富士山スカイライン下り線区画No. 16
(平成29年5月12日撮影)



県道23号線上り線区画No. 5
(平成29年5月23日撮影)



県道23号線上り線区画No. 5
(平成29年5月23日撮影)

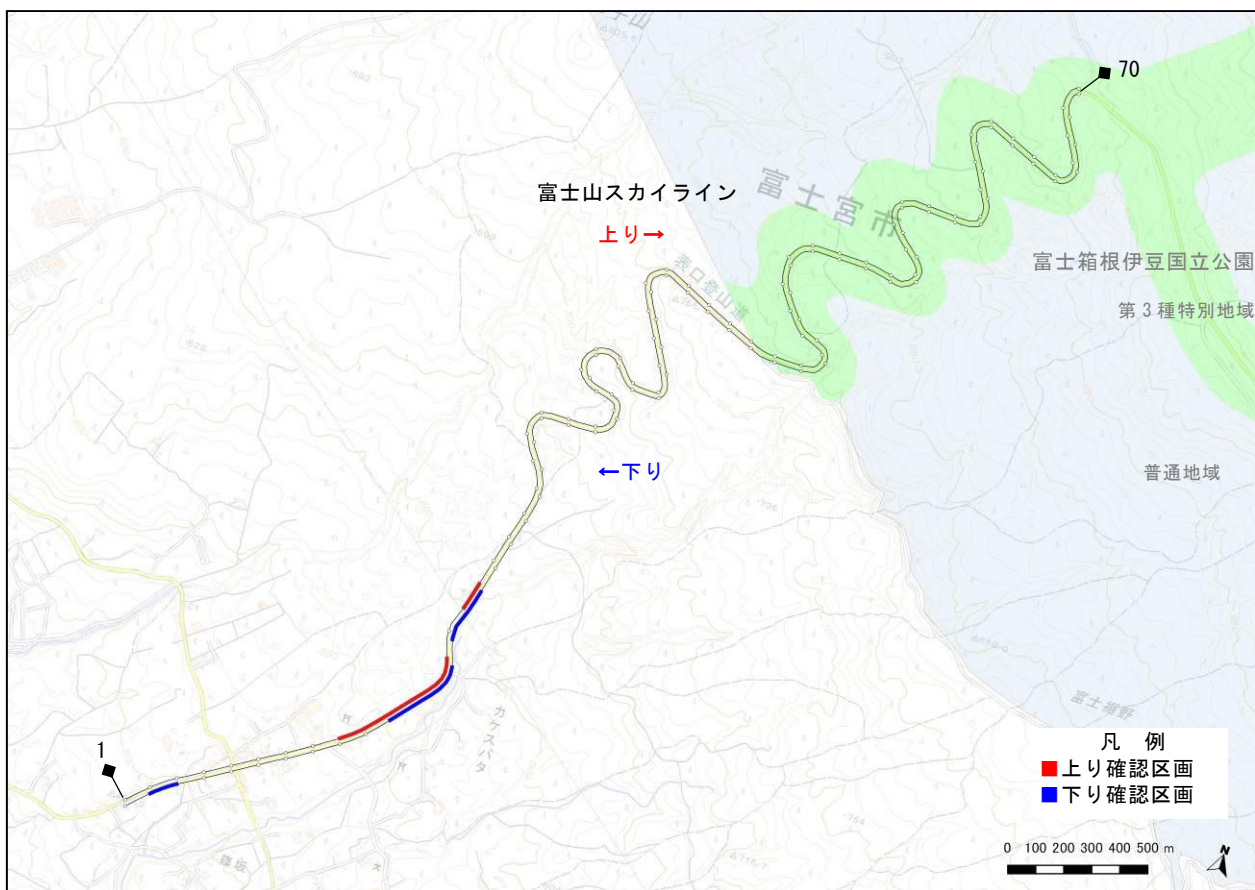


図 2.1.58 ハルガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

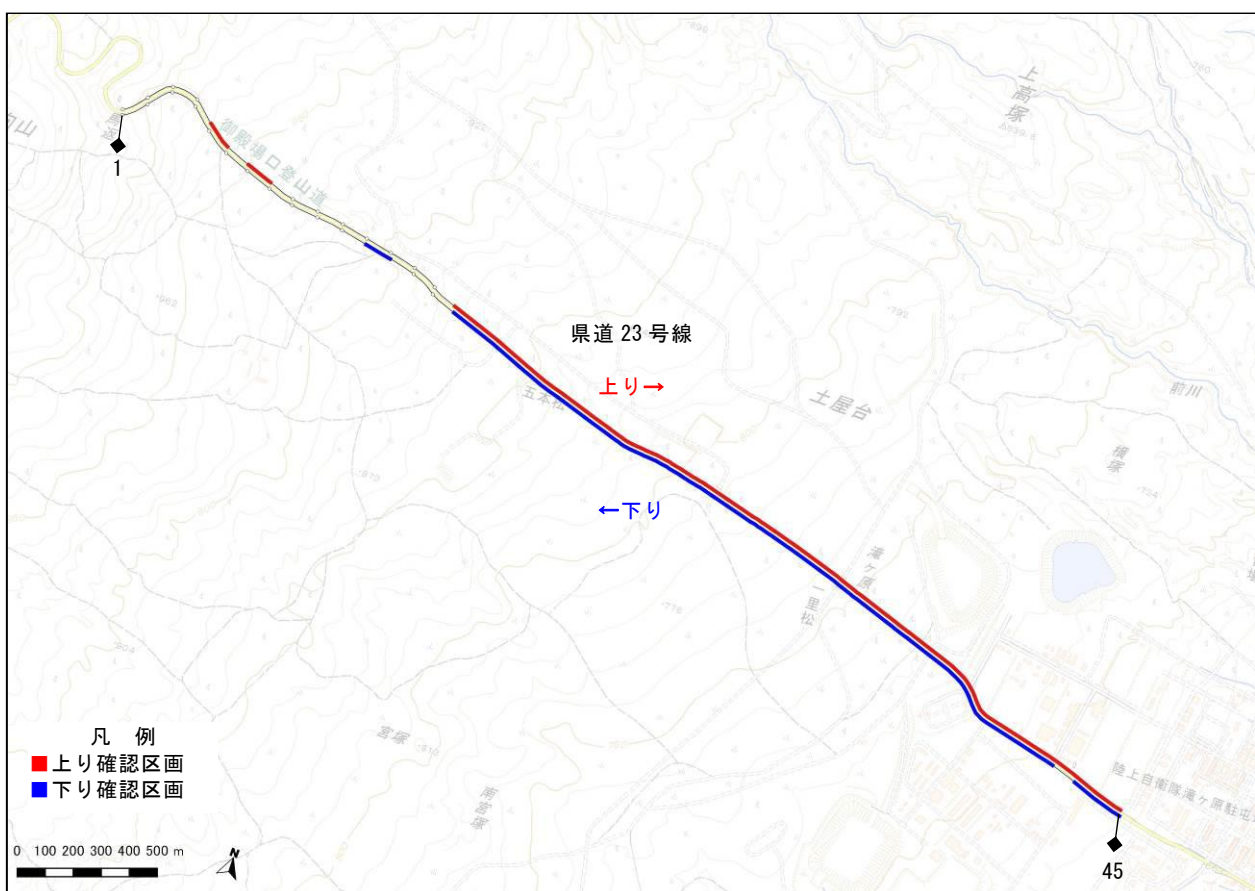


図 2.1.59 ハルガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.66 種の解説（ハルガヤ）

種名等 ¹⁾	ハルガヤ（イネ科） 別名・流通名：スイートバーナルグラス
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	里草地や山地草原。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。国内へは明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。
特徴 ^{1), 7)}	短命な多年草。茎は高さ 20-70cm になり、繊細で直立し、全体に多少の開出毛がある。開花期は 5-7 月。クマリンの香りがある。
生育環境 ¹⁾	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たり 良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。
影響 ¹⁾	里山の二次草原や山地の草原に侵入し、在来種と競合し、駆逐する。 耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 7) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

⑱ オオクサキビ（イネ科）

オオクサキビは、富士山スカイラインの下り線で 1 区画 2 地点 3 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の側溝であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。富士山スカイラインではオオクサキビの分布はわずかで、形態が類似するヌカキビ（在来種）の分布が多かった。

また、県道 23 号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.67 オオクサキビ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	1	2	3	1	2	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	3

表 2.1.68 オオクサキビ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 3
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 3
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)

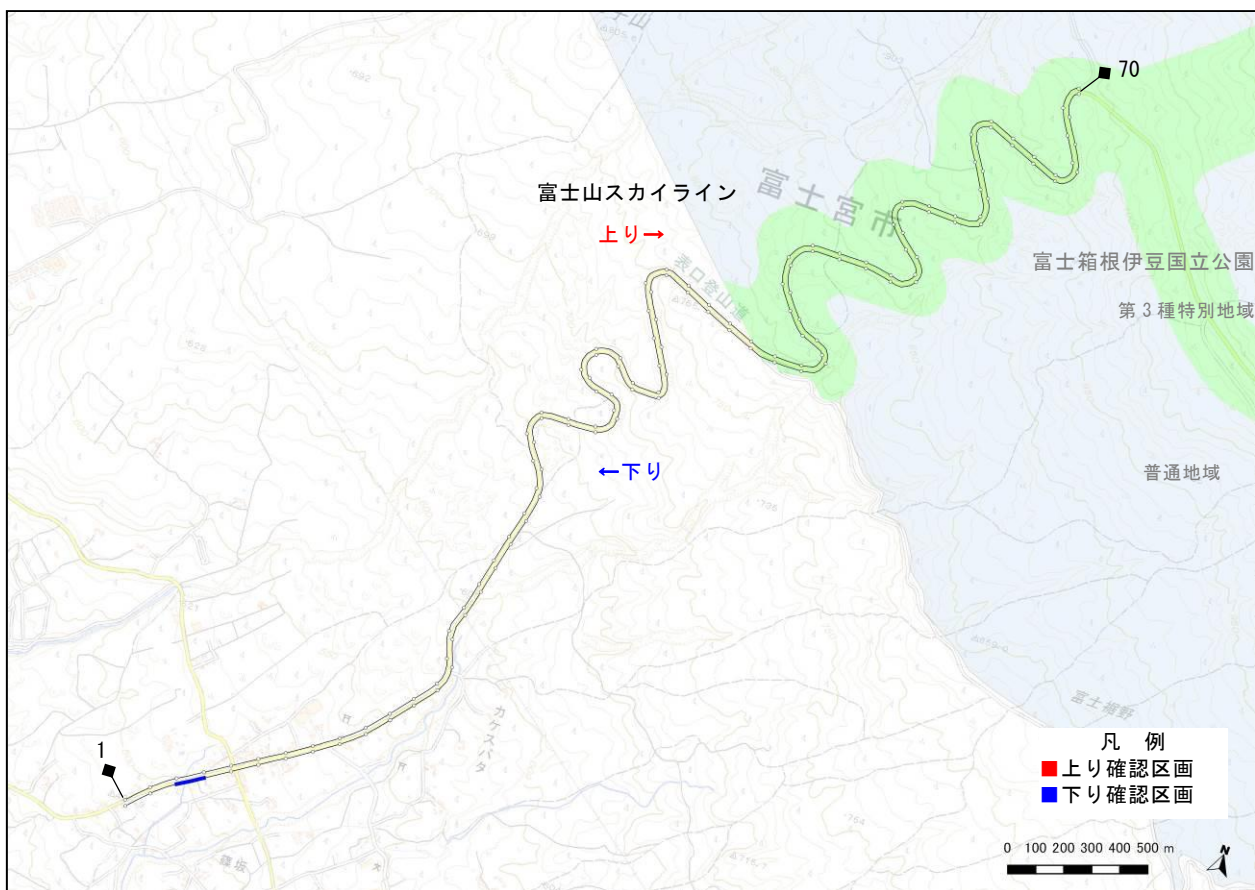


図 2.1.60 オオクサキビの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.61 オオクサキビの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.69 種の解説（オオクサキビ）

種名等 ¹⁾	オオクサキビ（イネ科） 別名・流通名：－
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	湿地や河川敷
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ニュージーランド等、温帯を中心に亜熱帯にまで分布する。1927年に千葉県に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 5)}	多年草。茎は太く、直立または斜上し、高さ 40cm-100cm。花期は 8-9 月。
生育環境 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、河川敷、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った所を好む。水田周辺、道端などに普通な雑草となっている。
影響 ¹⁾	河川敷への侵入が問題となっている。湿った場所を好むことから、希少種等が生育する湿地への侵入も懸念される。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 5) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

⑪ シマスズメノヒエ（イネ科）

シマスズメノヒエは、富士山スカイラインの上り線で1区画1地点3個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。9月調査時に開花・結実を確認した。富士山スカイラインではシマスズメノヒエの分布はわずかで、形態が類似するスズメノヒエ（在来種）の分布が多かった。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.70 シマスズメノヒエ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
1	1	3	-	-	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3

表 2.1.71 シマスズメノヒエ確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 1
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 1
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)

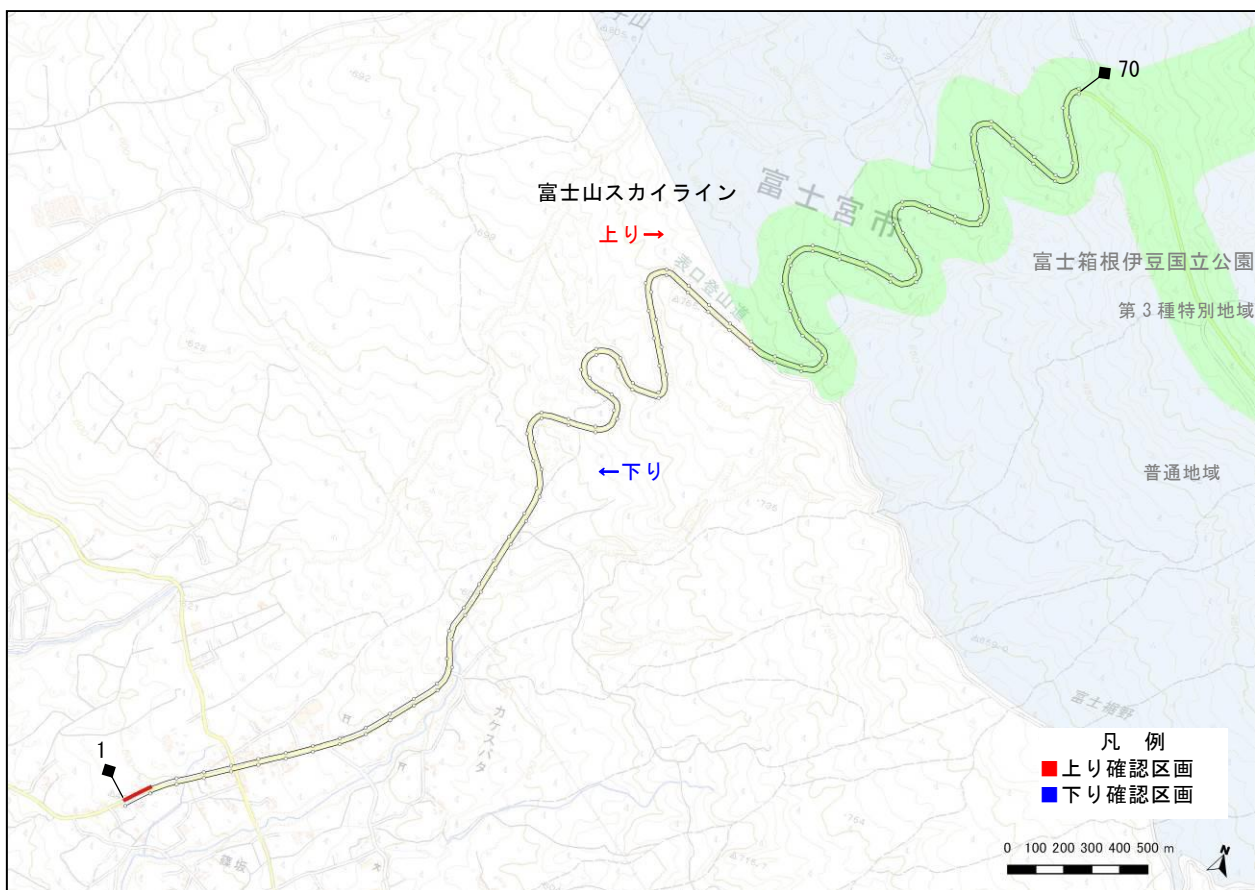


図 2.1.62 シマズメノヒエの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.63 シマズメノヒエの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.72 種の解説（シマスズメノヒエ）

種名等 ¹⁾	シマスズメノヒエ（イネ科） 別名・流通名：ダリスグラス
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	小笠原・南西諸島
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	里草地
原産地・分布 ¹⁾	南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布する。日本では、1915 年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布する。
特徴 ^{1), 4), 8)}	多年草。叢生し、高さ 50-150cm。花期は 7-9 月。種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。
生育環境 ¹⁾	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育する。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壤に適応する。
影響 ¹⁾	奄美諸島や小笠原の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 4) 清水建美(2003)日本の帰化植物, 平凡社.

出典 8) 杉本順一(1984)静岡県植物誌, 第一法規出版.

3) 適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

① ハリエンジュ（マメ科）

ハリエンジュは、県道 23 号線の下り線で 1 区画 6 地点 8 個体を確認した。確認地点の環境は林縁であった。開花・結実の確認はなかった。

また、富士山スカイラインでは生育の確認はなかった。

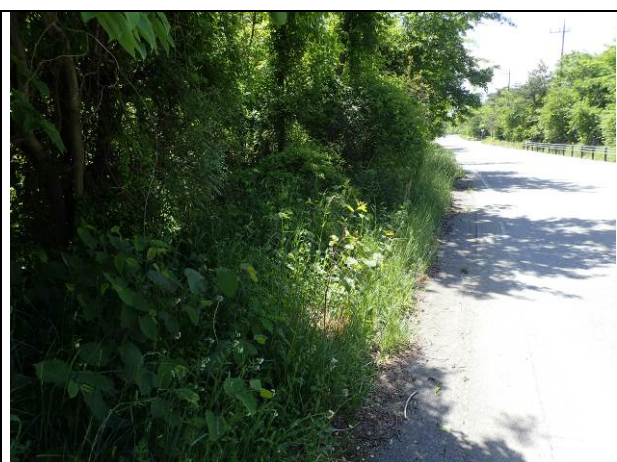
表 2.1.73 ハリエンジュ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	6	8	1	6	8	1	6	8

表 2.1.74 ハリエンジュ確認状況



県道 23 号線下り線区画 No. 38
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線下り線区画 No. 38
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



図 2.1.64 ハリエンジュの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.65 ハリエンジュの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.75 種の解説（ハリエンジュ）

種名等 ¹⁾	ハリエンジュ（マメ科） 別名・流通名：ニセアカシア
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河原、海岸林、リンゴ園の周辺
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ合原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラシア、南アメリカに分布。日本へは、明治8年の渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 3)}	落葉広葉樹で、高さ 25m にまでなる。開花は 5-6 月。虫媒の両性花をつける。豆果を付ける。実生による繁殖は旺盛である。土壌シードバンクを形成する。親株を中心に地下に伸びた根より萌芽して群落をつくる。切株からの萌芽も旺盛である。
生育環境等 ¹⁾	市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。
影響 ^{1), 3)}	河川を中心に分布を拡大しており、北海道他 9 県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。ハリエンジュが侵入した林では、好窒素性草本や、林縁・マント性つる植物が増加するのにもともない、群種の種多様性が減少することが報告されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

② コヌカグサ（イネ科）

コヌカグサは、富士山スカイラインの上り線で 3 区画 9 地点 245 個体、下り線で 2 区画 3 地点 165 個体、計 5 区画 12 地点 410 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.76 コヌカグサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
3	9	245	2	3	165	5	12	410	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	12	410

表 2.1.77 コヌカグサ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 30
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 30
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)

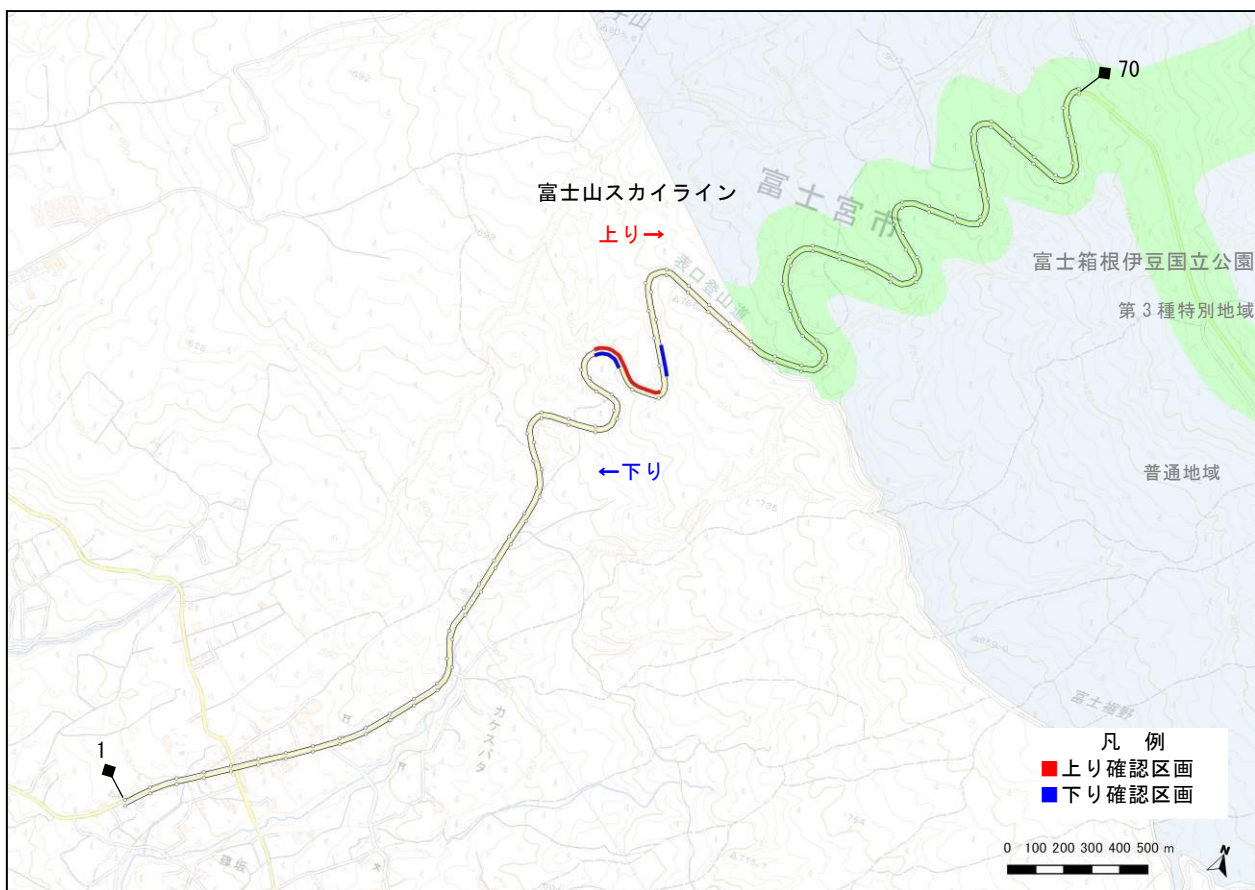


図 2.1.66 コヌカグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.67 コヌカグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.78 種の解説（コヌカグサ）

種名等 ¹⁾	コヌカグサ（イネ科） 別名・流通名：レッドトップ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	河川敷、絶滅危惧種のヌカボ属の生育地周辺
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。日本へは、明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）に分布する。
特徴 ^{1), 7)}	多年草。茎は50-100cm。種子、地下茎及び匍匐茎で繁殖する。小穂は長さ2-2.5mm、少し光沢があって赤褐色をおびる。花期は5-7月。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壤土に多く、やせた土地にも適応する。
影響 ¹⁾	青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 7) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

③ カモガヤ（イネ科）

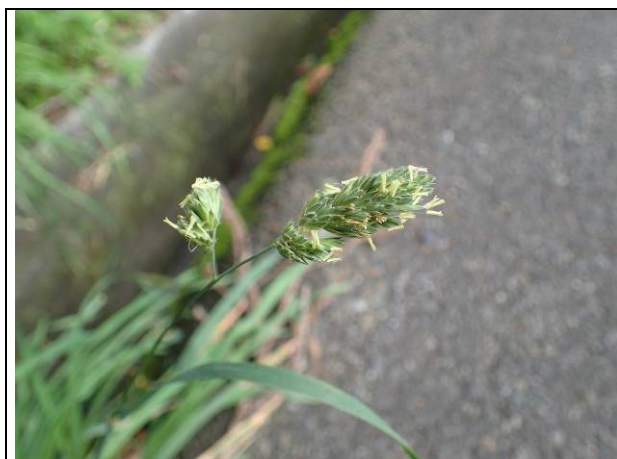
カモガヤは、富士山スカイラインの上り線で 13 区画 56 地点 460 個体、下り車線で 8 区画 14 地点 54 個体、計 21 区画 70 地点 514 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の林縁、草地等であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では、上り線で 20 区画 101 地点 831 個体、下り線で 32 区画 341 地点 3,839 個体、計 52 区画 442 地点 4,670 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の林縁、草地であった。5 月、7 月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.79 カモガヤ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
13	56	460	8	14	54	21	70	514	20	101	831	32	341	3,839	52	442	4,670	73	512	5,184

表 2.1.80 カモガヤ確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 8
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 8
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)

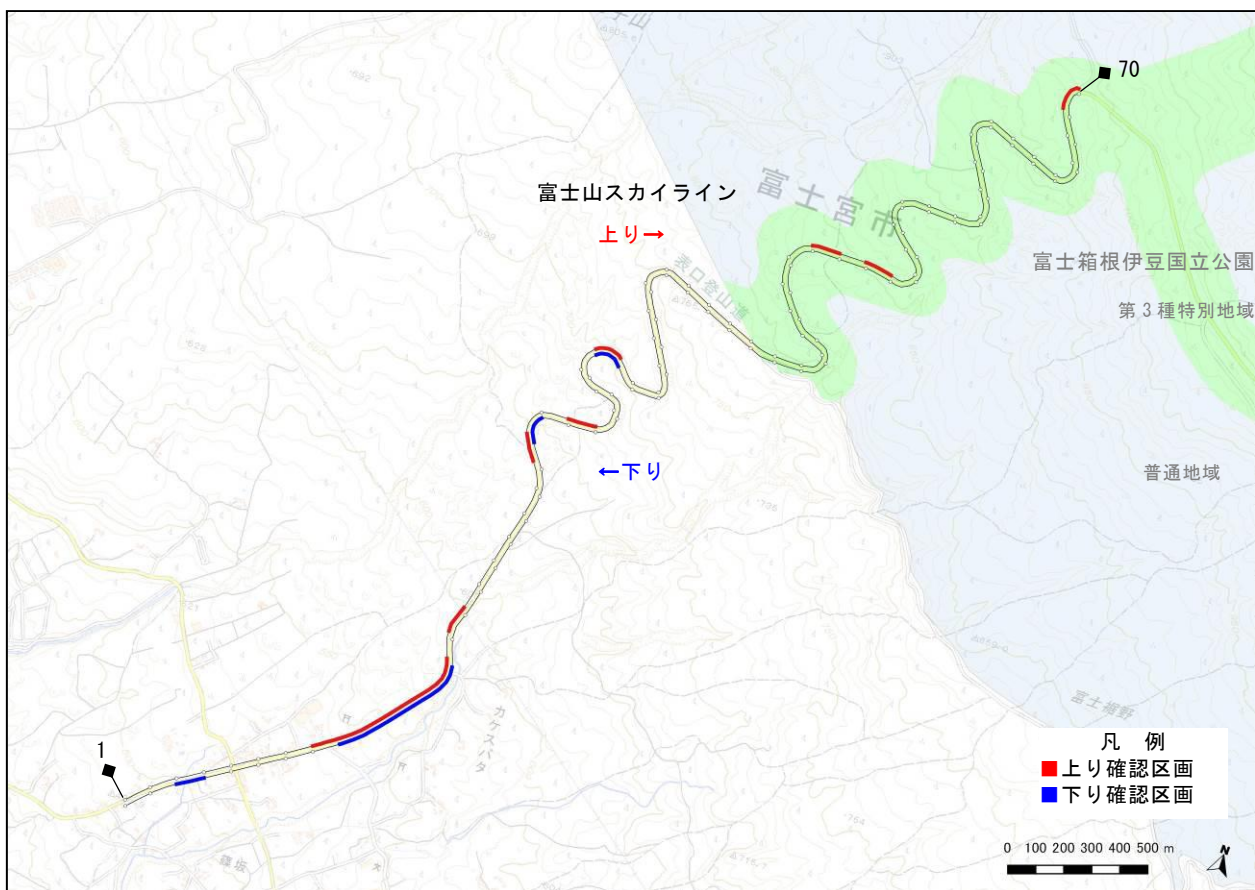


図 2.1.68 カモガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

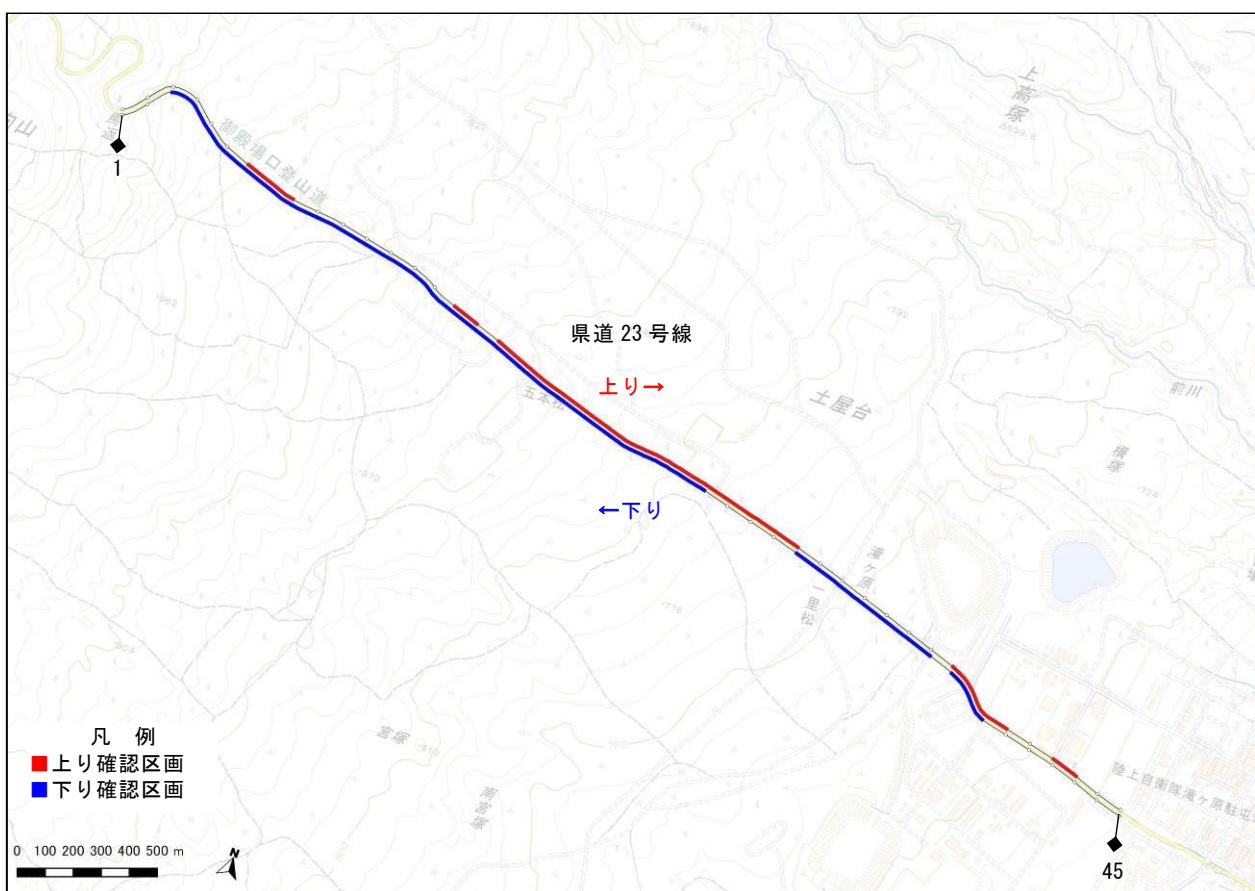


図 2.1.69 カモガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.81 種の解説（カモガヤ）

種名等 ¹⁾	カモガヤ（イネ科） 別名・流通名：オーチャードグラス
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	山地草原
原産地・分布 ¹⁾	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。国内へは 1861～1864 年（文久年間）に渡来。1868 年（明治初年）にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 0.4～1.5m。開花期は 7～8 月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれるほか、家畜に食べられても生存し、糞に伴って遠方に運ばれる場合がある。土壌中における種子の生存期間は 4 年以上に及ぶ。根茎により繁殖するが、根茎は短く匍匐茎を伸ばさない。再生力は旺盛である。
生育環境 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
影響 ¹⁾	里山の二次草原や、亜高山帯や山地の国立公園の自然草原で、在来種と競合し、駆逐する。攪乱された場所で密生し、在来の草本植物を抑制する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

④ オニウシノケグサ（イネ科）

オニウシノケグサは、富士山スカイラインの下り線で2区画2地点6個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。9月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.82 オニウシノケグサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	2	2	6	2	2	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	6

表 2.1.83 オニウシノケグサ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 27
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 27
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)

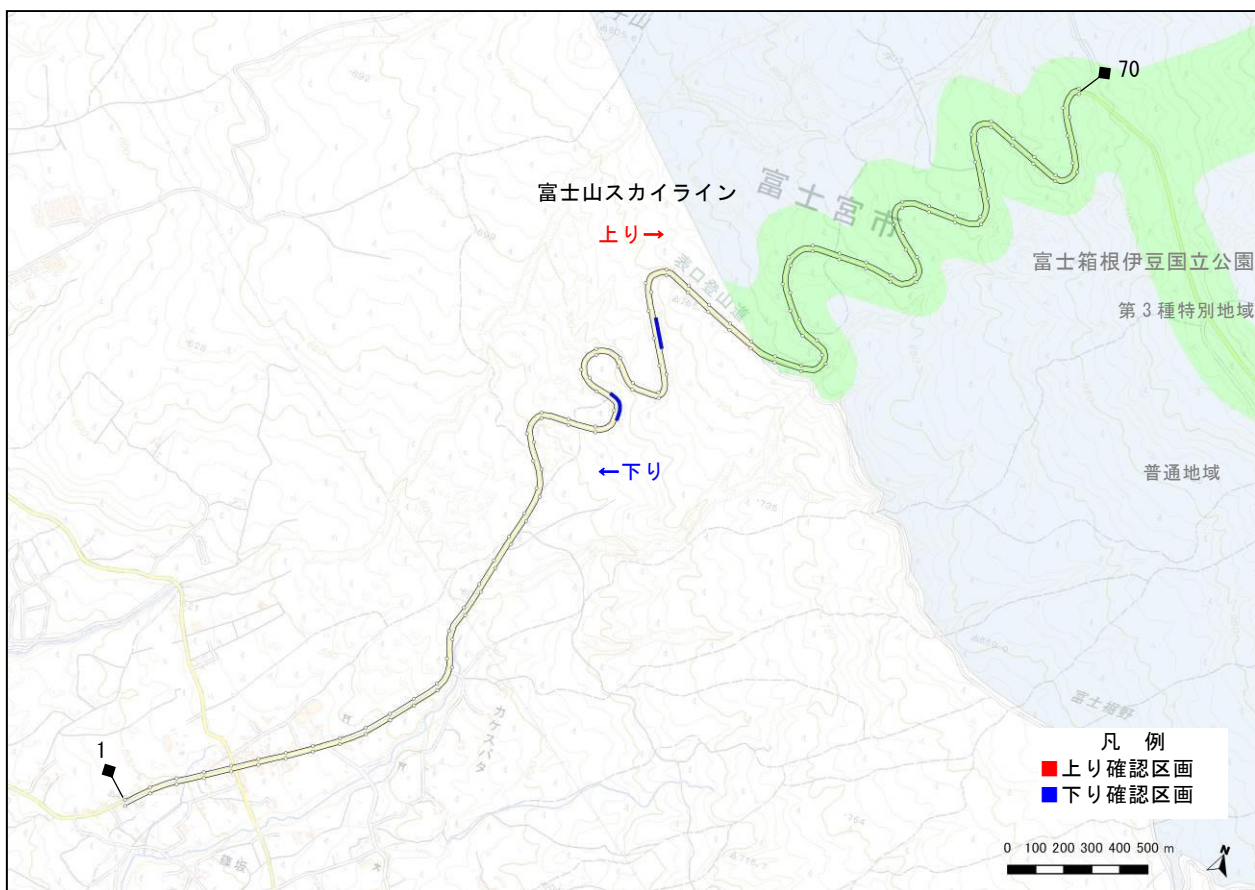


図 2.1.70 オニウシノケグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.71 オニウシノケグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.84 種の解説（オニウシノケグサ）

種名等 ¹⁾	オニウシノケグサ（イネ科） 別名・流通名：トールフェスク、ケンタッキー31 フェスク
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア原産。アフリカ南部、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、体制四諸島の亜寒帯～暖帯に分布する。日本へは、1905（明治 38）年に導入、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。亜高山帯の自然公園にも侵入。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さは 50-200cm 程度。花期は 7-10 月。両性花。風媒花。地下茎と地中深く伸びる根群により耐旱性がある上、耐暑性は寒地型牧草の中では最強である。耐寒性もある。
生育環境等 ¹⁾	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育する。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。
影響 ¹⁾	北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑤ ナギナタガヤ（イネ科）

ナギナタガヤは、富士山スカイラインの下り線で2区画2地点19個体を確認した。確認地点の環境は路傍であった。7月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

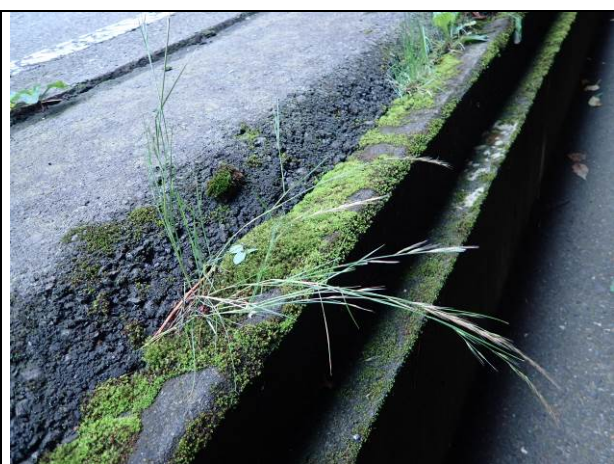
表 2. 1. 85 ナギナタガヤ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	2	2	19	2	2	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	19

表 2. 1. 86 ナギナタガヤ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 16
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 16
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)

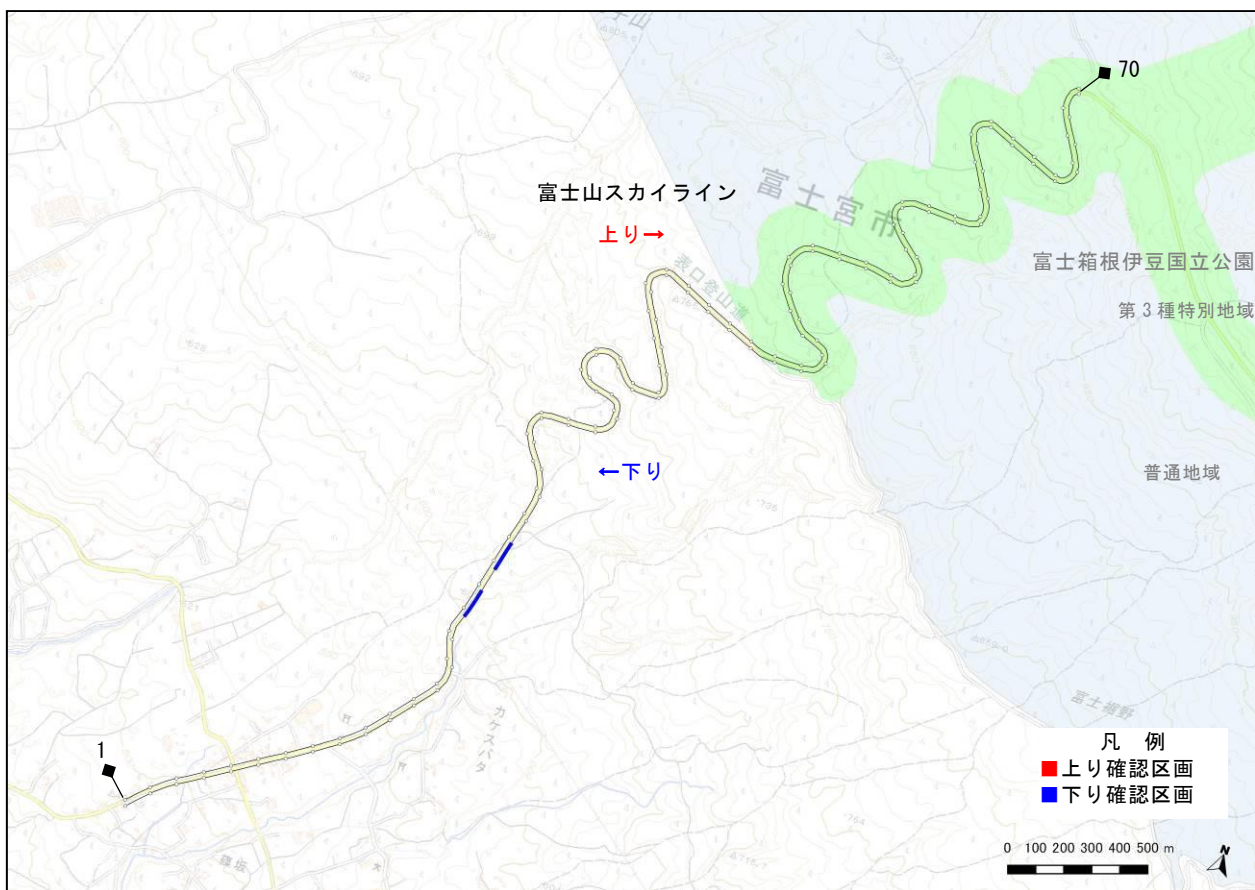


図 2.1.72 ナギナタガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.73 ナギナタガヤの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.87 種の解説（ナギナタガヤ）

種名等 ¹⁾	ナギナタガヤ（イネ科） 別名・流通名：ネズミノシッポ
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	海岸砂地、草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布する。オーストラリアでは侵略的である。日本へは、明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1), 7)}	一年草。高さ 60cm。株立ちとなって根茎がなく、全体に粉緑色をおびる。花期は 5-6 月。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。
影響 ¹⁾	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 7) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

⑥ オオアワガエリ

オオアワガエリは、県道 23 号線の上り線で 1 区画 1 地点 20 個体、下り線で 7 区画 9 地点 29 個体、計 8 区画 10 地点 49 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。

また、富士山スカイラインでは生育の確認はなかった。

表 2.1.88 オオアワガエリ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	20	7	9	29	8	10	49	8	10	49

表 2.1.89 オオアワガエリ確認状況



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 15
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



図 2.1.74 オオアワガエリの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.75 オオアワガエリの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.90 種の解説（オオアワガエリ）

種名等 ¹⁾	オオアワガエリ（イネ科） 別名・流通名：チモシー
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	亜高山帯や山地の草原。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパからシベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布する。日本へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。高標高地に多い。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。高さ 50-100cm。開花期は 6-8 月。両性花。風媒花。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
影響 ^{1), 3)}	自然草原への侵入が問題となっている。北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

⑦ マダケ（イネ科）

マダケは、富士山スカイラインの上り線で3区画5地点815個体、下り線で3区画7地点352個体、計6区画12地点1,167個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の竹林、植林であった。開花・結実の確認はなかった。

また、県道23号線では生育の確認はなかった。

表 2.1.91 マダケ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
3	5	815	3	7	352	6	12	1,167	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6	12	1,167

表 2.1.92 マダケ確認状況

	
富士山スカイライン上り線区画 No. 3 (平成 29 年 7 月 6 日撮影)	富士山スカイライン上り線区画 No. 3 (平成 29 年 7 月 6 日撮影)

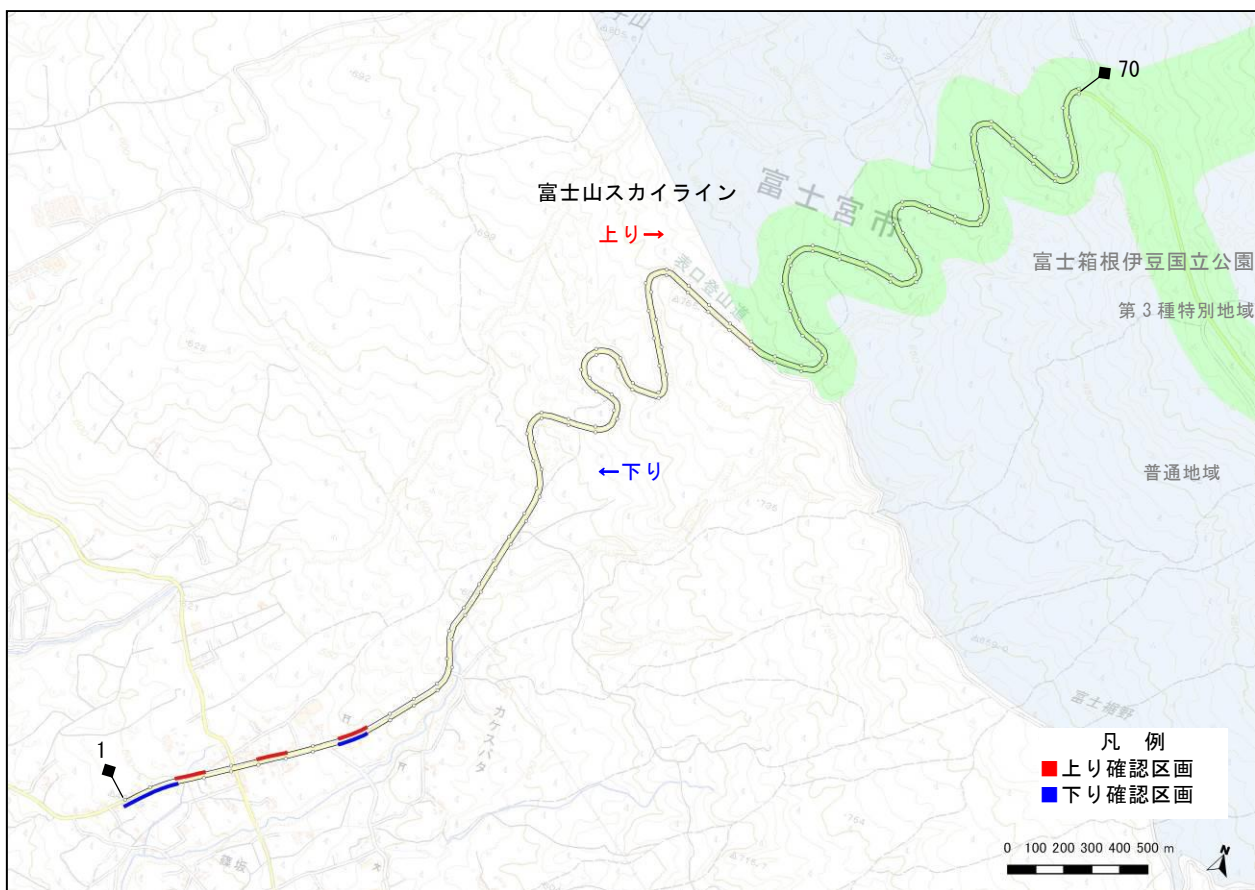


図 2.1.76 マダケの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.77 マダケの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.93 種の解説（マダケ）

種名等 ¹⁾	マダケ（イネ科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：モウソウチクなどの竹類
カテゴリ	生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 Ⅴ．生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の要件 ¹⁾	
特に問題になる地域や環境 ¹⁾	二次林、自然林
原産地・分布 ¹⁾	モウソウチクは中国原産。マダケは中国原産説もあったが日本原産らしい。ハチクは中国原産説と日本原産説がある。日本へは、モウソウチクは江戸時代に渡来。北海道南部から九州で栽培、逸出。マダケは本州、四国、九州、沖縄で栽培。ハチクは北海道中部以南から沖縄で栽培。
特徴 ¹⁾	約 20m、木本。
生育環境等 ¹⁾	植林地、里山の二次林や自然林にも侵入し、林床の環境も変えてしまう。
影響 ¹⁾	広島県では、竹類のうちマダケとハチクが特に二次林等に侵入、拡大し、環境を改変することで問題になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

4) 過年度調査で調査対象としていた外来種

① メマツヨイグサ（アカバナ科）

メマツヨイグサは、富士山スカイラインの上り線で8区画 10 地点 35 個体、下り線で5区画 9 地点 12 個体、計 13 区画 19 地点 47 個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地、側溝等であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では、上り線で2区画 6 地点 7 個体、下り線で8区画 16 地点 48 個体、計 10 区画 22 地点 55 個体を確認した。確認地点の環境は草地であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.94 メマツヨイグサ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
8	10	35	5	9	12	13	19	47	2	6	7	8	16	48	10	22	55	23	41	102

表 2.1.95 メマツヨイグサ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 8
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 8
平成 29 年 9 月 20 日



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)

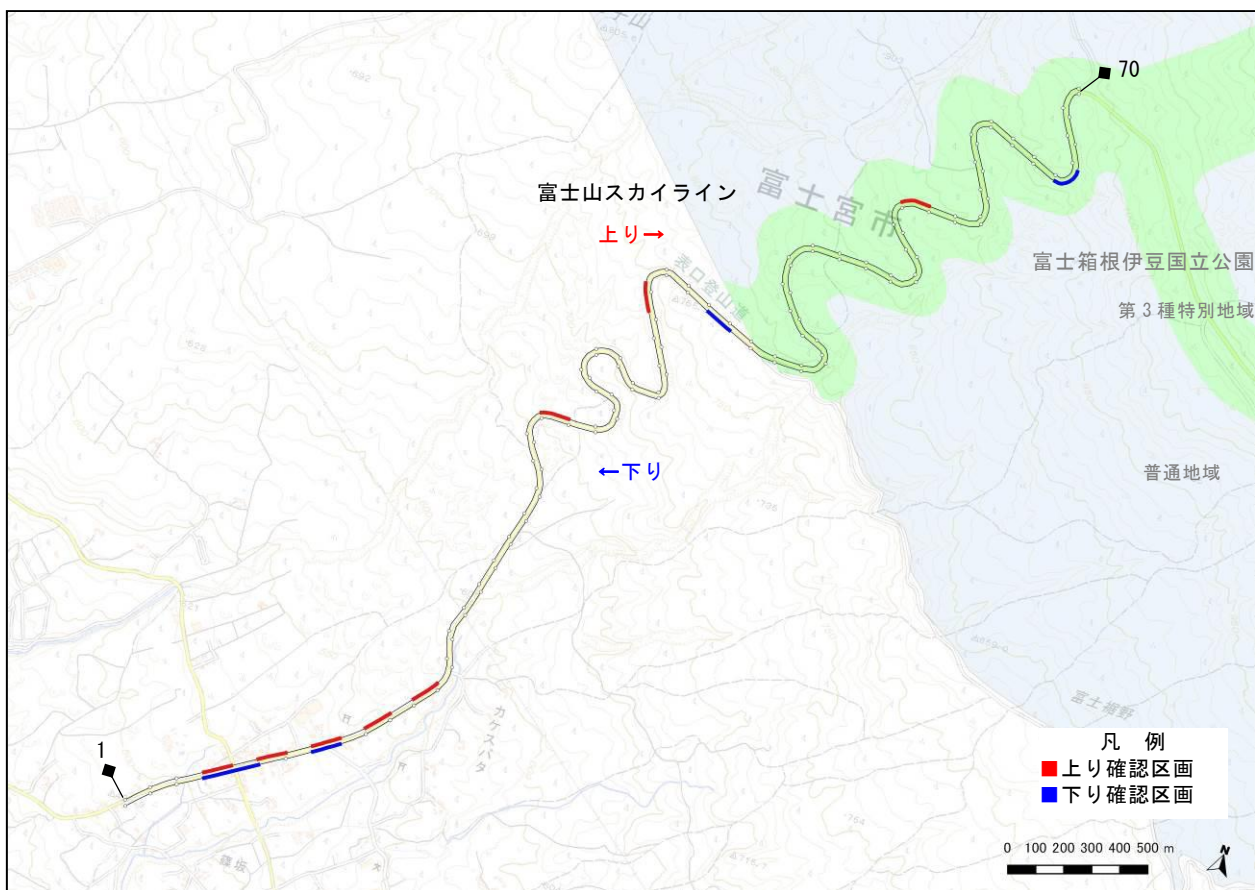


図 2.1.78 メマツヨイグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン



図 2.1.79 メマツヨイグサの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.96 種の解説（メマツヨイグサ）

種名等 ³⁾	メマツヨイグサ（アカバナ科） 別名：－
カテゴリ	過年度調査で調査対象としていた外来種 （旧要注意外来生物）
定着段階 ⁴⁾	分布拡大～まん延期
原産地・分布 ³⁾	北アメリカ原産、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリアに分布する。日本へは 1920 年代に観賞用として導入された。全国に分布する。
特徴 ³⁾	一年草～越年草。高さは 30-200cm。花期は 6-10 月。両性花。蒴果は風、雨、鳥により伝播される。自家和合性がある。1 個体当たりの種子の生産量は 5,000-100,000 個との報告がある。種子の寿命は、数年～数 10 年との報告がある。
生育環境 ³⁾	畑地、牧草地、樹園地、路傍、河川敷、荒地、草地などに生育する。開けた攪乱された場所を好むが適応力は大きい。燐含量が少ない土壌でもよく生育する。
影響 ³⁾	亜高山帯や砂丘等にも侵入し、在来種との競合のおそれがあるとして問題になっている。上高地への侵入がみられ、特に注意を要する種類のひとつとされている。鳥取砂丘では、非砂丘植物の一つとして、分布の拡大が問題になっている。

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 4) 平成 26 年度第 1 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議 議事次第・資料

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist.html>)

② ヘラオオバコ（オオバコ科）

ヘラオオバコは、富士山スカイラインの上り線で7区画12地点142個体、下り線で6区画17地点101個体、計13区画29地点243個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。7月調査時に開花を確認した。

また、県道23号線では、上り線で8区画14地点39個体、下り線で7区画72地点5,846個体、計15区画86地点5,885個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地等であった。5月調査時に開花を確認した。

表 2.1.97 ヘラオオバコ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
7	12	142	6	17	101	13	29	243	8	14	39	7	72	5,846	15	86	5,885	28	115	6,128

表 2.1.98 ヘラオオバコ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 44
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 44
(平成 29 年 7 月 6 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 27
(平成 29 年 5 月 23 日撮影)

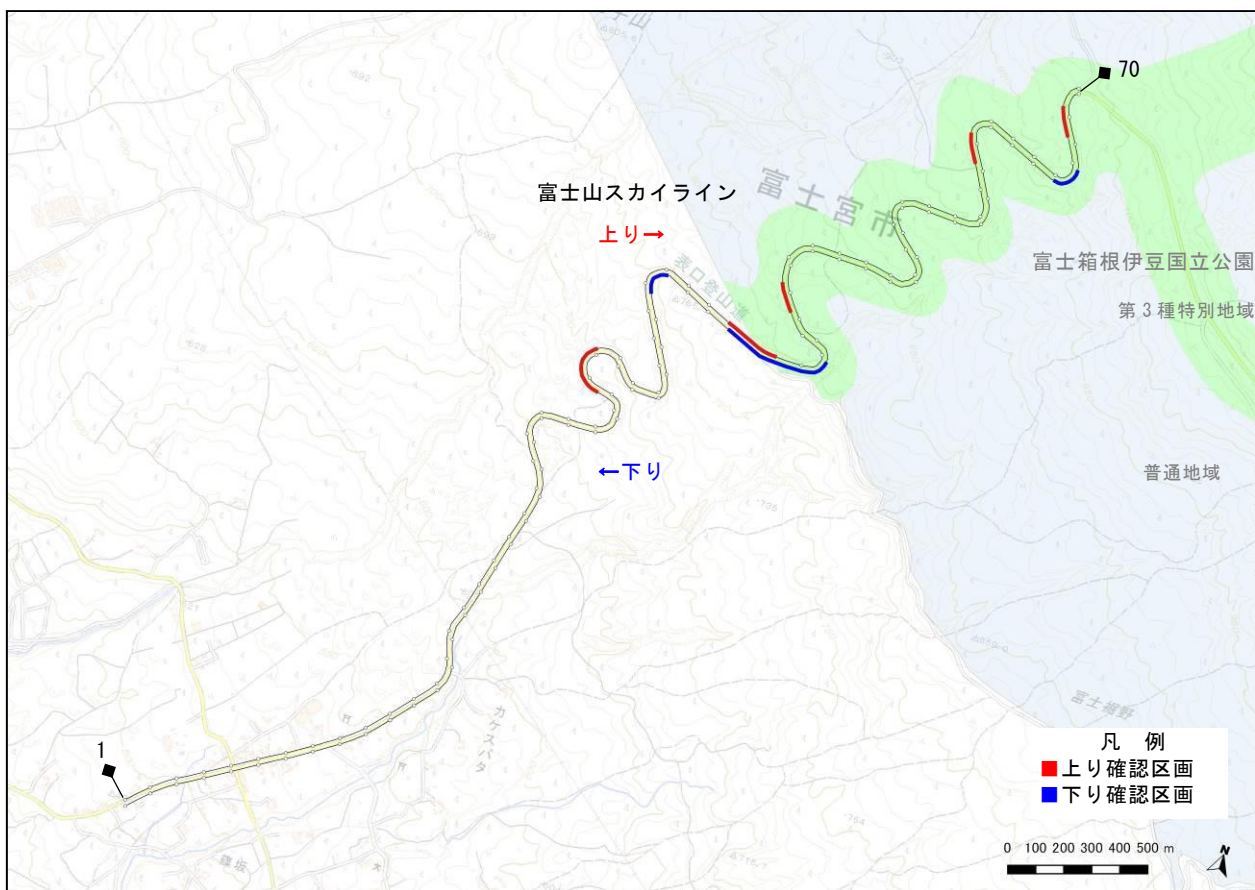


図 2.1.80 ヘラオオバコの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

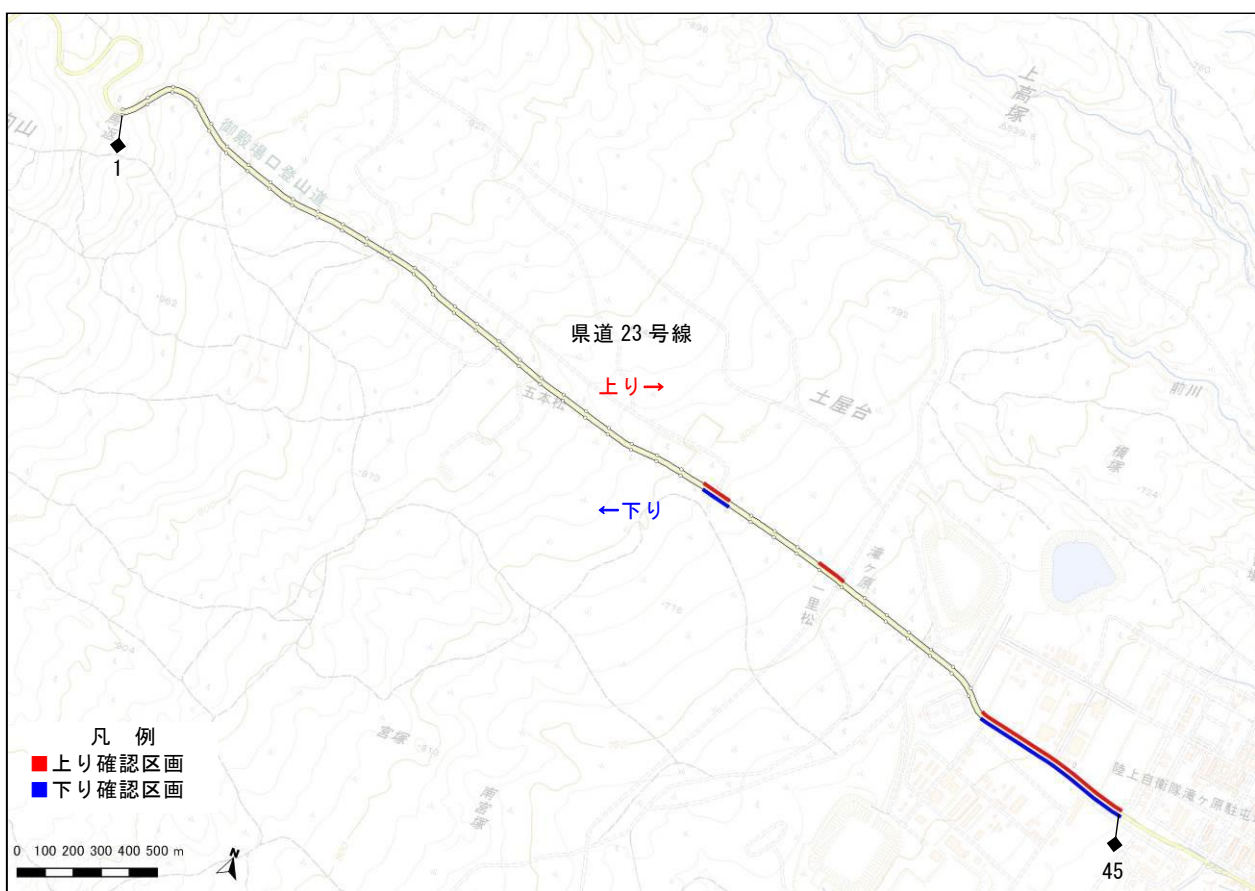


図 2.1.81 ヘラオオバコの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.99 種の解説（ヘラオオバコ）

種名等 ³⁾	ヘラオオバコ（オオバコ科） 別名：－
カテゴリ	過年度調査で調査対象としていた外来種 （旧要注意外来生物）
定着段階 ⁴⁾	分布拡大～まん延期
原産地・分布 ³⁾	ヨーロッパ原産、世界中に分布する。江戸時代末期に、非意図的導入（牧草種子に混入）により侵入したとされる。全国に分布する。
特徴 ³⁾	多年草。高さは 20-70cm。花期は 4-8 月。両性花。蒴果は風、雨、動物（胃中でも生存）、人間などにより伝播される。1 個体当たりの種子生産量は、発生密度により 68-10,000 個以上になるとの報告がある。種子の寿命は 5 年程度との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境 ³⁾	寒帯～熱帯に分布する。畑地、樹園地、牧草地、芝地、路傍、荒地、空地、河川敷などに生育する。日当たりの良い所から日陰地まで生育する。温度適応性が大きい。土壤環境への適応性も高い。
影響 ³⁾	繁殖力が強く、主に河川敷に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがある

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 4) 平成 26 年度第 1 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議 議事次第・資料

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist.html>)

③ オオアレチノギク（キク科）

オオアレチノギクは、富士山スカイラインの上り線で 36 区画 98 地点 234 個体、下り線で 37 区画 87 地点 165 個体、計 73 区画 185 地点 399 個体を確認した。富士山スカイラインでは、上下線ともに全体に広く分布がみられた。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では、上り線で 5 区画 25 地点 71 個体、下り線で 4 区画 17 地点 28 個体、計 9 区画 42 地点 99 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.100 オオアレチノギク確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
36	98	234	37	87	165	73	185	399	5	25	71	4	17	28	9	42	99	82	227	498

表 2.1.101 オオアレチノギク確認状況



富士山スカイライン上り線区画 No. 21
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン上り線区画 No. 21
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 41
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 41
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)

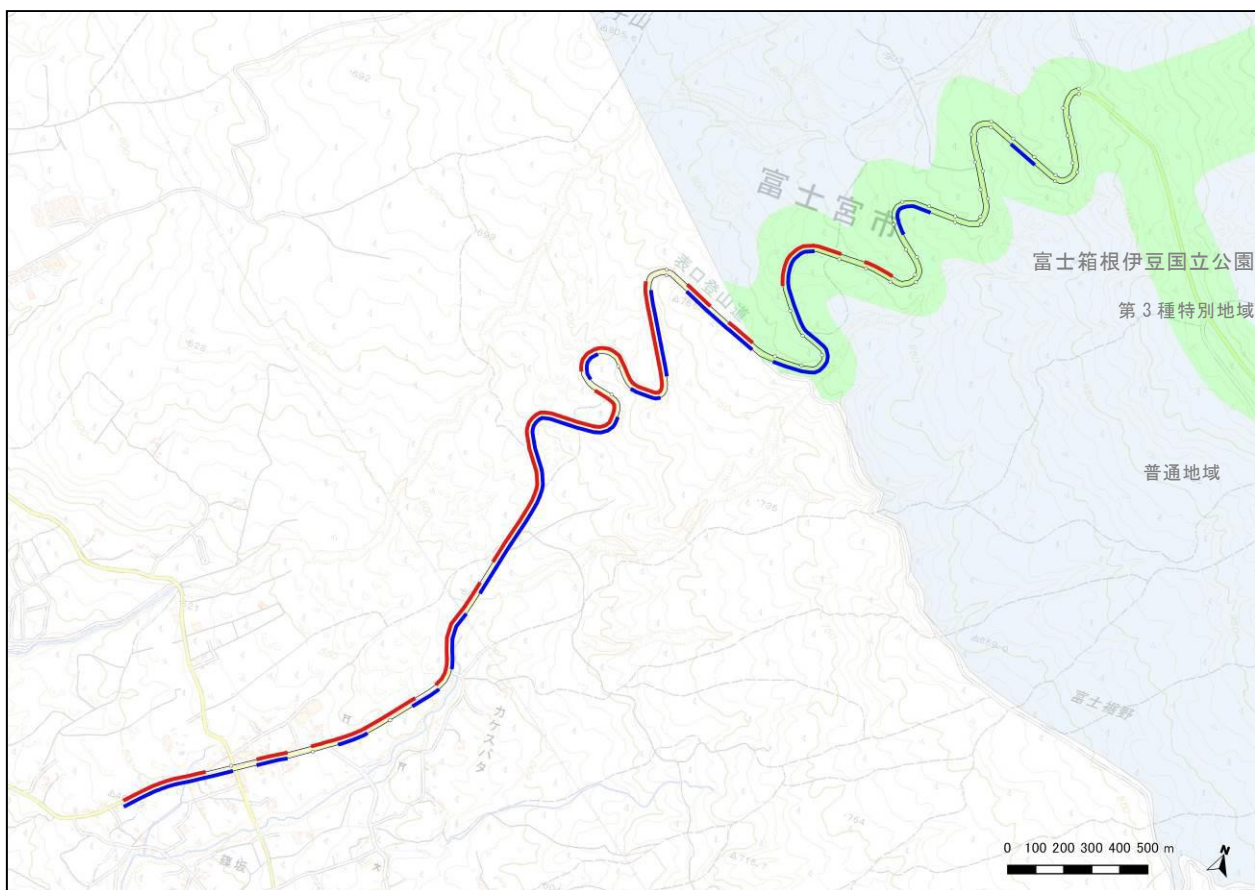


図 2.1.82 オオアレチノギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

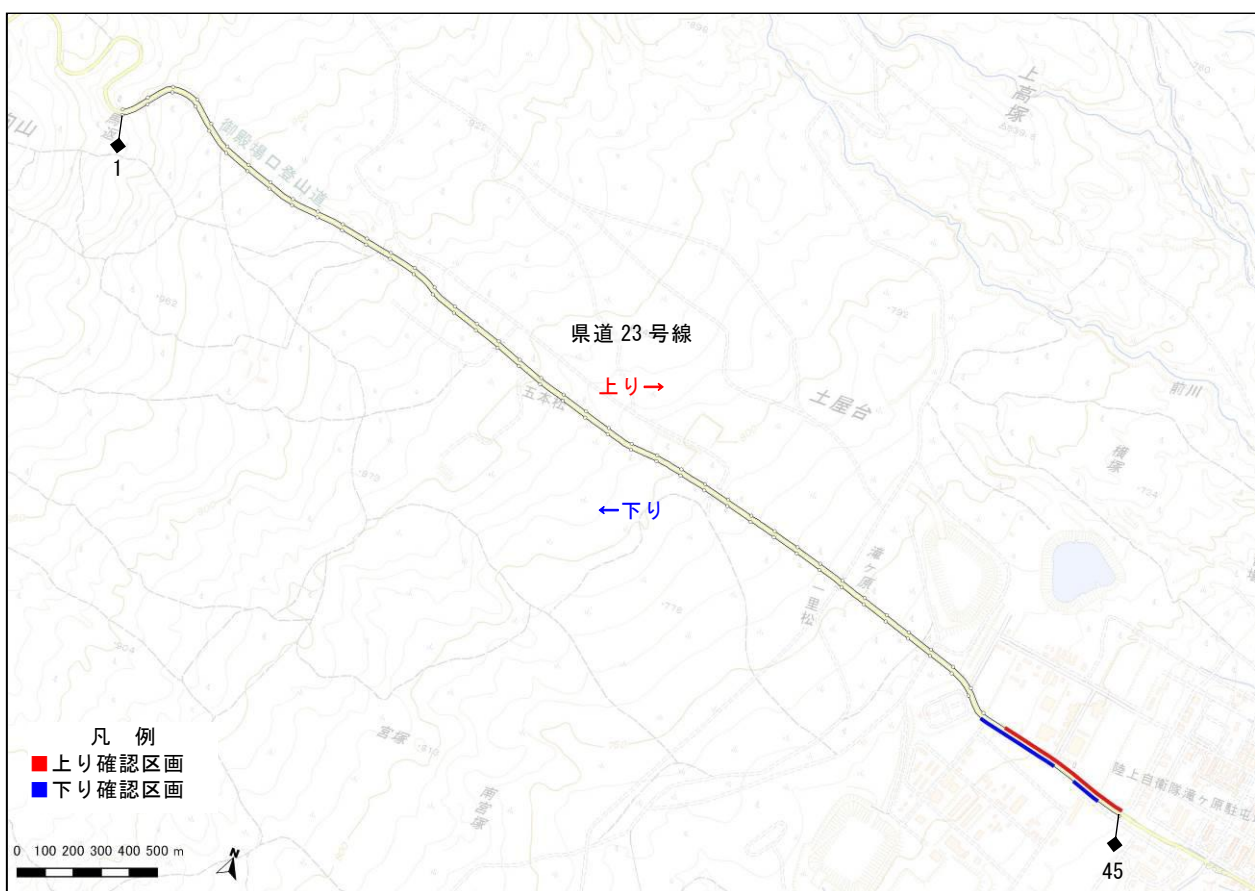


図 2.1.83 オオアレチノギクの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.102 種の解説（オオアレチノギク）

種名等 ³⁾	オオアレチノギク（キク科） 別名：オオムカシヨモギ
カテゴリ	過年度調査で調査対象としていた外来種 （旧要注意外来生物）
定着段階 ⁴⁾	分布拡大～まん延期
原産地・分布 ³⁾	ヨーロッパ原産、世界中に分布する。江戸時代末期に、非意図的導入（牧草種子に混入）により侵入したとされる。全国に分布する。
特徴 ³⁾	多年草。高さは0.2～0.7m。開花期は4～8月。両性花。蒴果は風、雨、動物（胃中でも生存）、人間などにより伝播される。1個体当たりの種子生産量は、発生密度により68～10,000個以上になるとの報告がある。種子の寿命は5年程度との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ³⁾	寒帯～熱帯に分布する。畑地、樹園地、牧草地、芝地、路傍、荒地、空地、河川敷などに生育する。日当たりの良い所から日陰地まで生育する。温度適応性が大きい。土壤環境への適応性も高い。
影響 ³⁾	繁殖力が強く、主に河川敷に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがある

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 4) 平成 26 年度第 1 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議 議事次第・資料

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist.html>)

④ ヒメムカシヨモギ（キク科）

ヒメムカシヨモギは、富士山スカイラインの上り線で 20 区画 47 地点 75 個体、下り線で 15 区画 32 地点 48 個体、計 35 区画 79 地点 123 個体を確認した。富士山スカイラインでは、上下線ともに全体に広く分布がみられた。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では、上り線で 4 区画 5 地点 10 個体、下り線で 6 区画 15 地点 51 個体、計 10 区画 20 地点 61 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。9 月調査時に開花・結実を確認した。

表 2.1.103 ヒメムカシヨモギ確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
20	47	75	15	32	48	35	79	123	4	5	10	6	15	51	10	20	61	45	99	184

表 2.1.104 ヒメムカシヨモギ確認状況



富士山スカイライン下り線区画 No. 32
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



富士山スカイライン下り線区画 No. 32
(平成 29 年 9 月 20 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 37
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)



県道 23 号線上り線区画 No. 37
(平成 29 年 9 月 19 日撮影)

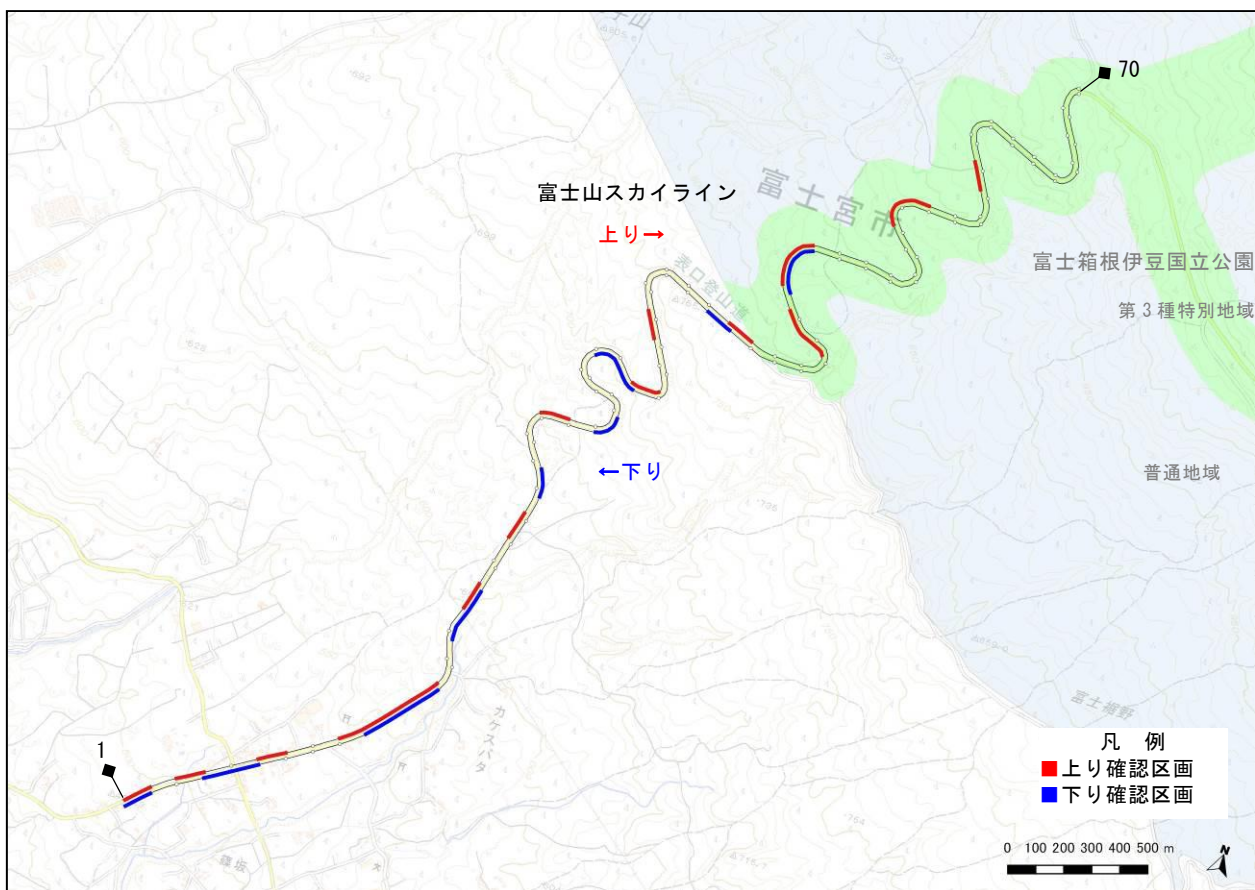


図 2.1.84 ヒメムカシヨモギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

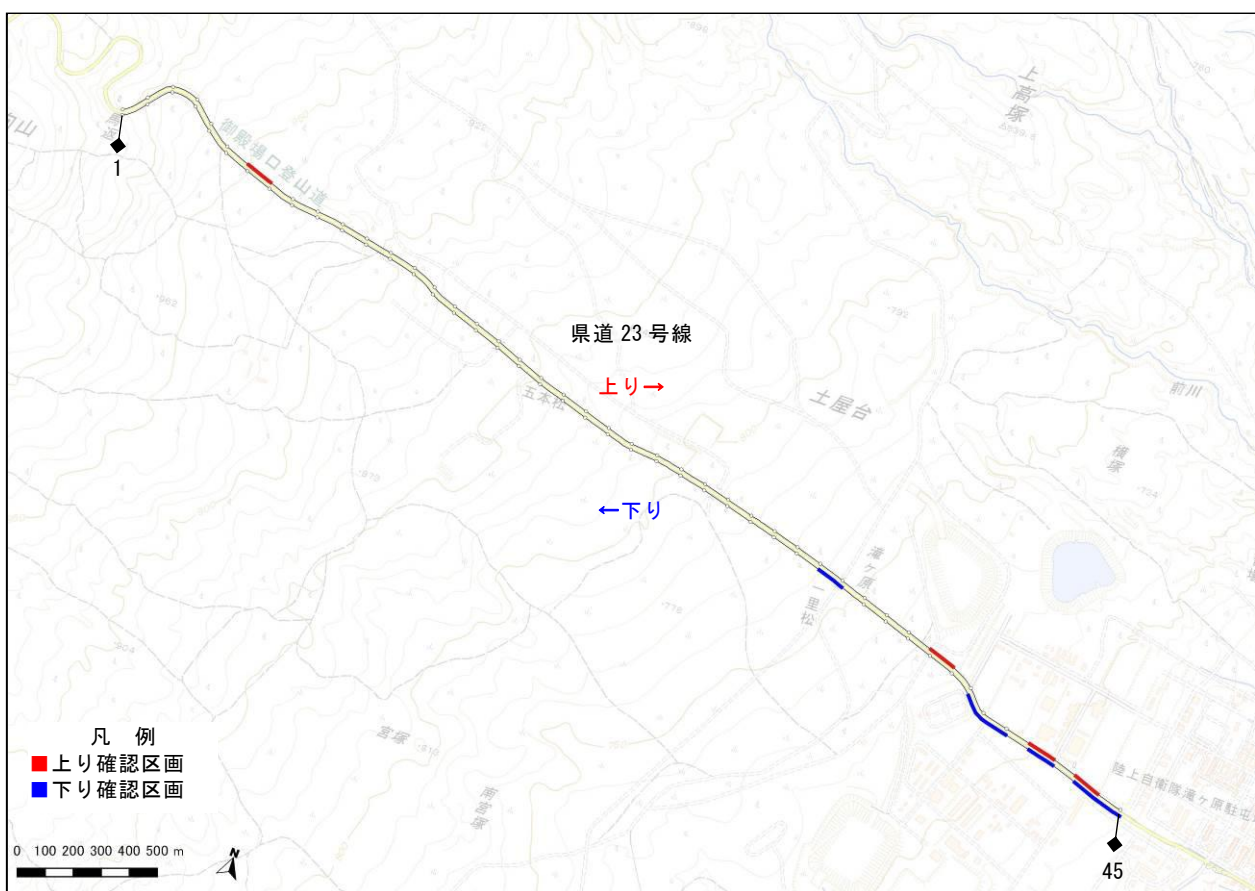


図 2.1.85 ヒメムカシヨモギの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.105 種の解説（ヒメムカシヨモギ）

種名等 ³⁾	ヒメムカシヨモギ（キク科） 別名：－
カテゴリ	過年度調査で調査対象としていた外来種 （旧要注意外来生物）
定着段階 ⁴⁾	分布拡大～まん延期
原産地・分布 ³⁾	ヨーロッパ原産、世界中に分布する。江戸時代末期に、非意図的導入（牧草種子に混入）により侵入したとされる。全国に分布する。
特徴 ³⁾	多年草。高さは 20-70cm。花期は 4-8 月。両性花。蒴果は風、雨、動物（胃中에서도生存）、人間などにより伝播される。1 個体当たりの種子生産量は、発生密度により 68-10,000 個以上になるとの報告がある。種子の寿命は 5 年程度との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境 ³⁾	寒帯～熱帯に分布する。畑地、樹園地、牧草地、芝地、路傍、荒地、空地、河川敷などに生育する。日当たりの良い所から日陰地まで生育する。温度適応性が大きい。土壤環境への適応性も高い。
影響 ³⁾	繁殖力が強く、主に河川敷に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがある

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 4) 平成 26 年度第 1 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議 議事次第・資料

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist.html>)

⑤ ハルジオン（キク科）

ハルジオンは、富士山スカイラインの上り線で 62 区画 428 地点 12,506 個体、下り線で 60 区画 361 地点 3,481 個体、計 122 区画 789 地点 15,987 個体を確認した。富士山スカイラインでは、上下線ともに広く分布がみられた。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地等であった。5 月調査時に開花・結実を確認した。

また、県道 23 号線では、上り線で 36 区画 132 地点 700 個体、下り線で 32 区画 152 地点 1,185 個体、計 68 区画 284 地点 1,885 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、道路脇の草地であった。5 月調査時に開花を確認した。

表 2.1.106 ハルジオン確認結果

富士山スカイライン									県道 23 号線									総計		
上り線			下り線			小計			上り線			下り線			小計					
区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
62	428	12,506	60	361	3,481	122	789	15,987	36	132	700	32	152	1,185	68	284	1,885	190	1,073	17,872

表 2.1.107 ハルジオン確認状況

	
富士山スカイライン上り線区画 No. 41 (平成 29 年 5 月 12 日撮影)	富士山スカイライン上り線区画 No. 41 (平成 29 年 5 月 12 日撮影)
	
県道 23 号線上り線区画 No. 2 (平成 29 年 5 月 23 日撮影)	県道 23 号線上り線区画 No. 2 (平成 29 年 5 月 23 日撮影)

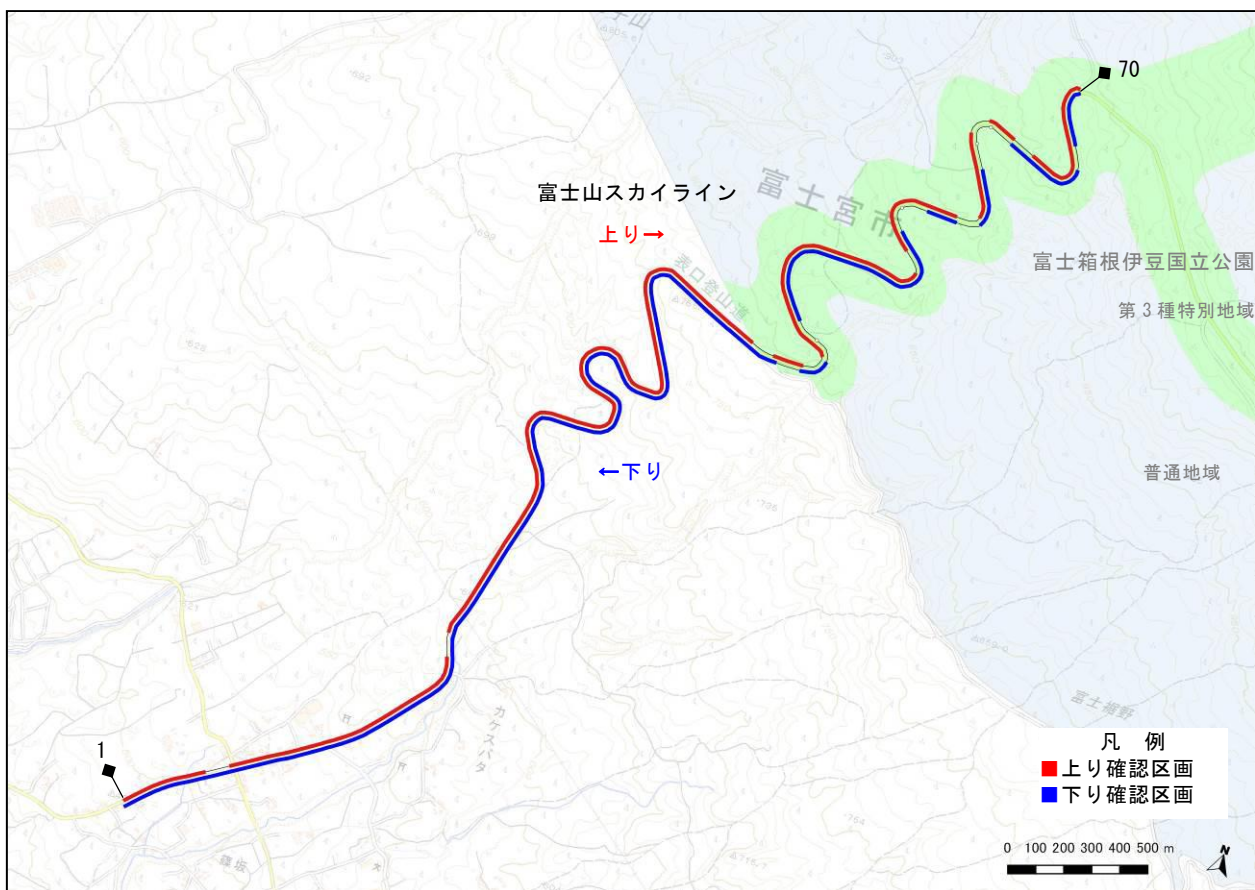


図 2.1.86 ハルジオンの確認位置図(図中の数字は区画番号) 富士山スカイライン

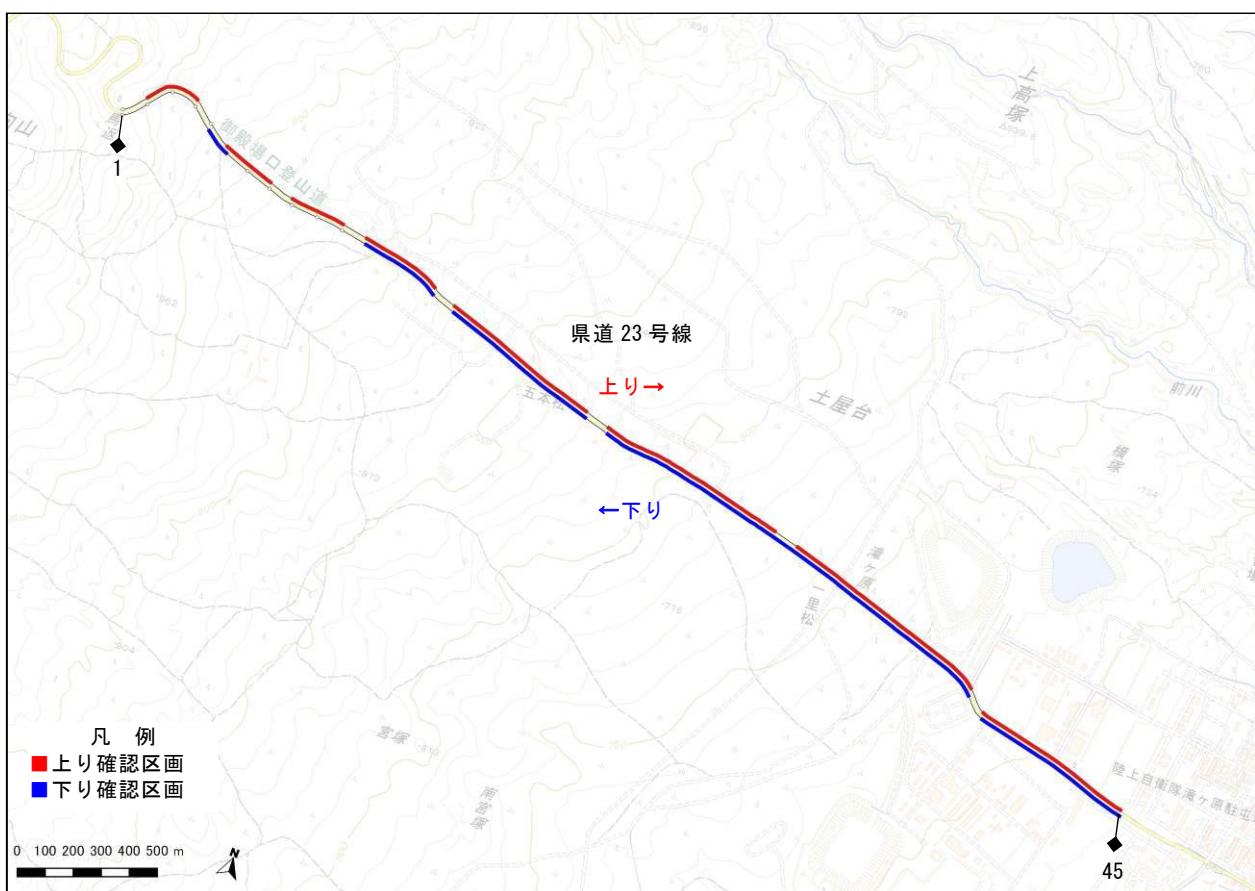


図 2.1.87 ハルジオンの確認位置図(図中の数字は区画番号) 県道 23 号線

表 2.1.108 種の解説（ハルジオン）

種名等 ³⁾	ハルジオン（キク科） 別名：ハルシオン、ハルジョオン
カテゴリ	過年度調査で調査対象としていた外来種 （旧要注意外来生物）
定着段階 ⁴⁾	分布拡大～まん延期
原産地・分布 ³⁾	北アメリカ原産、東アジアに分布する。国内へは、1920 年頃に観賞用に導入された。全国に分布する。
特徴 ³⁾	一年草～多年草。高さは 30-100cm である。花期は 4-8 月。頭状花。虫媒花。瘦果は風、雨、動物、人間により伝播される。根茎により繁殖する。
生育環境 ³⁾	水田畦畔、牧草地、路傍、畑地、堤防、荒地などに生育する。窒素分の多い場所を好む。
影響 ³⁾	繁殖力や定着力が強く、在来種と競合し駆逐のおそれがある。抜き取り、刈り取り、除草剤の散布によって防除が行われている。刈り取りや踏みつけに耐性が強いとされる。

出典 3) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

出典 4) 平成 26 年度第 1 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議 議事次第・資料

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist.html>)